TMDU

2024年 大学案内

UNIVERSITY GUIDE 2024

国立大学法人

東京医科歯科大学

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

学長メッセージ

本学は、首都東京にある医療系国立大学として新型コロナウイルス感染対策に正面から立ち向かった大学です。

2020年４月、「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」「試行錯誤を大切に」「責めるより応援しよう」をモットーに大学、病院一丸で取り組んできました。本学の取り組みは社会の大きな反響を呼び、多くのご支援を頂きました。このことは本学が社会と共にあることを再認識することとなりました。

また、本学は、2022年４月、「世界屈指のトータル・ヘルスケア・サイエンス拠点の形成」という目標を掲げ、本学は全国で10大学、医系に特化した大学では唯一の指定国立大学法人になりました。

即ち、トータル・ヘルスケア・サイエンスはこれから本学が社会と共に歩んでいくためのキーワードなのです。

この目標の実現にはすべての医療職の連携が不可欠です。高度で円滑なチーム医療を実現するためには、自分の領域を知ることは勿論、他の領域を理解することも重要です。本学では、医学部、歯学部、教養部と二つの研究所が協調し、医学・歯学・バイオサイエンスからデータサイエンスに至る医療全般を学ぶ環境が整っています。しかし、良い医療を行おうとして頑張れば頑張るほど、医学、歯学の領域を超える部分が必要になり、それを解決するのが工学だと考え、2022年10月、東京工業大学と統合に向けた基本合意書を締結しました。

偉大な科学者、チャールズ・ダーウィンはかつて、「生き残るのは環境の変化に最も対応した生物である」と言いました。私たちは変化する状況に適応しなければなりません。東京工業大学との統合は、まさに「環境の変化への適応」のひとつです。

本学の教育目標は、Clinician Scientist（医療の視点を持った研究者）とScientific Clinician（科学的視点を持った医療者）の養成ですが、新大学がこれからの「科学」の発展を担い、社会と共に活力ある未来を切り開いていくために、新大学の名称を東京科学大学としました。

共に「科学」を追究し、新たな価値創造を希求する人のみならず、広く「科学」に興味を持つ人をも含めて、多様な人たちをこれまで以上に惹きつける大学でありたいと考えています。

また、本学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という理念を掲げています。これは、知性と優しさを兼ね備えた医療の匠を育て、社会に貢献するということです。卒業生に求められているのは、人々の幸福に貢献する医療職ということです。入学後はそのために研鑽を積んでいただきたいのです。新大学の基本的な考え方は「Well-being for All を追求する」です。Well-beingとは幸福を意味し、即ち「全ての人の幸福に真献する」ということで、新大学になっても私たちの目指すところは同じです。

これから、統合を機に、両大学の新入生が一緒に学べる場や、共通の単位取得も検討して、皆さんの夢を実現するための環境を整えていきます。「力を合わせて未来を拓く」を合言葉に、私たちとともにチャレンジしていきましょう。

東京医科歯科大学学長　田中 雄二郎

Contents

01　学長メッセージ

03　研究最前線 ～特色ある研究者の紹介～

05　理念・沿革

07　多職種連携教育

09　学部長メッセージ

10　学部・学科・専攻INDEX

11　医学部
　　医学科
　　保健衛生学科看護学専攻
　　保健衛生学科検査技術学専攻
27　歯学部
　　歯学科
　　口腔保健学科口腔保健衛生学専攻
　　口腔保健学科口腔保健工学専攻
43　教養部
45　研究所
　　生体材料工学研究所
　　難治疾患研究所

国際交流

47　医学 ／ 医療分野における
　　グローバルリーダーを育成する
49　学部学生海外研修奨励賞

キャンパスライフ

52　サークル活動
53　学生のある一日
55　図書館
56　保健管理センター
　　学生・女性支援センター
57　学生支援制度

進路・就職

58　卒業後の進路 ／ 卒業生アンケート

入試

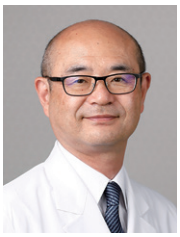
59　入試情報
61　入学者の声
62　資料請求・イベント

キャンパス概要

63　国府台地区
65　湯島地区・駿河台地区

01 | 脳の難病患者の治療研究

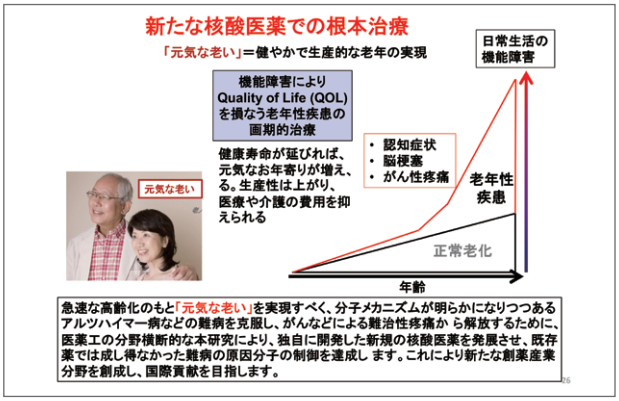
横田 隆徳
東京医科歯科大学
大学院医歯学総合研究科
脳神経病態学分野
教授



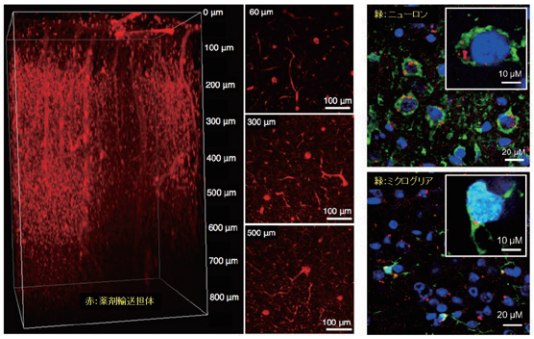
桑原 宏哉
東京医科歯科大学
大学院医歯学総合研究科
脳神経病態学分野
講師

服部高明
東京医科歯科大学
大学院医歯学総合研究科
脳神経病態学分野
講師

脳神経内科では分子標的薬の開発として核酸医薬に注力して研究しています。核酸医薬とは化学合成されたDNAやRNAといった天然および人工核酸からなる医薬品で、典型的な核酸医薬は12-30塩基の核酸からなる鎖状の構造を持ち，RNAの制御を主体として、メッセンジャーRNA(mRNA)からタンパク質への翻訳の阻害による遺伝子発現の亢進や抑制といった効果が主体です。コロナウイルスワクチンで汎用されたmRNA医薬は世界中で大きな効果がありました。さらに、最近は筋萎縮性側索硬化症などの遺伝性の難治性疾患の特効薬として開発が進んでいます。我々は従来の核酸医薬と異なるDNA/RNAヘテロ核酸を開発して日米の製薬企業と共同研究を行って、難病患者さんを救うことを目指して研究を続けています。

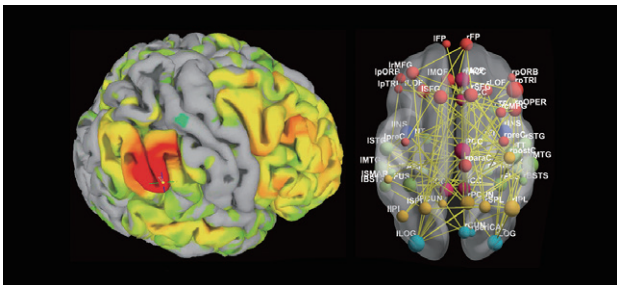


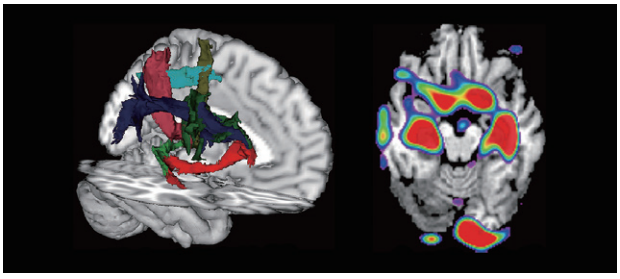
また、内服薬や注射薬を脳へ送達するための技術開発も行っています。アルツハイマー病に代表される脳の疾患の多くが難治性である大きな原因は、全身を循環する血液と脳の間に存在する血液脳関門にあり、この関門を効率的に突破して薬剤を脳に送達する技術は確立されていません。我々は、脳の主なエネルギー源がグルコースであり、食後に血中のグルコースが大量に血液脳関門を通過して脳に取り込まれる生理的な仕組みを応用して、様々な薬剤を脳に送達する画期的な基盤技術を開発しました。実際に、マウスを用いた動物実験にて、本技術を利用して抗体医薬や核酸医薬といった分子標的治療薬を脳に送達することができるようになってきています。



血液脳関門を突破して脳の広範囲に到達するドラッグデリバリーシステム

一方、脳神経内科の臨床では、脳梗塞、アルツハイマー病、パーキンソン病、末梢神経障害など多彩な患者さんを拝見しています。そうした日常臨床を通して、人間の脳や神経に関する固有の知見を得ることができます。人間を対象に知見を得るためには、最先端のMRI、SPECT、PETといった撮像法を駆使して、できる限り非侵襲的に人間を評価できる技術が必要不可欠です。「百聞は一見に如かず」というように「目で見えるようにする」ことで、予想もしなかった病気のメカニズム、治療効果に関する情報を知れることがあります。それらの知見は、目の前の患者さんに直接還元できる、他の手段では代替できない本質的な情報となることもあります。我々は、日常臨床の延長として、脳の神経ネットワーク、白質という神経連絡、灰白質の厚みや屈曲といった微小構造、病気の原因となるタンパク質、などの可視化・定量化を行っています。そうした成果は、病気の早期診断、正確な病態の把握、治療効果判定として、結実しつつあります。さらに、「判断根拠を可視化できる」人工知能を開発することで、全く新しい画像所見の発見を目指しています。


脳のネットワーク解析


脳の線維連絡の可視化　　人工知能の根拠の可視化

02 | 歯並び、かみ合わせの治療から呼吸機能も含めた新しい矯正歯科治療へ

小野 卓史
東京医科歯科大学
大学院医歯学総合研究科
咬合機能矯正学分野
教授

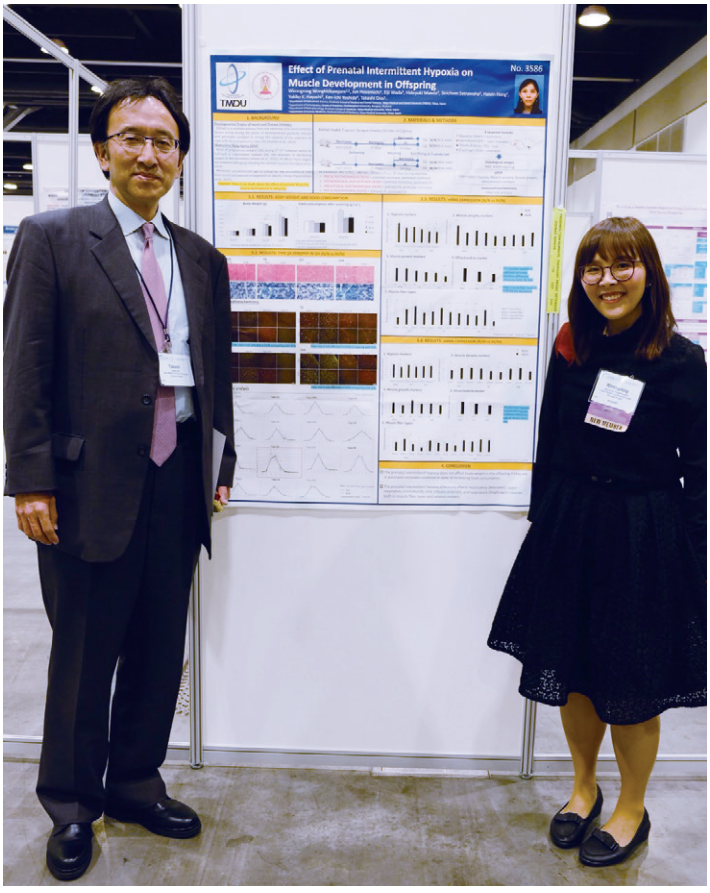
歯並びやかみ合わせを治療する「歯の矯正」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか？歯に付ける金属やプラスチック製の小さな器具（ブラケット、といいます）やワイヤー、あるいは、取り外しができる透明なマウスピースのような装置でしょうか？　それとも矯正治療を経験したひとであれば、歯の痛みでしょうか？　これらはいずれも矯正歯科治療で行う、あごの骨の中での「歯の移動」に関連するものです。一方、私が、歯学部を卒業し歯科矯正学の大学院に進学して以来、現在に至るまで、専ら研究対象にしているのは、「歯の移動」ではなく「呼吸」です。「呼吸」がなぜ、歯の矯正に関係するのか、皆さんは疑問に思うでしょう。

舌は、そのほとんどが筋肉でできていて最大の筋はオトガイ舌筋といいます。このオトガイ舌筋は、前方では舌を突き出すとともに、後方では気道を広げる機能を持っています。これまでの研究で、オトガイ舌筋は呼吸と同期したリズムを持って活動していることが分かっています。ところで、鼻がつまっていたり扁桃が腫れていたりすると、ヒトは口で呼吸するようになります。これは生命維持のために不可避な現象であり、皆さんも思い当たることがあると思います。口呼吸時には、オトガイ舌筋の活動は強くなり、逆に口を開けるために、口の周りの筋肉（口輪筋）や顎を閉じる筋肉（閉口筋）の活動が弱くなります。このような歯や顎の位置に関係する一連の筋肉の活動が慢性的に変化するので、歯並びやかみ合わせも変化するわけです。柔よく剛を制す、といった譬えが合っているかもしれません。

私はこれまで、動物モデル研究とヒト臨床研究を組み合わせて行い、舌については、呼吸性リズム活動に関与する舌運動の中枢制御系、呼吸様式ならびに姿勢変化に伴う舌圧の変化、呼吸については、鼻閉塞および閉塞性睡眠時無呼吸が顎顔面領域ならびに全身に与える影響などを解析してきました。最近では、特に、閉塞性睡眠時無呼吸の一つの病態である間欠的な低酸素状態が、成長期あるいは乳幼児期、さらには妊娠期に与えるさまざまな問題点を、専門家のチームを構成してマクロ・ミクロの両面から解明するプロジェクトを実施しています。矯正歯科治療からは遠ざかっていくようでもありますが、顎顔面口腔領域を対象とする生物学という大きな捉え方をすれば、違和感はありません。

思えば大学院生時代の研究テーマが形を変え膨らんだ状態で現在に至っているわけです。皆さんも、テーマを設定したら、少し離れたところから取り組んでみると、ものごとの違った側面を見ることができ、さらにもう一歩チャレンジする意欲が湧いてくるのではないでしょうか。

研究報告の様子



国際学会にて研究発表

理念・沿革

基本理念

知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する

学問と教育の聖地、湯島・昌平坂に建つ本学は、医療系総合大学として「知と癒しの匠」を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献します。

・教育について
幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成します。

・研究について
さまざまな学問領域の英知を結集して、時代に先駆ける研究を推し進め、その成果を広く社会に還元します。

・医療について
心と身体を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていきます。

この理念に基づき、本学の全構成員がそれぞれの役割を自覚し、自らの使命を果たします。

教育理念

1 幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養を目指す

病める人と向き合う医療人は、患者の痛みが分かり、そして患者を取り巻く様々な状況をも理解しなければなりません。それには豊かな教養と人間への深い洞察力、高い倫理観と説明能力を備えなければなりません。

2 自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人間を養成する

学業あるいは研究に当たっては、何事も鵜呑みにすることなく、疑問を投げかけ、種々の情報を収集、解析し、自ら解決する能力が求められます。そうしてはじめて、独創的な研究を推進できる人材が育まれます。

3 国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する

研究成果が即座に世界に伝播する現代において、医療の分野でもその情報と時間の共有化が益々進んでいます。このような状況の中で、立ち遅れない、むしろ最先端を行く人材の養成に努めます。そのために海外教育研究拠点、海外国際交流協定校への派遣を積極的に推進します。

東京医科歯科大学 シンボルマーク

この図は本学のシンボルマークであり、
これには次のような意味が含まれております。

1. 東京医科歯科大学の発展の歴史と、その将来へのあるべき姿を、本学の所在地、湯島にちなんで、湯島天神―学問の神―の象徴である梅の花になぞらえて図案化したものです。
2. 花の芯に当たる中央の輪は、旧東京高等歯科医学校の校章であり、これを基盤として現在の本学があることを示しております。
3. 5枚の花弁は、医学部、歯学部、教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所の5部局を表し、それらが、がっちりとスクラムを組んで花を咲かせているという本学の姿を表現しています。
4. 5枚の花弁は、将来に向かって無限に躍進するという意図を表すために花弁の外側を肉厚にし、これによって躍動的な感覚を盛り込んでおります。

東京医科歯科大学 ロゴマーク

TMDU

本学の欧文表記
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY
の頭文字をとったTMDUを図案化し、これを本学のロゴマークとします。
これには次のような意味が含まれております。

1. 「M」と「D」をつなげることで、医学と歯学の融合を表現しています。
2. 太いラインは“自信”や“強さ”を表し、本学の伝統を表現しています。

沿　革

1928年、日本で初めての国立の歯科医師養成機関として、本学の前身である東京高等歯科医学校創立。そして1944年には、東京医学歯学専門学校と改名し、医学科を設置。東京医科歯科大学は、その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。

1928年10月12日	東京高等歯科医学校設立（一ツ橋）
1930年12月	東京高等歯科医学校湯島（東京女子高等師範学校跡地）に移転
1944年4月	東京医学歯学専門学校となり医学科を設置
1946年8月	東京医科歯科大学（旧制）設立
	附属図書館を設置
1949年6月	医学部、歯学部附属医院が医学部、歯学部附属病院にそれぞれ改称
1951年4月	国立学校設置法により東京医科歯科大学（新制）設立、医学部医学科、歯学部歯学科を設置
	歯科材料研究所を附置（1966.4 医用機材研究所に改称、1999. 4 生体材料工学研究所に改組）
	医学部附属厚生女学部を医学部附属看護学校と改称（1989.4 医学部保健衛生学科看護学専攻に改組）
	歯学部附属歯科衛生士学校を設置（2004.4 歯学部口腔保健学科に改組、2011.4 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻に改組）
1952年4月	歯学部附属歯科技工士学校を設置（2011.4 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻に改組）
1955年4月	大学院医学研究科、大学院歯学研究科を設置
	医学及び歯学進学課程を設置（1955.4 ～ 1958.3 千葉大学文理学部内、1958.4 ～ 1965.3 国府台分校、1965.4 教養部となる）
1962年4月	医学部附属衛生検査技師学校を設置（1972.4 医学部附属臨床検査技師学校に改組、1989.4 医学部保健衛生学科検査技術学専攻に改組）
1973年9月	難治疾患研究所を設置
1993年4月	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称、保健衛生学専攻を設置
1999年4月	大学院医歯学総合研究科を設置
2000年4月	大学院医学系研究科（保健衛生学専攻）を大学院保健衛生学研究科に改組
2001年4月	大学院医歯学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）を設置
2003年4月	大学院生命情報科学教育部を設置（2016.3 廃止）
	大学院疾患生命科学研究部を設置（2012.3 廃止）
2004年4月	国立大学法人東京医科歯科大学設置
2013年4月	学生支援・保健管理機構を設置
2014年10月	スポーツサイエンス機構を設置
2016年3月	統合教育機構、統合国際機構を設置
2017年4月	統合研究機構、統合診療機構、統合情報機構を設置
2018年4月	統合大学改革推進機構を設置（2020.4 統合改革機構に改組）
2018年5月	高等研究院を設置
2018年12月	オープンイノベーション機構を設置（2023.3 オープンイノベーションセンターに改組）
2020年4月	統合イノベーション推進機構（2023.3 統合イノベーション機構に改組）、M&Dデータ科学センターを設置
2020年10月	指定国立大学法人に指定
2021年10月	医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、東京医科歯科大学病院になる
2022年10月	国立大学法人東京工業大学との統合に向けた基本合意書を締結

東京高等歯科医学校第一附属医院（1930年頃）

本郷通りから正門（1934年）

湯島地区全景（1952年頃）

医学部附属病院医科A棟（1991年）

M&Dタワー（2009年）

東工大との統合　新大学の設立へ

東京医科歯科大学と東京工業大学は1法人1大学とすることについて合意に達し、基本合意書を締結しました。2024年度中を目途として、できる限り早期の統合を目指します。

詳細はこちら

多職種連携教育

「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことを理念に置く東京医科歯科大学は、国立大学で唯一の医療系総合大学です。2024年には東京科学大学として「世代を超えた地球・人類の『トータルヘルスケア』の実現」に向けてさらなる加速段階を迎えますが、AIが活躍する未来医療においても、コミュニケーションや、知識、体験、価値観を総合した多職種連携は人間にしかできないと考えられています。

■ 教育内容 ■

本学では、多職種での連携を学生時代に体験する機会として2012年度から「チーム医療入門」、2020年度からは「チーム医療導入」をスタートし、患者中心の医療を学ぶ双方向型授業を行ってきました。

現在、これまで全学で取り組んできた多職種連携教育を各学科専攻の科目の中で共通の取り組み（多職種連携Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）とする方向性が示されています。多職種連携Ⅰは新たに2023年度に入学した全学科専攻の学生を対象に導入されました。多職種間の融合教育の基礎として、互いを知り、それぞれの将来像を共有するとともに、患者講師の講演を通して医療系大学初学者の自覚をもつことを目標とした参加型学習セッションです。多職種連携Ⅱは「チーム医療導入」ですでに行っている患者講師との実習をさらに拡充し、自分が患者になったと想定し、必要な支援や医療について議論した上で、自主課題が設定され学科混合のグループで多職種連携をテーマに議論、発表会などを行います。多職種連携Ⅲは「チーム医療入門」での議論を通して自分の学科専攻の視点にとらわれず、患者中心の医療を行うための全人的視点を身につけることを目的としてさらに発展させた実習です。このほか医学科および歯学科6年生で行う連携実習、医学科または歯学科と口腔保健衛生学専攻で合同症例検討会など、実臨床を想定した種々の取り組みを行う中で、さまざまな学科からの視点に触れ、患者中心の医療を学ぶよい学修機会となっていると思われます。

■ 多職種連携Ⅰ ■

2023年度から本学学士過程入学者を対象に開講した新たな取り組みで、医療・歯科医療において活躍する保健・医療・福祉の専門職について知り、共通する職業倫理や仕事に対する姿勢、多職種連携の重要性を学び、それぞれの将来像を共有することを目的としています。各学科専攻の最終学年学生、卒後十分な経験を積み臨床現場で活躍する若手教員による講演とパネルディスカッションによって、各学科専攻の特徴に加えて、医療者同士が協働することの重要性を学びます。先天性疾患を抱えている患者講師の講演では、医療系大学初学者の自覚を持つとともに、自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有し、グループワークでは他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答を行い、協働を実現するために、自らの役割を認識する機会となりました。「えんたくん」を本実習に用いることで、初対面にもかかわらず、学生同士の討論が活発に行われました。

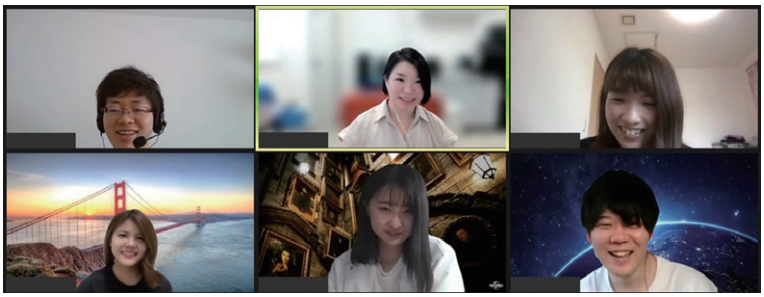
最終学年の学生によるパネルディスカッション

（左）えんたくんを用いたグループワーク
（右）提出されたえんたくんシート

■ チーム医療導入（将来の多職種連携 II）■

保健衛生学科看護学専攻、検査技術学専攻、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻：2024年度開講予定
医学科、歯学科、口腔保健学科口腔保健工学専攻：2025年度開講予定

2020年度から開始した「チーム医療導入」では、医療についての学習を始めたすべての学科・専攻の学生が、実際の臨床実習に参加する前の低学年のうちに患者中心の医療を学ぶワークショップを行っています。AYA 世代でがんの闘病を経験した患者講師とAYA 世代の医療に詳しい非常勤講師を招聘し、AYA世代の闘病をテーマとして、学生自身が患者になったことを想定したシナリオをもとに患者の視点を想像、議論した上で、実際の患者講師との質疑応答を通して、専門職として将来どのような視点を身につけたいか考える学修機会としています。医療において主役である患者の思いや不安に寄り添うことの大切さ、多職種連携の重要性に気づく絶好の学修機会となっていますが、2023年度からは、将来開講予定の多職種連携 II トライアルとして、患者の視点を得た上で、医療チームとして何が重要か、学科混合のグループで議論し発表会などを行う予定です。臨床現場で求められるチーム医療を想定し、参加した教職員、学生の意見をもとに毎年改善を重ねています。

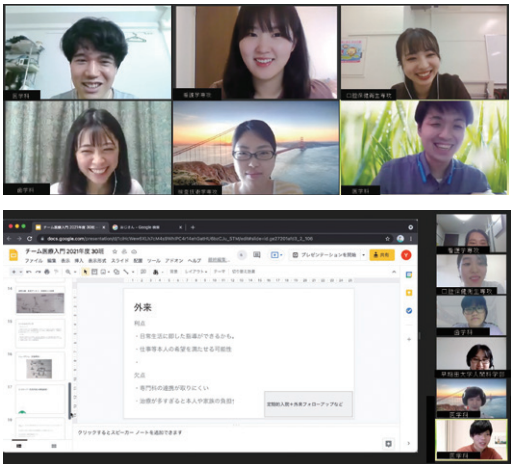


（左）4学科混合のグループ討議は2022年度は遠隔で行いましたが、2023年度は対面で行う予定です。
（右）60の班からの質問をもとに患者講師と教員によるシンポジウムが行われました。

■ チーム医療入門（将来の多職種連携 III）■

本学の最終学年学生と、社会福祉士を目指す学生（早稲田大学、上智大学）、薬剤師を目指す学生（星薬科大学）が、学科混合のグループで話し合い、専門職連携の重要性、患者中心の医療の重要性を学ぶ実習です。資料の検索、共有が簡便にでき、他大学からも参加しやすいオンラインワークショップを行い、口腔と全身に疾患がある患者さんの仮想シナリオを用いて、それぞれが学んできたことでこの患者さんをどう治療・ケアするかについて意見を述べ、意見を聞きます。参加した学生は、自分が考えていなかった視点、お互いの専門性について学ぶと同時に、より良い連携をするためにはまず自分の専門性を磨くことを改めて決意する機会にもなります。

厚生労働省は、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。本実習においても患者の視点を得るプログラムを2016年度から導入しており、8名の患者講師を迎えて双方向型の講義とその後の議論から患者が求める医療について考える貴重な機会となっています。今後も患者講師とともに参加者からの意見をもとに、本プログラムを改善し、本学の基本理念である「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」医療者育成を目指したいと思います。



グループ討論（左）は学科混合、チューター毎の発表会（右）では全8職種を目指す学生で議論します。

学部長メッセージ

医学

医療者や研究者として世界で活躍したい皆さんを歓迎します。本学には皆さんの夢を実現する環境が整っています。

医学部長
東田 修二

医学部は、医学科と保健衛生学科(看護学専攻・検査技術学専攻)からなり、日本だけでなく世界をリードする医師、看護師、臨床検査技師、研究者、教育者を育成しています。

授業では自ら問題点を見つけ出して解決する能力を養う教育方法を取り入れ、診療参加型の臨床実習を行い、課外に自由な研究活動を行うことができるプログラムも設けています。希望者は学部カリキュラムの一環として、海外の大学での臨床実習、短期研究留学、研修を行うこともでき、グローバルな視点を持った医療者や研究者を育成しています。また、患者さんの気持ちに共感できる豊かな人間性を養うための教養教育も充実しています。

大学病院では最先端の医療を行なっています。例えば、新型コロナウイルス感染症の重症患者さんを多く受け入れ、その救命に寄与するとともに、診断や治療に関する知見を世界に発信しました。本学は医学研究でも優れた業績を上げ、世界最高水準の卓越した教育研究活動を展開しうる大学として、文部科学大臣から「指定国立大学」に選ばれています。

学生数が少ない大学であるため、全学生と教職員が一体となって、学部や学科の垣根を超えた融通のきく教育や課外活動が行われ、充実した学生生活を送ることができます。私たちは皆さんの夢の実現を全力でサポートします。

歯学

日本、世界の歯科医学・歯科医療を牽引し、社会に貢献したいという意欲と志を持った諸君を惜しみなくサポートします。

歯学部長
依田 哲也

歯学部は、歯学科と口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻、口腔保健工学専攻)から構成される、国立大学として最も長い歴史を有する総合的歯学教育機関で、2023年分野別QS 世界大学ランキングの歯学分野では日本第1位、世界第3位の高い評価を獲得しています。

歯科医学のフロントランナーとして、私たちは多彩な授業・実習から成る充実したカリキュラムを擁し、経験豊かなスタッフと充実した施設で基礎から臨床に至るすべての分野を網羅した質の高い教育を提供しています。

充実したカリキュラムの一例として、日本最大規模の大学病院を中心に行われる実践的な臨床実習が挙げられます。ここでは、知識・技術のみならず、歯科医療のプロフェッショナルに必要な癒しの心やコミュニケーション力をも育む絶好の機会を皆さんに提供しています。

歯科医学研究においても優秀な教員・研究者が多数おり、研究面でもあなたの活躍を期待しています。多くの海外研修の機会も用意しており、将来世界に羽ばたくための貴重な経験を得ることができます。

優れた歯科医学・歯科医療のプロフェッショナルとして、大きく羽ばたく意欲と志を備えた皆さんを歓迎します。

「四大学連合※」で、さらに広がる「学び」

(※ 東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学)

様々な分野の学術拠点が集まり、最新情報をタイムリーにキャッチできる大都市・東京には、勉学はもちろん、医療人・国際人としての教養を幅広く身につける上で望ましい環境がそろっています。東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学と本学が協力して発足した「四大学連合」は、各大学が独立性を保ちながら密接な連携を図り、一大学ではなしえない教育プログラムを提供するものです。豊富な知識と広い視野を有する人材を育て、広く社会に貢献しています。

学部・学科・専攻
INDEX

指定国立大学法人

東京医科歯科大学は、2020年10月15日に文部科学大臣から第4期中期目標期間における指定国立大学法人の指定を受け、2022年4月1日より医療系に特化した唯一の指定国立大学となりました。

指定国立大学法人制度とは、日本の大学における教育研究水準の著しい向上とイノベーション創出を図るため、世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を指定するものです。

本学の指定国立大学法人構想では、国際都市東京の立地を活かし、本学がSocial Impactの高い医学・医療研究を担う国際拠点となることによって、「世代を超えた人類のトータル・ヘルスケア」のモデルを社会に提示することを目指すとしています。今後は研究力を強化するとともに、卓越したClinician Scientist、及びMedical Data Scientistを育成し、国際協働の推進による世界レベルでのトータル・ヘルスケアを実現する、世界屈指の医療系総合大学となるべく邁進していきます。

世界大学ランキング

世界各国の高等教育調査機関、教育研究機関、報道機関などが、大学ごとに研究者の論文発表実績や評判、教員数と学生数の割合など、様々な項目を評価して、世界におけるランキングを公表しています。東京医科歯科大学も、世界大学ランキングの順位向上を通じて、日本の高等教育の国際的競争力強化の一翼を担うことを目指しています。

世界大学ランキング　本学の総合順位	国内順位	世界順位
クアクアレリ・シモンズ（QS） 世界大学ランキング2023	14	392
タイムズ・ハイアー・ エデュケーション（THE） 世界大学ランキング2023	7タイ	501- 600

※文理問わず、総合大学も含むエントリーしたすべての大学のランキング

世界大学ランキング（分野別）	国内順位	世界順位
分野別世界大学ランキング クアクアレリ・シモンズ（QS） 歯学分野2023	1	3タイ
分野別世界大学ランキング クアクアレリ・シモンズ（QS） 医学分野2023	4	136

出典：タイムズ・ハイアー・エデュケーション（THE）　クアクアレリ・シモンズ（QS）

医学部

医学科 P11

保健衛生学科
看護学専攻 P19

保健衛生学科
検査技術学専攻 P23

歯学部

歯学科 P27

口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻 P35

口腔保健学科
口腔保健工学専攻 P39

教養部

P43

医学部

医学科

医学科
Webサイト

医学科の教育理念

疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成します。

医学科の教育目標

1．幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。
2．自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。
3．世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。

教育内容

高齢化が進む社会において、これからの医療はますます重要な分野となります。本学医学科は、将来のこの分野の様々な課題に対処できる指導的医療人の育成を目標とします。そのために、自律的な行動力と広い視野を獲得し、高い水準の問題解決能力を開発できるよう、新しいカリキュラムを構築しました。具体的には以下の構成で教育が予定されています。

１年次前期は教養部で全学共通科目を学ぶと共に、後期からは湯島地区で行われる医学導入など専門科目も学びます。早期臨床体験実習等を通じて医療人としての意識を高めます。１年次後期から、生体と病気のメカニズムについても講義・実習を通じて深く学んでいきます。特に４年次にはプロジェクトセメスターと呼ばれる長期の自由選択学習が実施され、自ら興味を持った課題について半年間研究を行い、科学的な考え方、結果のまとめ方を学びます(14p 参照)。また、基礎医学の研究実践プログラムも設けられ、希望者には課外の時間を利用して２年次より研究を開始することも可能になります。さらに、研究を継続したい学生は、一時大学院に進学し医学博士号を取得した後、復学する MD-PhD コースも用意されています(15p 参照)。

その後は、臨床導入実習で基本的診察技法を習得します。全国共用試験を経て、本大学病院のみならず関連病院、診療所や在宅医療機関を含む様々な医療現場で約２年にわたっての診療参加型臨床実習が行われます(14p 参照)。この実習では医療チームの一員として学ぶために院内携帯電話や学生用電子カルテなどが用意され、臨床推論について徹底的に学びます。一方、リーダーとしてのコミュニケーション能力開発のため、チュートリアル等、少人数で討論を行う機会、プレゼンテーション技法の訓練の機会等も豊富に設けられています。

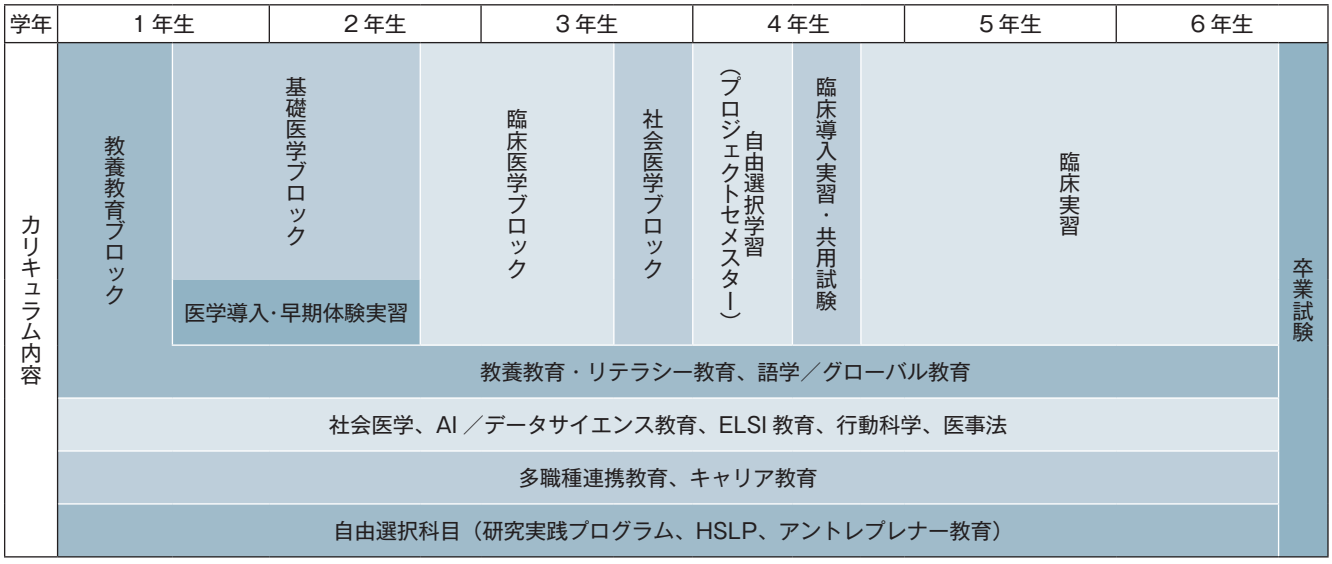
また、医療系総合大学の強みを生かして歯学科と口腔領域の診断治療などを合同で学ぶ機会、歯学科、保健衛生学科（看護学専攻・検査技術学専攻）、口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻）と多職種連携について学習する機会も１年次から卒業までそれぞれの学年に合わせた内容で用意されます。

専門科目と並行して、１年後期以降も卒業まで、教養教育、AI/ データサイエンス教育、ELSI（Ethical, Legal and Social Issues）などを学ぶ機会が確保されています。さらに、国際化が進む将来を見据え、英語で医学を学ぶ講義が１年次後期から３年間にわたって行われるほか、海外研修奨励制度や海外の一流提携大学で学ぶ機会も用意されています（15、16p 参照）。また、全国最大規模のスキルスラボ（臨床手技習得のためのシミュレーション機器を備えた学習室）、国際的に通用する教科書をオンライン上で参照できる e-learning 環境など先進的な学習環境が整えられています。

最先端の研究と医療の場から、国際社会で活躍できる医療人を輩出する

医学とは、様々な疾患の治療と予防、健康の保持・増進について研究し、その成果を広く医療・福祉に応用するための学問です。本学科ではこれを踏まえ、動物材料や臨床材料を用いた最先端の基礎的研究を、本大学病院では最新の医療機器と最高の知識・技術を持つ医師団による医療が進められています。
本学科では、日々の学びを通して基礎から臨床にわたる広い分野の知識と技術を習得することが求められます。卒業時に到達すべきレベルは、卒業時コンピテンシー（https://www.tmd.ac.jp/artis-cms/cms-files/competency.pdf）に示されています。卒業後は、医師あるいは医学の教育・研究に関わる様々な分野の指導者として、医学・医療の進歩に力を尽くし、国内のみならず国際社会で活躍することが大いに期待されています。

カリキュラム構成図



授業科目

医学導入
人体構造総論
細胞生物学
生理学
組織学
人体解剖学
薬理学
生化学
分子遺伝学
神経解剖学
免疫学
神経科学・基礎
感染・基礎
東洋医学
病理学
医動物学
腫瘍学
法医学
社会医学
衛生学
公衆衛生学
臨床医学導入
循環器
呼吸器
消化器
体液制御・泌尿器
内分泌・代謝
一般外科
血液・腫瘍
神経科学・臨床
骨・関節・脊椎
皮膚・アレルギー・膠原病
感染・臨床
頭頸部・臨床
総合診療・地域医療
生殖・発達
救急・麻酔
自由選択学習
臨床導入実習
臨床実習Ⅰ・Ⅱ
研究実践プログラムⅠ～Ⅴ
地域医療学習プログラム

将来の自分を培う魅力あるカリキュラム

**医学の基礎を確かなものにするために、問題解決能力、自己学習能力を養い、
医学を学ぶ面白さを実感できます。さらに、治療チームの一員としての役割を担うことで、
患者さんの信頼に応え、医師としての喜びを体験できます。**

医学導入

1年次後期に週1日湯島地区で履修するコースで、医療人としての基盤形成とともに、将来グローバルに活躍する医師・医学研究者としてのキャリアビジョンの創出を目的としています。医学の歴史と今後の展望について学び、国際人としての意識と広い視野を育むための小グループ英語議論に参加し、「受け身型」から「能動的で問題解決型」へと学びのモードを変えるための様々なセッションに参加します。

また、多彩なフィールドで活躍する先輩医師・医学研究者の講演を聞き、実際に彼らと半日をともに過ごし活躍の様子を垣間みて、将来のキャリアビジョンを創出します。さらに、教育・診療・研究施設の見学、先輩である医学科5年生の臨床実習の見学、シミュレーターを用いた蘇生実習、看護師と半日を過ごす実習などを通して、後期から始まる医学専門教育に向け意識を高めます。

｜医療人として、自分の将来について考える授業

医学部で専門課程の勉強をはじめる前に、医学導入という授業で医療人としての基礎を学びます。本学に勤められている医療従事者の方へのインタビュー、学外の多様なキャリアの方々をお呼びして行う講演が印象に残りました。これらを通じて、医療人としての心構えを学びます。同時に、この授業を通じてキャリアについての理解が深まります。入学直後の学生の多くは、病気を治す臨床医や基礎研究をする研究医というキャリアを考えます。そのような枠組みにとらわれない、起業家や医系技官などの職業を知るのが医学導入という授業です。大学入学前に描いていた将来像を改めて見つめ直すことが、医療人という職業、ひいては医学という学問を深く理解するために必要だと考えます。私はこの医学導入の授業で自分の将来の姿を見据え、本学が目指す理想の医師像「知と癒しの匠」についての理解を深めることができました。

宗像 沙季
医学部 医学科2年

統合型教育

診療現場や研究領域における問題解決型思考能力や、生涯学習に必須となる自己学習能力の養成を目的に、すべての臨床系の科目で統合型（ブロック型）教育を実施しています。統合型（ブロック型）教育では、関連する臨床系分野が数週間のブロックを形成し、症候から病態生理を中心に集中的に学習する環境を提供します。

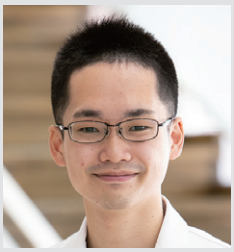
各ブロックの最初にはそれまでに学んだ基礎医学の知識を賦活化するセッションを組み、基礎及び臨床医学の知識の統合を図ります。これまでのPBL（Problem-Based Learning）チュートリアルのほか、知識の確認・応用とグループ討論を促すTBL（Team-Based Learning）を導入し、症例提示型学習による自己問題提起・解決能力とチーム内でのコミュニケーション能力を養成します。関連講義には基礎医学内容も統合されており、基礎医学領域への関心が誘導されるよう配慮されています。

2020年からはオンライン授業を積極的に取り入れ、選択授業である研究実践プログラムなどと両立しやすくなっています。

自由選択学習（プロジェクトセメスター）

主な講義・試験及び基礎実習を終えた４年次に設定されている最長６ヵ月のコースです。興味をもった分野について集中的に学ぶことにより、科学的視点を有する医師としての基盤を養成します。本学の諸講座、附属研究所のほか、学外研究機関、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ（イギリス：ロンドン）、オーストラリア国立大学、ソウル大学、チュラロンコーン大学（タイ）などにおける履修の機会もあります。全学生の研究成果は、発表会の場においてプレゼンテーションが行われ、お互いに共有することになります。

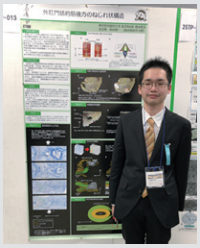
｜将来像について考えが深まった半年間



青木 柊太
医学部 医学科５年

本学には、座学の講義や実習がなく研究に専念できるプロジェクトセメスターと呼ばれる期間が、４年次に半年程度設定されています。学内の基礎系から臨床系までの様々な研究室や、海外の大学の研究室などの中から配属先を自分で選択することができます。

私は臨床解剖学分野に所属し、骨盤周辺の筋肉の構造について研究しておりました。文献調査の仕方から、プレパラートの作成法や解剖の際の手技、研究内容を受け手に伝わりやすいようにまとめる方法に至るまでご指導いただきました。さらに、日本解剖学会において学会発表を経験することもできました。また、研究を通じて学内外の先生方と交流する機会を持つことによって、多様な働き方を見つけることができ、医師としての将来像について多くの視点から考えることができるようになりました。こうした、通常の講義形式の授業では得難い経験を、長期にわたって積むことができる大学で学べていることに充実感を得ております。

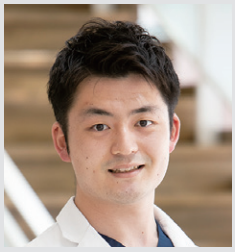


診療参加型臨床実習

診療チームの一員として、患者さんの持つ複雑な臨床問題解決への主体的な参加を通して臨床知識／技術を習得し、プロフェッショナリズムを養います。最初の１年程度で、コアとなる診療科(内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、集中治療医学など）をローテートし、基盤となる知識／技術／態度を徹底的に習得します。内科系など多くのプログラムで一定期間患者さんを担当し、回診では担当患者さんについてのプレゼンテーションを行い、方針決定の議論に主体的に参加します。外科系プログラムでは、主治医によるインフォームドコンセントや手術にも立ち会います。またソーシャルワーカーを交えての退院計画立案にも参加することにより、医療全体の流れをつかみます。コア診療科で基盤となる知識／技術／態度を習得した後、本大学病院のほか、関連病院や診療所、海外機関(協定校など）での豊富な選択プログラムリストから、深く学びたい診療科、興味のある診療科などをローテートし、臨床問題管理能力・患者管理能力を高め、卒後臨床研修にむけたレディネスを高めます。

本大学病院のほか、関連病院や診療所、海外の提携大学(オーストラリア国立大学、マヒドン大学(タイ)、国立台湾大学）などで実習も行われています。

｜実際の臨床現場に医療チームの一員として参加する経験型学習



磯島 晃太郎
医学部 医学科６年

本学の臨床実習では学生が診療に参加できる機会が豊富にあります。

具体的には、各診療科に決まった期間配属され、患者さんを担当し、診察や治療の見学、カルテの記載等が任されます。実際この２年間色々な体験を通して、座学で学んだ診断から治療の流れを具体的なイメージで掴むことができました。また毎日の回診も担当し、問診診察といったスキルの修練は勿論のこと、患者さんとの会話を通して些細な悩みへの傾聴の姿勢、信頼関係の築き方などを学ぶことができました。先生方もその都度ご指導下さり、不足していた点などを認識、改善することができたので、毎日一歩ずつstep upしていく実感が持てました。右も左も分からない私達にとって、現場でお会いする先生方は本当に心強く、目指すべき像として頭に刻まれております。

臨床実習は初めて臨床に携わる機会であり、意識、責任感が高まる２年間でもありました。特にコロナ禍では十分な感染対策が求められ、医療者として持つべき自覚や振る舞い方を学べたことは貴重な財産だと思っております。この２年間で得た経験や目指すべき医師像、医療者としての意識を忘れずに、今後も研鑽を続けていきたいと思っております。

国際的医療人育成のために

21 世紀の最先端の医療と生命科学に対応できる医療人の育成を目指し、
言語のみならず、品格、知識、態度、技能いずれにおいても、国際社会に通用する医学のリーダーを育てます。

海外研究留学

４年次のプロジェクトセメスターの期間は、海外で研究を行うことも可能です。一流の研究者の指導を受け、さらに世界中から集まって来ている研究室メンバーへのプレゼンテーションやディスカッションを行いながら、半年かけて研究プロジェクトを進めます。インペリアルカレッジロンドン(イギリス)、オーストラリア国立大学(オーストラリア)、ネバダ大学リノ校(アメリカ)、南カリフォルニア大学(アメリカ)、マサチューセッツ工科大学(アメリカ)、ガーナ大学野口記念医学研究所共同研究センター（ガーナ）などの本学の協定大学のほか、ハーバード公衆衛生大学院、コロンビア大学、University College London、WHO Western Pacific Regional Officeで研究を行った学生もいます。

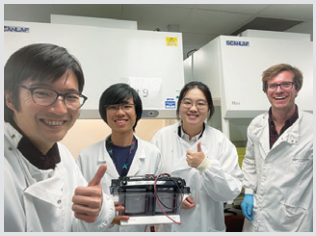
コロナ禍の影響で2022年度の留学は12名、2023年度は16名と限られた人数ですが、少しずつ再開しております。毎年５名の学生が留学することができるイギリスの名門校インペリアルカレッジからの学生の受け入れも実施しており、彼らの滞在中に本学学生との活発な交流が行われます。

｜ インペリアルカレッジロンドンへの研究留学で得たもの

安田 智明
医学部 医学科５年

この交換留学プログラムでは、プロジェクトセメスターの期間にインペリアルカレッジロンドンの希望する研究室へ所属し、４か月あまりの研究成果を英語によるレポートとプレゼンテーションでまとめます。

私は、コロナ患者の血液を調べて急性腎障害との関連を探るプロジェクトに加わり、学生の立場ながら、貴重な検体を用いて最先端研究の一端を担わせて頂きました。実験手技やデータの扱い方などを丁寧に指導してもらったほか、結果の解釈や実験計画の立案をまずは自力で試み、その後に研究室のメンバーとディスカッションするよう促され、基礎研究の真髄に触れたように思います。



また、日本と異なる環境での生活を通じて、性別・宗教・民族の違いに対する社会のあり方や、医師・研究者としてのキャリア形成などについて、新たな視点を得ることができました。海外一流大学の研究活動を体験しスキルを学ぶと同時に、多様性にあふれた世界により目を向け、自分自身と深く向き合い将来の進路を考える契機にもなる、貴重な留学プログラムです。

MD-PhD（医学研究者早期育成）コース

優れた医学研究者を育成するための早期医学研究トレーニング特別プログラムです。このコースでは、従来のように医学科卒業後に大学院に進学するのではなく、医学科４年次あるいは５年次修了後に、医学科の学籍を一時離れ、大学院に進学します。それにより、医学科における基礎的な医学教育を発展させ、体系だった高度な医学研究を経験することを目的としています。大学院在学中に博士論文を完成した者は審査を行い、合格者には博士の学位が授与されます。大学院修了後は医学科５年次あるいは６年次に戻り、医師免許の取得を目指すことになります。

｜ 臨床のバックグラウンドに支えられた基礎研究を実践して

東京医科歯科大学病院
研修医
内田 雄太郎
医学部医学科
2022年度卒業

MDPhDコースでは学部の途中に三年間博士課程に進むことで集中して基礎研究に取り組むことができます。特に研究に集中する期間は若ければ若いほど有利であるとされており、他大学のPhDの院生とも積極的に交流することで通常のキャリアでは得られない刺激的体験を得ることが可能です。私自身はRNA結合タンパク質に着目した研究を行い、慢性炎症・悪性腫瘍の制御において非常に重要な役割を果たす因子を同定・解析してきました。一方で生化学的な解析にとどまらず、病理部や臨床診療科との共同研究により臨床検体を用いた解析をすることが医学部ならではの研究であると考えており、これらを行う上でMDPhDコースは非常に魅力的なコースとなっていました。これからはマウス研究では得られない知見、ヒトにしか見られない細胞・現象をヒト検体の解析から疾患の原因を解析することが主流となってくる時代となります。これらを学ぶ上でMDPhDコースは非常におすすめです。

海外臨床留学

臨床実習は、本大学病院や国内の病院・診療所のほか、海外の提携大学でも行われています。長期臨床実習（最長12週間まで）では、ハーバードメディカルスクール（米国）、南カリフォルニア大学（米国）、ヴァンダービルト大学（米国）、オーストラリア国立大学（オーストラリア）に留学することが可能です。短期臨床実習（2週間）では、国立台湾大学（台湾）、国防医学院（台湾）、マヒドン大学（タイ）、チェンマイ大学（タイ）、ソウル大学（韓国）に留学することが可能です。

2023年度には長期臨床留学12名、短期臨床留学55名と、半数以上の学生が臨床留学を経験しています。

ハーバードとの学生派遣プログラム

この派遣プログラムは、ハーバード大学医学部関連病院で臨床実習に参加するという大変有意義な機会を提供します。6年次初めの8週間、派遣された学生は4週間ごとの計2つのローテーションよりなる臨床実習に従事します。ハーバード大学医学部学生と互いに切磋琢磨し合いながら、診療チームの一員として臨床問題解決に主体的に参加します。

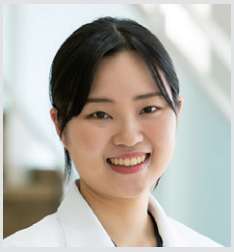
派遣のための選考は、5年次に、英語による志望動機書、英語による小グループ議論、そして面接により行われます。選考された学生は、その後6ヵ月半にわたり、英語による病歴聴取、診察、症例プレゼンテーションと議論、記述などの実践的な技能修得のためのトレーニングに従事します。そして最後に、ハーバード大学医学部による電話での英語面接に合格して、晴れてボストンでの実習に参加できます。

今後は、より多くの学生が海外の医療機関で臨床実習を行えるよう、国際性を磨く機会を創出していきます。

2018年派遣学生

2019年派遣学生

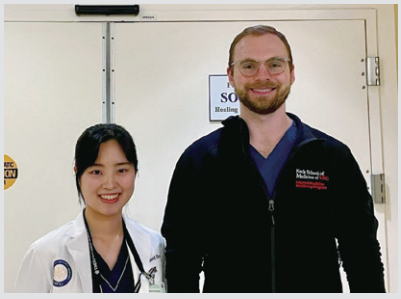
南カリフォルニア大学医学部での長期臨床実習を終えて



石川 菜々子
医学部 医学科6年

南カリフォルニア大学医学部の臨床実習として、4月にロサンゼルス郡・南カリフォルニア大学医療センター（現ロサンゼルス総合医療センター）循環器内科にて集中治療室とコンサルテーションを2週間ずつ、計4週間の実習をさせていただきました。

集中治療室では医師、看護師、薬剤師によって構成されたチームで数時間に及ぶ回診を行い、活発な意見交換がなされ、多職種連携の重要性を改めて実感しました。学生も診察やプレゼンテーションを担当し、大変充実した実習となりました。またロサンゼルスの公立病院であるため、様々な生活歴を持つ患者が入院しており、日本では稀な疾患や外傷を診る機会にも恵まれました。さらに、現地の医師や医学生との交流を通してアメリカの医療体制や医学教育について理解を深められた上、色々なキャリアパスの存在を知り、自身の進路を再考するきっかけとなりました。



今回得た経験を今後の実習、また研修で活かし、精進していきたいと思います。

マヒドン大学ラマチボディ病院での実習を終えて

泉 晴登
医学部 医学科6年

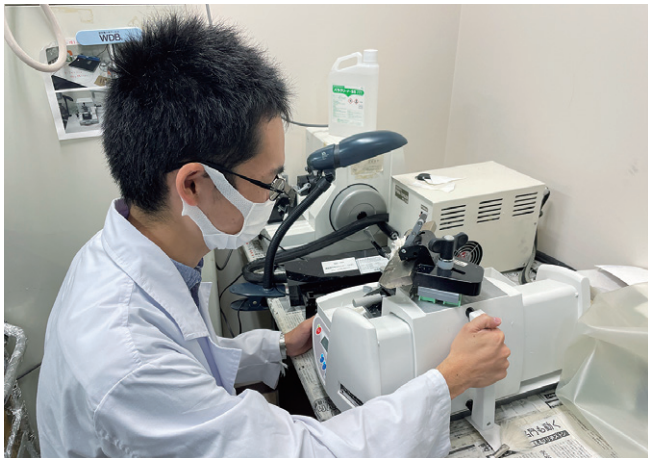
タイのマヒドン大学ラマチボディ病院の形成外科・顎顔面外科で2週間実習をさせて頂きました。ラマチボディ病院は規模が大きく、一通りの診療科が揃っているほか、タイならではの診療科もありました。実習は主に手術見学でしたが、外来見学、カンファレンスにも参加し、先生方と英語でディスカッションを行う事ができました。先天性疾患から整形外科に近い症例、美容整形まで幅広い症例があり、日本では見る事の出来ないような手術を多く見る事が出来ました。現地の学生は英語で勉強しているため英語が堪能で、非常に主体的かつ意欲的に学習している姿勢に刺激を受けました。また様々な大学から来た現地学生と実習時間外で交流し、同世代の医学生がどのような事を日々考えているか知る事ができました。2週間という短い期間でしたが中身が濃く、6年生と言う段階で海外の医療に触れる事ができたのは今後医療者として生きていく上で自信となり、非常に貴重な経験でした。

実習風景

■ 基礎医学実習

1年次から2年次にかけて、人体の構造や機能などの基礎医学について学びます。2年次の初めに行われる解剖学実習(左)では、正常な人体の構造を学びます。体表から触ってわかる骨格を理解してから、その深部にある血管、神経、内臓などを学んでいくことで、診察する際に活きる知識となります。高学年になっても必要に応じて基礎医学の実習を行うことがあります。臨床実習で手術に参加する前に、もう一度からだの構造について学びなおしたい、そんなときは指導医の先生と共に基礎医学の実習室に足を運びます(右)。理解を深めてから臨床現場に向かうことでより多くの知識を得ることができます。

■ 研究実践プログラム・プロジェクトセメスター



2年次から選択できる研究実践プログラム、4年次の必須科目であるプロジェクトセメスターなど、早期から研究に参加する機会があり、多くの学生が積極的に取り組んでいます。

在学生から

医療現場に立つ責任と覚悟

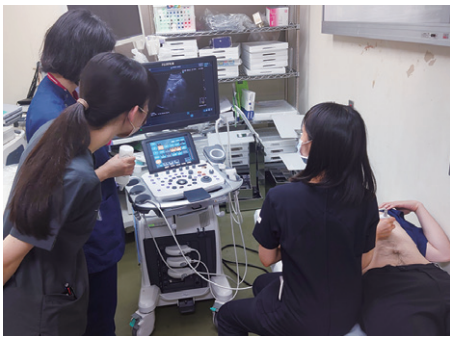
5年生になると臨床実習がスタートし、チームの一員として医療の現場に立つことができます。患者さんからお話を聞いたり、先生方の処置を手伝ったりと、学生という立場ではありますが、実臨床に立つことには大きな責任を感じます。

「いいのよ、立派なお医者さんになってほしいからね」と言って、ご自身の病状や心情の変化を事細かに教えてくださる患者さん。ご自身の業務で忙しいなか、学生のどんな質問にも答えてくださる先生方。教科書でしか見たことがなかった疾患を、実際の臨床の現場で、実際に病をもつ患者さんを通して学ばせていただくということは、それに相応する覚悟が必要だと実感します。

臨床実習で様々な診療科を回る中で、共通して言えることがあります。それはどの診療科の先生方も、学生が多くを学べるように常に心を配ってくださるということです。とある先生は、自分たちが学生の時にしてもらったことをしているだけだよ、と言ってくださいました。教え教わるというリレーが脈々と続いていくことを実感し、その一員となれていることを心から光栄に思っています。

井垣 花咲里
医学部 医学科6年

■ クリニカル・クラークシップ

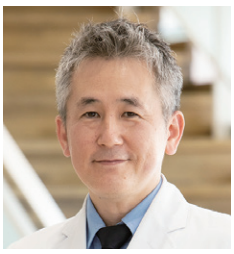


５年次から６年次にかけ、本大学病院医系診療部門の各診療科を１～４週間ずつ回ります。必修の診療科と選択の診療科があり、実際に患者さんを受け持ちながら学びます。実習中に生じた疑問を同級生と一緒に考え、さらに深い学びにつなげます。

卒業生から

未来へ繋がる貴重な時を医科歯科大学で

私は卒業後18年間大学から離れて働いていましたが、それでも年に１回程度はお茶の水の前を通る機会があり、建物が徐々に建て替って外観が変化していく様子を何気なく見ていました。しかし、2018年に母校・医科歯科大学に教員として戻ったときに感じたのは、外観以上にその内容が変化してきていることです。医学の世界は日々進化し、私が学生だった1990年代と比べ研究や診療に必要な情報量が飛躍的に増えました。だからこそ、診療・教育・研究の質を維持・向上させるため、日々変革を求め続けることが重要だと思います。医科歯科大学ではプロジェクトセメスター、診療参加型実習、海外留学など革新的な教育プログラムの賜物だと思いますが、学生のモチベーションも高く、知識量も素晴らしいものがあり、自分自身の学生時代からの進化に感動を覚えました。その変化の一方で20年の時を経ても、母校に戻ると懐かしい顔ぶれが残り、アットホームな雰囲気が感じられます。医学は一生かけても極めることの難しい奥深い世界だと思います。だからこそ、大学で過ごす時間が非常に重要になります。医科歯科大学で自分の未来に繋がる大切な時間を過ごし、一流の医療人になりましょう。



東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
循環制御内科学分野
特任准教授
米津 太志
医学部 医学科1999年度卒業

医学部

保健衛生学科
看護学専攻

保健衛生学科
看護学専攻
Webサイト

保健衛生学科の教育理念

本学科は、看護学、検査技術学の２つの専門領域における知識・技術を教授することにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏づけされた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を養成します。

看護学専攻の教育目標

高度先進化する科学技術の基礎理解力を持ち、高齢化社会における保健医療・福祉等の様々な職種と連携して、専門職としての役割を果たす人間性豊かな人材を育成する。

教育内容

看護学専攻では、医療の高度化を支える自然科学・技術並びに生命倫理に関する基礎的な理解を深め、多様化する社会や文化の中で人間が生きることを支える人文科学・社会科学的な素養を併せ持つ看護実践者を養成します。

看護学の教育・研究・実践を基盤に、あらゆる健康レベルの人々に向けた保健医療福祉に関する専門知識を幅広く修め、省察できる能力を養うことで、関連職種との連携・協働を主体的に担うことのできる対人関係能力を備えた看護師の養成と、生涯学習の支援を重視しています。

１年次には、教養部で全学共通科目（人文、社会科学、自然科学、外国語など）を履修するとともに、解剖学、微生物学などの専門基礎分野科目及び看護専門科目（基盤看護学、看護の統合と実践など）も学びます。

２年次には、１年次に引きつづき看護学に関連の深い生理学、病態学、薬理学などの専門基礎科目を講義と演習によって学ぶほか、専門共通分野の保健医療福祉制度論などもこの時期に始まります。２年次で学ぶ看護専門科目の軸は基盤看護学の講義と演習で、成人、精神、小児、在宅看護学の講義は、２～３年次にかけて開講されます。周産、老年看護学は３年次前期に学び、保健師資格取得（選択制）に必要な公衆衛生看護学関連の科目は主に４年次で学びます。

臨地実習は１年次の基盤看護学実習Ⅰに始まり、２年次の基盤看護学実習Ⅱ、３年次後期の成人、精神、小児、周産、老年、在宅看護学実習、４年次の公衆衛生看護学Ⅰ、または成人・老年看護学実習Ⅲ及び総合看護学実習で終わります。臨地実習では援助的な対人関係を確立する能力の育成にも力を入れ、その準備として、２～３年次に自己理解を深める技法や、相談面接技法の訓練、患者会リーダーとの交流などを行います。

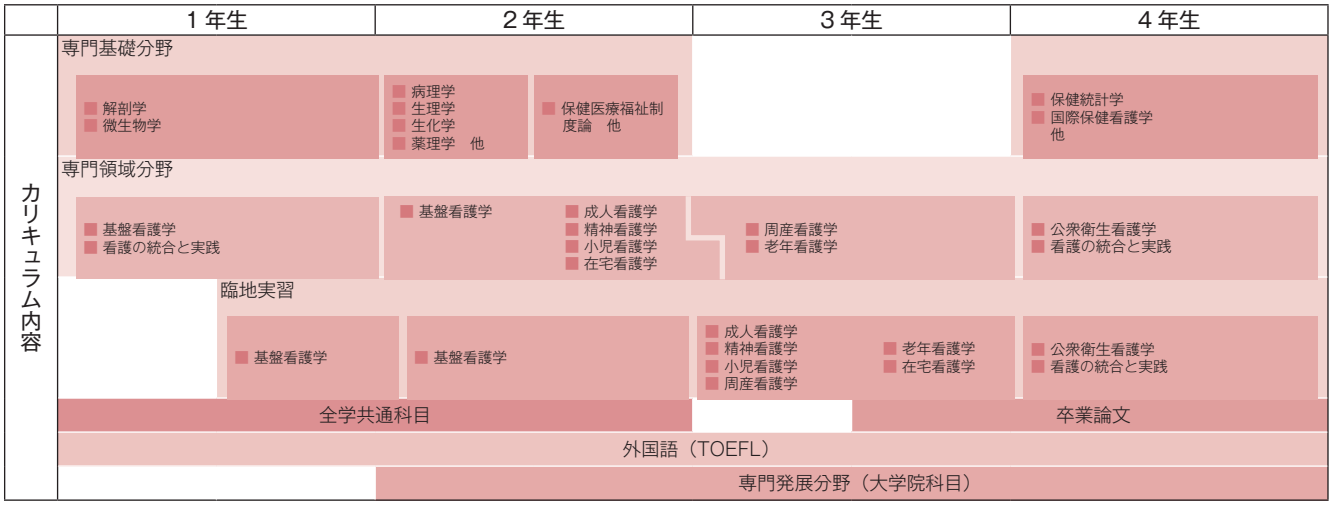
４年次には少人数制のゼミで卒業論文に取り組みますが、その準備として、３年次後期より看護学研究方法と理論的背景について学びます。

このほか、国際的な研究や実践を担う力を高めるため、全学的な取り組みと同時に、各学年で外国語の授業を履修できます。さらに、大学院の教育科目の先取り履修制度によって学部生のうちから大学院の単位を修得することができます。

知識と技術を高め、実践と研究を通して看護のエキスパートを養成する

看護実践能力の高い看護師の養成を目的として、体験学習を重視し、自己理解を深めながら専門職にふさわしい感性を磨き、コミュニケーション能力の向上を図ります。
臨地実習では、看護技術の到達点を確認しながら学習できる独自の教育システムを用いて、本大学病院医系診療部門などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルの人々に対応した看護を展開します。
卒業論文には３年次から取り組み、ゼミを通して研究を深めます。
また、日本初の看護系大学院大学として、臨床現場のスタッフと実践・研究・教育の様々な側面での連携を図るとともに、卒業生をはじめ看護学を発展させていきたいと思っているたくさんの人々の活躍を支援しています。

カリキュラム構成図



授業科目

■ 専門基礎分野
解剖学
生理学
生化学
薬理学Ⅰ･Ⅱ
病理学
微生物学
栄養学
疫学
病態学
憲法
英語Ⅱ
System-based medical terminology Ⅰ
Nurse-Patient Communication
IMRAD Format Presentation in English
Diagnostic Procedures in English
アカデミック・リテラシー

■ 専門共通分野
AI･データサイエンスのための数学
医療と AI･ビッグデータ入門
国際保健看護学Ⅰ･Ⅱ
産業保健学
保健医療福祉制度論
看護制度論
健康教育学演習
卒業論文Ⅰ･Ⅱ
実践看護英語Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ
国際保健福祉 A･B･C･D
インディペンデントスタディ A･B･C

■ 専門領域別分野
人間の健康と看護
基盤看護学Ⅰ･Ⅱ
基盤看護学演習Ⅰ･Ⅱ
基盤看護学実習Ⅰ･Ⅱ
フィジカルアセスメント
成人の健康と看護
成人看護学
クリティカルケア看護学
成人看護学演習
成人・老年看護学実習Ⅰ
緩和ケア看護学
心の健康と看護Ⅰ･Ⅱ
精神看護学演習
精神看護学実習
小児の健康と看護
小児看護学Ⅰ･Ⅱ
小児看護学演習
小児看護学実習
性と生殖と健康と看護
周産看護学Ⅰ･Ⅱ
周産看護学演習
周産看護学実習
高齢者の健康と看護
老年看護学
老年看護学演習
リハビリテーション看護学
成人･老年看護学実習Ⅱ
公衆衛生看護学Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ
公衆衛生看護学演習
公衆衛生看護学実習
在宅看護学Ⅰ･Ⅱ
在宅看護学演習
在宅看護学実習
看護の統合と実践
多職種連携Ⅰ･Ⅱ
災害看護学
クリティカルシンキング･クリエイティブシンキング
看護マネジメント学
看護の統合と実践実習
成人･老年看護学実習Ⅲ
総合看護学実習

■ 専門発展分野(大学院科目)
看護学研究法特論
看護管理学特論
看護政策学特論
看護教育学特論
看護情報統計学特論
国際看護研究方法論
看護倫理
看護理論
ヘルスサービスリサーチ看護学特論Ⅰ
小児・家族発達看護学特論Ⅰ
看護管理・高齢社会看護学特論Ⅰ
国際看護開発学特論Ⅰ

講義・実習風景

■ 保健医療福祉制度論

看護の専門領域に共通して必要な基礎科目は２年次開講です。医療人として多くの人々の保健医療福祉に携わるために、国民の健康を守る制度や仕組みについて学びます。医療保険制度、福祉制度、介護保険制度等のみならず、年金制度、雇用・労災保険、諸外国の保健医療福祉制度についても学習します。

■ 臨地実習

臨地実習は全学年に配置されていますが、３年次の９月末から約半年間の臨地実習期間に入ります。病院や高齢者施設だけではなく、対象者のご自宅にも訪問して、座学で学んだ医学的知識や看護学の理論や技術を、日々の看護実践の中で展開します。そして、そこでの出会いが、看護師としての責任の重さを痛感させると同時に、更なる学習意欲を高めることに繋がっていきます。

■ 実践看護英語

異文化を理解し国際的に活躍できる人材を育成する目的で、英語自体を学ぶというよりも、異文化や看護について英語で学ぶ科目です。主にネイティブの英語教員が担当し、様々な文化についての記事を読み、留学生やクラスメートと英語でのディスカッションやプレゼンテーションを行います。
２～４年次で３回まで受講できるよう設定しています。

■ 公衆衛生看護学実習

保健師コースを選択した場合、４年次には公衆衛生看護学実習に出かけます。活躍の場はコミュニティです。公衆衛生看護学実習で学んだ、病気の人だけでもなく、問題だけでもない、疾病の予防やヘルスプロモーションといった、幅広い保健師の活動について自分たちが学んだことを発表し、意見を交換します。地域社会の中でもまれることで、人間として一回りも二回りも成長させてくれます。

在学生から

仲間と高めあいながら広い視野で看護学を学ぶ

看護学専攻は１学年50人程度と少人数で、学生同士の仲が良く、先生方の手厚いご指導を受けることができます。１年次は他学部・他学科と交流しながら教養と看護の基礎を、２年次～３年次前期は領域別看護学の講義と基礎看護技術も学んでいきます。３年次後期は臨地実習があり、臨床の場での看護を学びます。実習では、患者さんとの会話やケアを通じて、看護師の役割や今後の目標となる看護師像を再確認することができました。自分の未熟さから悩むこともありましたが、先生方や同期のサポートのおかげで、大きな学びに繋がったと感じています。そして４年次は３年間の学びを統合させた講義と卒業研究に取り組みます。

また本学では、様々な場で活躍されているOB・OGの方からの講義や、大学院生の方の講義が設けられており、幅広い視野を持つことができます。国際的な活動や、専門・認定看護師を志すなど、優秀な仲間から刺激を受け、日々成長できる環境だと実感しています。

竹内 夢
医学部 保健衛生学科
看護学専攻４年

■ 基盤看護学演習

２年次通期で看護実践の基盤となる基礎看護技術を学びます。看護に共通する安全やコミュニケーション、観察などの基本的看護技術や、清潔、運動、睡眠などの日常生活援助技術、注射や採血などの治療・検査に伴う看護技術を３～４人のグループで演習します。失敗しながら試行錯誤を繰り返しますが、上手くできたときの達成感や満足感は格別です。実習着を着ると看護学生としての自覚と覚悟が生まれ、看護師になる夢に近づけます。９月には基盤看護学実習があり、受け持ち患者さんの看護を通して、学んだ成果を思う存分発揮できます。

■ 成人看護学演習

３年次前期では、既習の病態生理および成人看護学の講義内容を関連づけて、成人期にあり、急性、慢性に経過する健康障害を有する人々への実践的看護技術、看護計画の展開を学びます。シミュレーション学習やグループ討議なども活用し、実際の臨床場面を想定した演習を行います。患者や医療者の体験、チーム医療を含め、段階的に知識・技術や思考能力を習得していきます。後期に続く本大学病院医系診療部門を始め、多くの現場で実習をし、看護をすることの意味を見いだしていきます。

■ 卒業論文ゼミ

３年次から卒業論文に取り組む準備として研究法や文献検索の学習を始め、４年次の４月から本格的なゼミを開始します。興味ある分野を選択し、学生ごとに異なるテーマで看護研究に取り組み、12月にはその成果を卒論発表会で報告する、大学院生とも時間を共にし、ディスカッションを通して研究者の卵となります。

卒業生から

卒業後も学び続けられる環境で、充実感をもって仕事に取り組む

東京医科歯科大学病院では、学生から新人教育までを一貫したものと考え、サポートする体制が構築されています。学生と看護師スタッフとの交流会を通じて現場の生の声を聞くことができ、人事交流の目的で看護師スタッフが学生に実技指導を行うこともあります。私が学生の時にはなかったアーツルームという実習場所もあり、学びやすい環境が整っています。

働き始めてからも研修体制がしっかりしており、学びながら働くことができる病院です。

日々患者さんが元気に退院していく姿や、スタッフが成長していく姿をみて充実感を覚えながら働いています。

東京医科歯科大学病院
看護部 副看護部長
野秋 蘭子
医学部 保健衛生学科
看護学専攻 1994年度卒業

医学部

保健衛生学科
検査技術学専攻

保健衛生学科
検査技術学専攻
Webサイト

保健衛生学科の教育理念

本学科は、看護学、検査技術学の２つの専門領域における知識・技術を教授することにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏づけされた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を養成します。

検査技術学専攻の教育目標

先端医療技術の進展に対応しうる学際的視野と研究能力を有する資質の高い人材および医学、保健医療における検査技術の発展とその教育・指導に従事する人材を育成する。

教育内容

1）専門的かつ学術的な視点から教育を行い、臨床検査学の基礎から最先端に至る知識と技術を修得する。
2）医療や医学研究に携わる者としての基本的な教養､倫理観、責任ある態度を身につける。
3）新しい臨床検査技術の開発や関連分野における独創的研究の基礎となる、科学的な思考法を身につける。

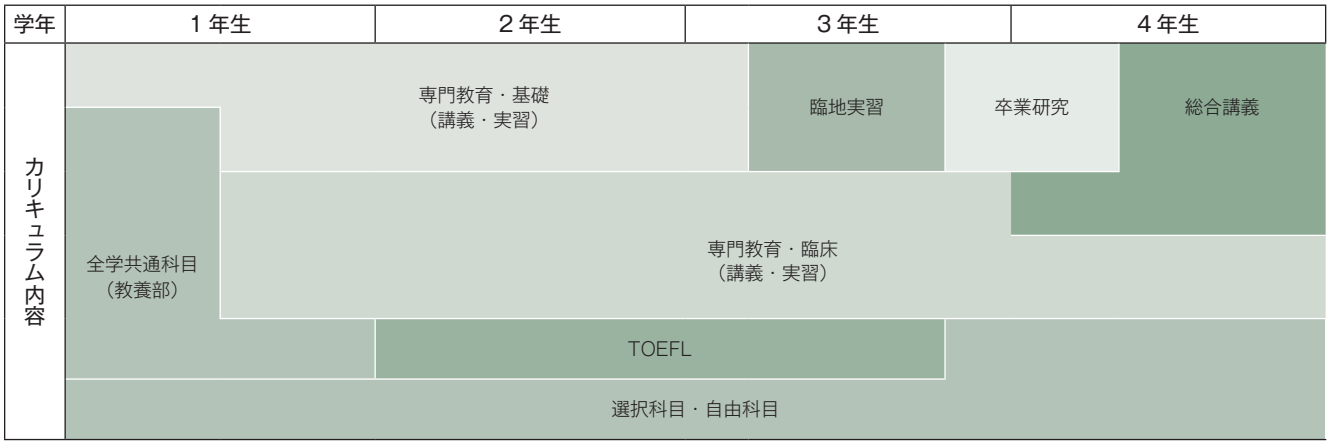
１年次前期に教養部で全学共通科目を履修します。１年次後期より専門科目を学び始めます。医療人としての高いモチベーションを持って勉学に励んでもらえるように、１年次の病院見学や３年次の臨地実習により実際の検査の現場を体験し、さらに他専攻の学生とともに多職種連携教育プログラムを受講します。２年次の講義は基礎医学、３年次の講義は臨床医学を主体に、学生が無理なく理解できるようカリキュラムに配慮しています。形態・病態制御学系、物質・代謝学系、機能調節・制御学系、病因・病態学系に大別された主要科目では、講義と実習を組み合わせた実践的なカリキュラムとしてあります。さらに、検査管理・社会医学系、総合分野、外国語の科目を加えて、広く臨床検査学について学びます。また、多様化する社会のニーズに対応した教育内容の充実にも力を入れており、必修科目以外にも１～４年次に多彩な選択科目、自由科目を開講している点が本学の特徴です。大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所、生体材料工学研究所と連携した講義、および全学共通科目（人工知能（AI）関連の科目、英語、多職種連携等）や全学共通自由科目（臨床疫学プログラム、４大学連合複合領域コース）が組まれています。３年次には臨地実習に続いて卒業研究として学内外の様々な関連分野で研究を実施し、研究発表や研究論文の作成を行い、各種の研究分野への学問的探究心を養います。４年次には総合講義で３年次までに学んだ臨床検査の知識を整理し、臨床検査学に関する最新の知識を臨床現場の専門家から学び、最後の仕上げとして卒業試験に臨みます。グローバル社会の実現に向けた全学の取り組みの一環として、本専攻でも英語教育や海外留学の支援に力を入れています。海外大学との連携･短期研修も積極的に行っており、アメリカワシントン大学、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、ラオス保健科学大学、ネパールトリブバン大学、タイチュラロンコーン大学、台北医学大学、ガーナ大学と交流があります。新型ウィルスの流行の終息後は、対面式の講義、実習等と非同期型の講義を組み合わせることにより、ポストコロナ社会における効果的な教育指導の実現を目指します。

○卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士(保健学)
資格：臨床検査技師国家試験受験資格

知識・技術・実践から学問を極め
これからの保健医療に貢献する

本専攻は国立大学検査系のパイオニアとして、検査技術学の教育・研究を通して、医学保健医療についての豊かな教養と幅広い専門知識を持つ医療人を育成することを目的としています。
専門的・学術的な視点に立った教育を行い、これからの保健医療に対する社会の要請に応えられる人材を養成しています。
その特徴は、先端医療技術の進展に対応できる学際的視野と研究能力を修得し、医学・保健医療における検査技術の発展に寄与し、新たな世代の指導にあたる研究者・教育者を養成する点にあります。
全国の国立大学法人の先陣として、1989年に発足して以来、本学を巣立った卒業生が、研究・教育機関の指導者・研究者として、あるいは病院の臨床検査技師のリーダーとして活躍し、その将来を期待されています。

カリキュラム構成図



授業科目

■ 必修科目

人体構造学講義
人体構造学実習
病理検査学講義Ⅰ・Ⅱ
病理検査学実習
血液検査学講義
血液検査学実習
生化学講義Ⅰ・Ⅱ
生化学実習
薬理学
分析化学検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
医用システム情報学講義Ⅰ・Ⅱ
医用システム情報学実習Ⅰ・Ⅱ
生理学講義
生理学実習
臨床生理検査学講義Ⅰ・Ⅱ
臨床生理検査学実習Ⅰ・Ⅱ
病原体検査学講義Ⅰ・Ⅱ
病原体検査学実習Ⅰ・Ⅱ
免疫検査学講義
免疫検査学実習
遺伝子・染色体検査学講義
遺伝子検査学実習
臨床検査総合管理学
医学情報処理演習Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生学講義
公衆衛生学実習
医療概論・関係法規
臨床病態学Ⅰ・Ⅱ
総合講義
臨地実習
卒業研究（Ⅰ）（Ⅱ）

AI・データサイエンスのための数学（全学共通）
医療とAI・ビックデータ入門（全学共通）
アカデミック・リテラシー（全学共通）

■ 選択科目

遺伝学
生体医工学
分子生物学
心臓生理学
アドバンスド生理機能検査学
AI実践演習
心電図判読
生命理工学概論
医療とAI・ビッグデータ応用（全学共通）
Learning Medical English
System-based medical terminology（全学共通）
Diagnostic Procedures in English（全学共通）
英語Ⅱ（全学共通）

■ 自由科目

短期海外研修（A）・（B）・（C）・（D）
IMRAD Format Presentation in English（全学共通）

講義・実習風景

■ 分析化学検査学

分析学を中心に臨床化学検査の概要を学びます。尿中成分や血中成分の定性・定量検査の原理・特徴・方法を学びます。また、他の検体の成分分析や化学検査についても学びます。また、放射性同位元素を用いた検査法について学びます。

■ 生理学、臨床生理検査学、臨床病態学

人体の機能について学び、様々な機器を駆使して実際に患者に接して行う検査について学びます。肺の機能を調べる方法、エコーを用いて肝臓、胆嚢、腎臓、膵臓、脾臓、甲状腺、乳腺などを検査する方法、心電図、エコーなどを用いて心臓や血管の形態や機能を検査する方法、脳波や筋電図を利用して神経や筋肉の機能を診断する方法を学びます。また、各診療科より講師を招いて、生体における疾患および病態、臨床検査にて異常所見を呈する原因について学びます。

■ 病原体検査学、免疫検査学

微生物学や感染症の診断・治療に用いられる微生物学的検査法を学びます。感染症の原因微生物を検体から検出・同定し、薬剤感受性試験を行い、診断治療に役立てる方法を学びます。また、免疫機能の異常による病変、その検査の原理・特徴・方法、輸血検査について学びます。

在学生から

より深く、より多く学び、活躍できる臨床検査技師を目指す

本学の検査技術学専攻の特色は、少人数で多様な分野を学ぶことができる充実した環境にあると感じています。特に専門科目では、1学年約35名の学生に対して10名以上の先生がそれぞれの分野で講義や実習を担当されるため、先生と生徒の距離が近く、授業や研究内容について質問しやすい環境があります。また、実際に現場で活躍されている医師や検査技師の方、他大学の先生による講義もあり、医療にまつわる多様な領域で知見を広めることができます。本専攻では国際教育にも力を入れています。私は自由選択科目の1つとして、海外の大学の学生とオンラインでディスカッションし、最後にプレゼンテーションをするプログラムに取り組みました。英語でコミュニケーションを行うことの難しさを感じつつ、海外の学生のアクティブな態度によって学びの意欲がかきたてられる、貴重な経験となりました。

真面目で意欲的な生徒が多い本専攻で、臨床検査について学びませんか。

三澤 瞳
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻４年

■ 病理検査学

主な疾病・病変による臓器の変化、その成因を理解し、診断のための病理学的検査法を学びます。病理診断、細胞診断のための標本を作成し、染色し、顕微鏡で観察します。

■ 人体構造学

正常な人体と、それを構成する細胞から器官までの基本的な形態と構造を学びます。模型や実物の臓器・骨などを観察、スケッチしながら学びます。

■ 血液検査学

血液成分の産生機構・形態・機能および各種血液疾患と血液検査について学びます。採血実習ではお互いに被験者になって基本的手技を修得します。

■ 医用システム情報学

検査診断機器の動作原理や性能が理解できるように、電気・電子回路、通信、情報科学などの基礎を学びます。機器の使用、安全管理に関する技術を修得します。検査や研究のデータ処理や統計検定について学びます。

■ 遺伝子・染色体検査学、生化学

遺伝子の構造や疾患との関連性、遺伝子解析、その検査法を学びます。ヒトの遺伝子情報の倫理的な扱い、組み替え遺伝子実験について学びます。また、組織、個体レベルにおける生体高分子の構造、反応、機能について学びます。

■ 臨床検査総合管理学

検査の精度管理と品質保証、臨床判断基準、検査室の安全管理について学びます。

■ 公衆衛生学

疾病予防・健康増進の手法、環境や生活習慣等の影響、保健・医療・福祉の制度について学びます。

■ 医療概論・関係法規

医学・医療を取り巻く情勢を概観し、臨床検査や医療に関する法規を学びます。

■ 薬理学

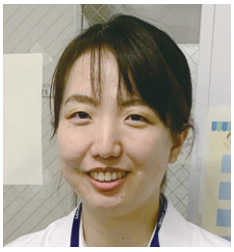
薬物が生体に及ぼす作用、生体による薬物の吸収・代謝・排泄について学びます。

卒業生から

臨床検査の発展を願って

臨床検査技師には様々な活躍の場があります。血液検査、生理機能検査、微生物検査、病理検査や遺伝子検査など分野も幅広く業務内容もそれぞれ異なります。治療や診断をするうえで検査結果とはその根拠となるものであり、検査の品質を保証する臨床検査技師は重要で欠かせない存在です。新型コロナウィルス感染症（COVID-19）関連の報道でワクチン接種やPCR検査の話題から臨床検査技師という職業を知った方もいらっしゃるかもしれません。今後も医学の進歩や社会情勢の変化により更なる業務の拡大が期待されます。

本学では臨床検査の基礎的な知識や技術を習得するだけでなく研究や国際交流にも力を入れています。私もタイやネパールでの研修に参加し海外の医療に触れることができました。また比較的小規模な学科のため学生同士、先生方とも近い距離で過ごすことができるのも魅力の一つです。他学科の学生との交流は同じ医療系ながら他職種の視点を知る良い機会になると思います。在学当時を振り返り本当に恵まれた環境の中で貴重な経験を得ることができました。受験生の皆様には様々な選択肢があると思いますが、ぜひ臨床検査に興味を持っていただけると嬉しいです。



東京大学医科学研究所
附属病院 検査部
佐藤 和佳菜
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻
2017年度卒業

歯 学 部

歯学科

歯学科
Webサイト

歯学科の教育理念

豊かな人間性を有し、使命感をもって全人的な歯科医療を実践し、国民の健康維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科医学・歯科医療の向上に貢献できる指導者を育成します。

歯学科の教育目標

1. 幅広い教養を身につけ、歯科医師としての豊かな人間性を培う。
2. 基本的な科学の原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
3. 科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。
4. 全身を理解した上で、口腔領域の疾患の予防、診断、治療に関する知識と基本的技術を修得する。
5. 社会における歯科医学・歯科医療の役割とその重要性を理解する。

教育内容

今、歯科医療は変化しつつあります。

口腔内の環境が全身の疾患と関連しており、様々な疾患の予防、治療には口腔の衛生環境、機能を健全に保つことが大切であることがわかってきました。これからの歯科医師には、最先端の歯科医療を行う技術、知識の習得が求められるのはもちろんのこと、社会の高齢化、医療の複雑化が要求する多職種間の連携による包括的医療へ、口腔のスペシャリストとして参加できる知識、能力が要求されています。

本学歯学科は、将来、歯科医学の臨床、研究において指導的医療人となる歯科医師、また、高度な社会的要請に対応できる歯科医師を養成するため、教育に対する様々な工夫を行っています。

また、2023年度1年生からは新カリキュラムが導入されています（28ページ参照）。ここでは2年次以降のカリキュラムは今後の予定として紹介します。

1年次前期は教養部で全学共通科目を履修し自己の教養を深めます。教養部は、医療系総合大学である特徴を生かし、学部学科を超えた友人を作る場でもあります。

1年次後期からは湯島地区で教養教育、多職種連携教育、医歯学基礎教育、歯科臨床教育が行われます。1年次後期の「歯学入門」では、歯科医学と歯科医療の現状を認識し、医療人としての基本的態度を学びます。また、3年次までに解剖学、生理学、生化学、病理学など、人体の構造、機能、病態の基礎について学習します。多職種連携教育は、医療系総合大学である本学ならではの特色であり、医学科など他学科の学生と共に、「互いに教え、教えられる」形でチーム医療について学びます（7、8ページ参照）。4年次からはいよいよ歯科臨床についての講義、演習あるいは実習が始まります。

また、施設での体験学習を通して「人間観」を獲得し、さらに自己理解を深めることを目標とした「行動科学基礎」、口腔領域における疾病のケースシナリオを用いて、解剖学、生理学などの基礎医学の知識を疾病の病態解釈と理解に統合する「病態科学演習」、口腔に関する一つのテーマに沿って様々な側面からの知識の整理を行い、より深い理解を行う「課題統合セミナー」、将来の歯科医師としての自覚を高めるために、実際の歯科臨床の現場を体験し、e-learningや動画・模型を用いたシミュレーション教育によって歯科臨床を体験する「歯科医療基礎」、学年を越えた学生が一緒に興味を抱く医歯学領域のテーマを自ら選び、理解を深める「学年混合セミナー」など、自主的学習態度、論理的思考能力を養い、科学的に問題解決の方法を修得するカリキュラムが組まれています。

さらに、本学では海外の多くの大学との学術交流を通じて国際交流が活発に進められており、本学科も学生を積極的に海外研修に派遣し、国際性を養う制度が充実しています。

また、研究者や研究マインドを持った歯科医師を育てるため、1年次より「研究入門」を開講し、3年次後期に長期（2～3ヶ月間）の研究活動を行う「研究実習」につながる学修を行います。「研究実習」を外国の研究室も含めた学外研究機関で行うことも可能です。さらに研究を継続したい場合、4年次修了後に本学大学院に進学して博士号を取得後、復学して歯科医師免許取得を目指すDDS-PhDコースも選択できます。

そして4年次（予定）には、臨床実習前の全国統一試験（共用試験）を受験します。この試験は、それまでに習った知識の総合的理解力を評価するコンピュータを用いた客観試験（Computer Based Testing: CBT）と、診療に参加する学生に必要な基本的診療技能・態度を評価する客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：OSCE）で構成されています。

これらの試験に合格すると、5年次から6年次に本学歯学部開設以来の伝統として約1年6ヶ月行われる、診療参加型の「包括臨床実習」を履修します。学生には日本で最大の1日来院外来患者数を誇る本大学病院歯系診療部門から学生用患者が配当されます。学生は原則として患者の医療面接から、診断、処置、予後観察、メインテナンスに至る包括的全人的な治療の実践を経験します。患者治療を直接行う経験を通じて倫理観を醸成し、包括的歯科医療の理論と実際を実践体得し歯科医師としての自覚を高めていきます。

伝統に裏打ちされた世界に誇る教育環境
世界の歯科医療をリードする人材を育てる

本学科は2018年に創立90周年をむかえた日本初の国立歯学教育機関としての伝統を誇りとし、常にさらなる発展を目指すことで、2023年QS*世界大学ランキング歯学分野において、国内第1位、世界第3位の高評価を得ています。

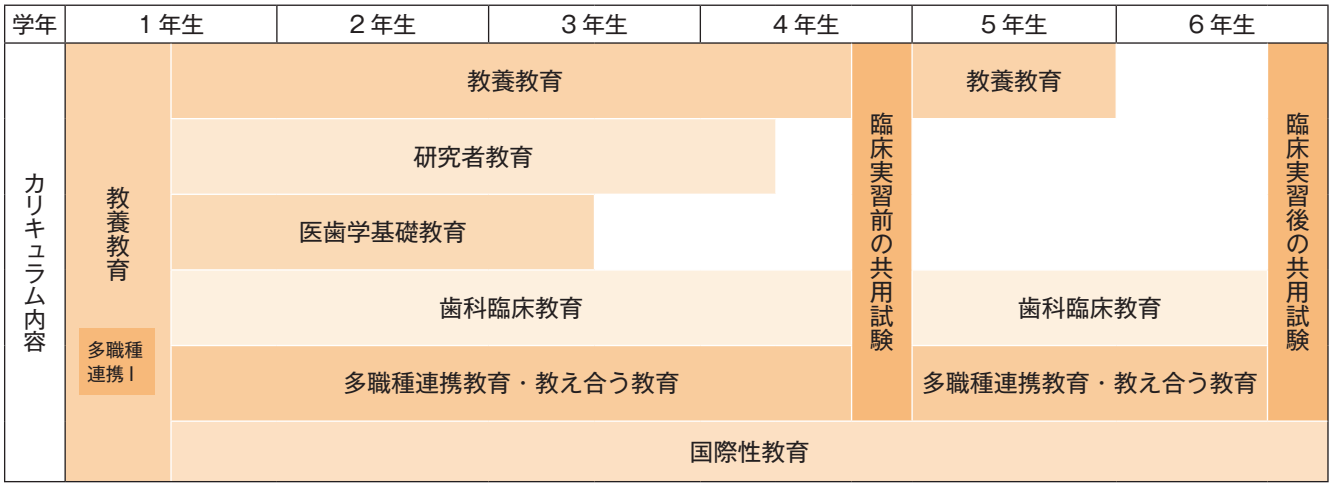
本学科では6年間の教育を通じて、国内はもとより、国際的にも活躍できる指導者的歯科医師、歯科研究者の育成を目指します。

そのために、歯科医師養成機関のフロントランナーにふさわしく、経験豊かな教育スタッフ、充実した施設、多彩な教育コンテンツを用意し、歯学の基礎から臨床に至るまでの質の高い教育を提供しています。

一方、歯科医学・医療においても国際化は進展しています。本学では世界に広がる協定校とのネットワークを生かし、海外研修など国際的感覚を身につける教育にも積極的に努めています。

*英国の世界大学評価機関のクアクアレリ・シモンズ（QS）による

カリキュラム構成図



※2023年度入学者より、学内のカリキュラム再編に伴い、新たなカリキュラムを導入しています

新カリキュラムについて

2023年度新カリキュラムでは、科目配置・内容を見直し、歯学科の教育目標の達成をさらに高い次元で行うことを目指しており、以下のような特徴が備えられています。

- 多様な学びのスタイル（登校・遠隔授業）を取り込んだカリキュラム構成
- 早期から歯学専門教育を学ぶことが可能な1年後期からの専門科目の開始
- 研究活動への参加を1年から開始し、長期の研究活動を可能とする長期研究室配属プログラムの提供（研究実習の拡充）
- 幅広い教養を修得し豊かな人間性を培うために、低学年から高学年まで通じて学ぶ一般科目の配置
- 医療系総合大学の特徴を活かした、他学科学生（医・看護・検査・口腔保健衛生・口腔保健工学）との合同授業の拡充　など。

歯学科と口腔保健衛生学専攻との合同演習

歯学科は入学時から良き歯科医師になるための様々なプログラムを行っています

早期臨床体験実習

歯科医師としての自覚を早期に持ってもらうために、少人数のグループに分かれ、本大学病院歯系診療部門の診療科に配属されて、見学を通じて医療の実際を体感します。そこで疑問に思ったこと、興味を持ったことなど自ら課題を見つけて、調査・実験・討論等を通じてその課題を解決します。これらの過程と成果をクラス全員の前で発表するとともにレポートとしてまとめ、プレゼンテーションの基礎を身につけます。
(2023年度からは対面授業と遠隔授業を併用する予定です。)

行動科学基礎

医療者の基本であるプロフェッショナリズムの核となる歯学生の人格の成長を主題としています。医療者という役割を持つ前に一人の人間として「自分を知り、互いに交わり、互いに成長のプロセスを歩む」ことを意識しながら、多くの人との出会いに挑戦します。

他者と関わる中で、自分自身の中に起こってくる考えや感情、その変化を意識し、言葉で表現し、必要に応じて相手に伝える。また、相手の話を聴き、確かめ、相手を理解する体験をし、最終的に人と互いに理解し合う、あるいは「人との出会い」の意味を体験的に理解することを目的としています。

写真は視覚障害の方々の日常を疑似体験し、白杖について教わっている学生の様子です。
(新カリキュラム移行に伴い、授業内容が変更となる可能性があります)

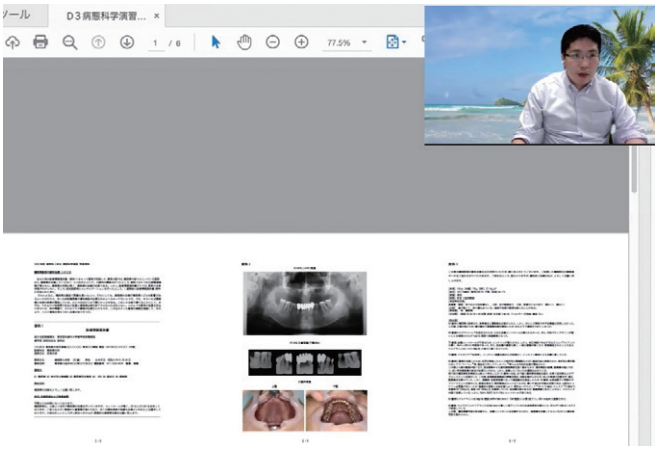
病態科学演習

問題発見・解決型思考力の向上を目指して、3年次に行われます。

臨床症例の病態を症状や検査データを元に推論し、2年次に学習した基礎医学の知識を用いて論理的に説明できるスキルを身につけるトレーニングを行います。

自学自習を目的に、少人数の学生がチューターの助言を得ながら個々の問題解決に必要な事項を学ぶTBL(Team-based learning)のチュートリアルです。

2020年度からは遠隔授業(上の写真)を受けながらグループ内でweb会議システムを活用して課題に取り組む授業形態になっていますが、状況が整えば感染対策を徹底した上で2019年度以前のような対面でのグループ学習(下の写真)も取り入れたハイブリッド方式の授業も実施できる予定です。



学年混合セミナー

専門科目を学ぶ３～５年次（現行）の学生が、様々なテーマの授業を選択し、他学年の学生と一緒に授業を受講します。歯科の世界を越えた広い視野を持ち、柔軟な考え方ができる人材を育成することを狙いとしています。

2023年度の授業テーマには、「海外留学と海外協力」、「研究論文作成・特許取得」、「明るい開業の道しるべ」、「アカデミアで活躍するプロフェッショナル」、「Presentation in English(Basic)/(Advanced)」、「キャリアupのためのコミュニケーション/自分らしいキャリアを創るには～男女で考えるキャリアデザイン」、「歯科医師の進路」、「製品開発への途」、「他職種との連携・協働 –歯科医師に求めること–」、「歯科医学教育の「いろは」を学ぼう」と、学生の自由な観点での学びを促すテーマを提供しています。

研究実習

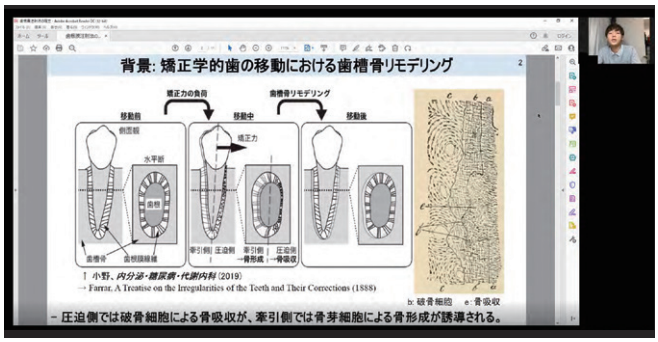
歯学科教育目標である

・基本的な科学の原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。

・科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。

に基づいた科目です。１～３年次に受ける歯科医師として必要な基礎歯学教育の集大成として、研究についての「いろは」を学ぶ研究入門です。学生ごとに興味ある研究テーマを選択し、学内外の研究室で最長で約３ヶ月実際に研究を行い、その成果を発表します。学外コースでは、国内だけでなく、海外の研究室で行うことも可能です。休暇中の実習期間延長も可能で、より充実した実習の成果報告を発表会で行えます。2020～2022年度の発表会はオンラインで開催されましたが、今後は状況が許せば対面開催となります。

なお、2023年度入学者より導入予定の新たなカリキュラムでは、本実習は現在の４年次前期から３年次後期に時期を繰り上げて実施する予定です。



包括臨床実習

５年次の秋から６年次（現行）には本学歯学部開設以来の伝統として、診療参加型の「包括臨床実習」が約１年６ヶ月行われます。

本大学病院歯系診療部門の学生専用の診療室で、あらかじめ学生の治療の同意を得た患者さんを担当し、ベテランの教員の指導のもとで、初診時の医療面接から、検査、診断、処置、予後観察、メインテナンスに至る包括的全人的な診療を実践します。

また、様々な専門診療外来、病棟での実習も併せて行います。

恵まれた環境のなかで歯科医師人生の基礎を培う

包括臨床実習では、各専門科の指導医の下、学生１人につき10～20名の患者さんを担当し、診療の全過程を行います。患者本位の歯科医療を提供するためには、口腔内の特殊性や全身疾患への配慮、治療に対する価値観や社会的背景など多面的に考える必要があるため、様々な症例を通して、知識や技能の研鑽ができるだけでなく、担当医としての責任感や医療人としての人間性をも高めることができます。このような歯科医師の基礎となる貴重な臨床経験を、学生のうちから豊富に積むことができるのは、本学ならではの魅力だと思います。

実習中は、知識や技術不足、自分の未熟さを痛感することも多々ありますが、患者さんに喜んでもらえた時には、大きなやりがいを直に感じることができます。毎日が新たな学びの連続で、親身に相談にのってくれる指導医の先生方、共に励まし合い成長できる同期の仲間たちに支えられながら、充実した日々を送っています。

大村 実果里
歯学部 歯学科６年

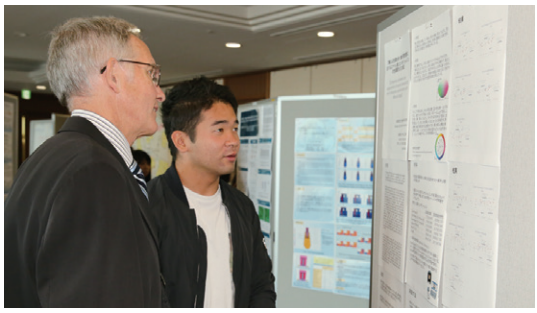
研究実習による国際交流

歯学科の研究実習は、実習期間が最長で約３ヶ月となります。実習前に配属先を決定しますが、配属先は学内では歯学科の研究室に加え、基礎系研究室を中心に全学的に受け入れをお願いしています。

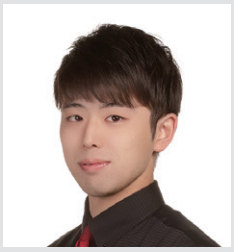
学外コースでは、国内他研究機関への配属、および海外の研究機関研究室への配属があります。国内国外にかかわらず、原則は学生自身が配属先を探すことになっていますが、教員による配属先の紹介などの支援もあります。2013年度から2019年度までは毎年海外への派遣がありました。2020、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大のために派遣ができませんでしたが、2022年度は４名の学生が派遣されています。これまでに、英国、カナダ、韓国、ドイツ、米国、タイの大学への配属実績があります。

研究実習中の実習成果は、授業の一環としての発表会のみならず、国内学会や国際学会での学部生セッション、全国歯学部学生による研究発表大会（SCRP）、タイ国チュラロンコーン大学歯学部および米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校のResearch Day、国際歯科研究学会(JADR) 日本部会Joseph Lister Award選考会などで発表する機会があります。

歯学部では、研究実習での成果を日本語のみならず、英語で発表する機会を提供していきます。



｜未来をつかむ大きな一歩



小倉 佑太
歯学部 歯学科５年

私はUniversity of TorontoのDr.Gong’s Labで約３か月にわたり、現地研究員と共に研究をさせて頂きました。世界でもトップレベルを誇るトロント大学のデンタルラボで研究に勤しむことができたのは何より貴重な経験であったと思います。研究テーマは齲蝕を引き起こす原因菌であるS. mutansに対して抑制作用のあるS. salivariusを抽出し、菌本来のプロバイオティクスとしての活性を引き出す新たな齲蝕制御法を見出すというものでした。

このテーマによる研究論文はこれまで１件しか報告されておらず、その１件はDr.Gongの研究室で発表されたものです。未だ解明されていない部分も多く世界でも注目されている研究のひとつであり、最先端の研究に携わることができたことを嬉しく思います。研究チームの皆さんはとても優しく親切で、はじめてトロントを訪れた私に街の案内をしてくれたり研究に関しても一から丁寧に説明してくれたりと親身になって接してくれました。毎週行われる研究成果発表プレゼンテーションではお互いの研究の進捗について話し合い、改善策を考えるため意見を出し合うなど研究員同士の繋がりも強く感じました。

また休みの日には、トロントで開業されている先生のもとでクリニックの見学をさせて頂きました。現地の歯科医院を訪問して日本との違いを学んだり、将来のキャリアについて考えたりと有意義な時間を過ごすことができました。このプログラムを魅力に感じて海外での研修を志望する学生もたくさんいます。ぜひ皆さんも自分自身をレベルアップさせ、将来に向けてステップアップできるような経験をして下さい。

｜学びのきっかけに溢れていたKing's College Londonでの研究実習

森田 泰基
歯学部 歯学科５年

私は４年次にKing's College LondonのDr.Ciro Chiappiniの研究室で約３か月間の研究実習を行いました。同校は14名ものノーベル賞受賞者を輩出しており、世界中から学生や研究者が集まる大変歴史のある学校です。研究室はテムズ川を一望できる場所に位置しており、そこで多孔質シリコン製ナノニードルの応用について取り組んでいました。いくつもの実験を行い、得られた結果を受けて次へのアプローチを考える中で行き詰まることも多々ありましたが、研究室の方々の力を借りながら前に進むことが出来ました。他の研究室とも交流が盛んで、多様な研究が行われていることを知ることができ、大変興味深かったです。

海外研修プログラムを経験することは、多くの人と出会い、海外から見た日本という視点も得られる貴重な機会です。私は長期の海外渡航を初めて経験しましたが、大学から沢山のサポートを受けられたので安心して臨めました。

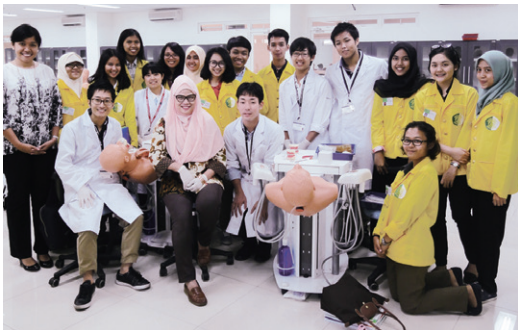
今ではこの経験が自分を成長させるための原動力となっています。

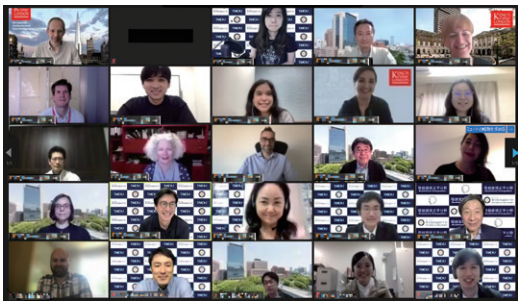
姉妹校との双方向の学生交流

歯学部は、大学間も含めて世界26か国・地域の54大学の歯学部と学術交流協定を締結しており、学生交流活動も活発です。特に、米国のボストン大学、英国キングス・カレッジ・ロンドン、タイのチュラロンコーン大学やシーナカリンウィロート大学、インドネシアのインドネシア大学、ベトナムのホーチミン医科薬科大学などとは、毎年、双方向の学生交流を行っています。歯学科学生は、研究実習以外にも春・夏季休業中に、国際研修プログラムに参加する機会があります。

派遣プログラムでは、本学学生を約2週間海外に派遣し、病院・診療所の見学、大学での講義・実習への参加、地域の保健医療活動の見学などの研修プログラムを、現地の教員の協力を得て実施しています。土日には、現地の学生と交流する機会もあり、一緒に食事や観光をして仲良くなり、友達となってネットワークを広げています。

受入プログラムでは、交流相手大学の海外学生を受け入れ、本学の教員の指導のもと、基礎・臨床分野での研究体験、病院見学、講義・実習への参加、医療関連企業等の見学など、実践的な内容の歯科研修プログラムを提供しています。また、派遣プログラムに参加した学生が中心になって、海外学生の日本での生活のサポートや、観光案内などを積極的に行っています。2020～2022年度は実際の派遣や受入ができず、オンラインでの交流を実施しました。2023年度以降は研修前の準備などにオンライン交流を活用しながら実際の交流を行う予定です。





| Londonでの研究活動と交流から得たかけがえのない経験

杉山 夏希
歯学部 歯学科5年

私はKing's College LondonのCentre for Craniofacial & Regenerative Biologyという分野に属するDr. Maisa Seppalaの研究室で研究実習をさせていただきました。こちらの研究室で、異常なShhシグナルの存在下での遺伝子の相互作用が臼歯における融合歯をもたらす分子・細胞メカニズムの解析に取り組みました。Maisa教授と研究室の大学院生がディスカッションを通して多くのアドバイスをくださり、真摯に対応してくださったおかげで充実した研究活動を経験することができました。また、ロンドンでの生活は、かつてないほど自身の視野を広げるもので毎日が刺激的でした。世界各国から集まった学生達と公園でピクニックや運動、ロンドン観光を楽しんだり、食事をしながら互いの話をしたり、図書館で議論しながら勉強したりと、現地の人々や友達との交流は一生の宝物です。3か月間の研究活動とロンドンでの生活は、歯科医師としての視野と自分自身のビジョンが大きく広がったかけがえのない経験であり、このような機会に恵まれたこと、支えて下さった全ての方々に深く感謝しております。

| これまでもこれからも続く世界との繋がり

椿 礼子
歯学部 歯学科4年

2023年3月、タイのチュラロンコーン大学とシーナカリンウィロート大学にて短期研修を行いました。両校とも本学との交流が長年続いていること、そして対面での交流が再開されたこともあり、先生方や学生の皆さんにとても温かく歓迎していただきました。

研修では大学での授業に参加させていただいたり、病院での治療を見学させていただきました。タイの大学における歯学部教育や歯科治療が、本学と似ている点や異なる点を知る貴重な機会となりました。

そして、タイの先生方と昼食にタイ料理を食べたり、放課後や週末にタイの学生の皆さんとバンコクの街を観光したり、タイの文化を実際に身を持って体験することでタイという国をより深く知ることが出来ました。

日本から遠く離れた国でも、歯科医師になるという同じ夢に向かって頑張っている仲間がいることを強く感じられる、そして一生ものの繋がりが得られる、大学生活に大きな影響を与えた経験の一つとなりました。

講義・実習風景

■ 人体の構造と機能

歯科医師は人の「病態」を「正常」にもどすために治療を行います。
「病態」がわかるためには「正常」がわからなければいけません。人体の構造と機能では、「構造」と「働き」についての「正常」な状態を学びます。
人体の構造について学ぶのが解剖学です。解剖学実習では、歯科医師と関わりの深い頭頸部だけでなく、全身の構造について学びます。また、歯学部独自の科目として、「歯の解剖学」があり、直接の治療の対象となる乳歯、永久歯の形態、構造を学びます。写真は人体の構造を顕微鏡で観察する実習(組織学実習) です。
人体の働きについて学ぶのが生理学です。生理学実習では、講義で学んだ神経の基本的な働きや、反射、咀嚼運動、味覚などについて、動物や人を対象に実験を行い、実際に自分の目でそのメカニズムを確かめます。また、自ら実験を行うということは将来研究者を育成するという目的も持っています。

■ 咬合回復

歯周病などが原因で歯をなくした患者さんには、入れ歯やブリッジ、インプラント等の方法でなくなった歯を補って口腔機能と形態の回復を行います。このような学問を補綴(ほてつ) 学と呼んでいます。補い綴るための学問です。写真は全ての歯をなくした患者さんにいれる入れ歯(全部床義歯) を作成する実習の様子です。

在学生から

専門的な歯学と包括的な医療の学び

本学では１年生の際に医学科や保健衛生学科など他科の学生と共に教養を学びます。その際にできた繋がりをもとに、２年生では医学科と共に解剖や基礎医学など全身のことに関しての知見を広げます。医学科と共に学習をし、その目線も学べることは本学の強みの一つです。

３年生からは臨床的歯学に関しての講義や実習が始まります。実習は模型に対して行い、知識や手技を固めていきます。それらの基礎を固めると、いよいよ５年生の後期からは実際に患者さんに対して治療を行っていきます。治療は各科の専門の先生の指導のもと行います。患者さんも学生クリニックに数年以上いらっしゃっている患者さんがほとんどなので、十分なコミュニケーションをとりながら進めることが可能です。臨床実習は対人間で行うため、非常に緊張感のある実習ではありますが、学生のうちから実践的な臨床実習を安心して行うことができる環境があることが本学の強みであると考えます。

山口 博
歯学部 歯学科６年

■ 歯科生体材料

歯科医療では金属、プラスチック、セラミック等、様々な材料が使われています。歯科材料が水分を吸って性質が変わったり、何かが唾液に溶け出してアレルギーなどの原因になってはいけません。また硬い材料でないとすぐに壊れてしまいますが、あまりに硬いといろいろな形に加工することができません。この実習では歯科医療で使用される様々な材料の物理化学的特性や、生体への影響、加工方法について学びます。
写真はオンデマンド動画教材の一コマです。

■ 咬合育成・発達

子どもから大人への成長発育にともなって頭蓋、顎顔面は形態が変化します。また、歯は無歯顎から乳歯列が完成してしばらく安定した後、乳歯から永久歯に生え変わります。この時期にはむし歯や歯肉炎とともに歯の外傷や様々な原因で不正咬合(歯並び・咬み合わせの異常)が生じます。不正咬合は、審美的な問題だけでなく、機能的な問題も引き起こします。小児歯科学や歯科矯正学ではその予防、診断、治療に必要な知識と技術を学びます。写真は歯科矯正学の実習の様子です。

■ 歯と根尖歯周組織の疾患

歯科医師にとってう蝕(虫歯)の治療はもっとも重要な仕事です。う蝕が小さなうちは削ってプラスチックや金属で埋めて修復します(保存修復学)。この場合、う蝕になっている部分だけを正確に削り取る技術が必要です。う蝕が大きくなると、歯の神経が炎症を起こしたり細菌感染がおこって痛みが生じます。この場合は神経の治療が必要になります(歯内療法学)。神経の治療は骨に埋まった歯根の先端部まで行わなければならず直接目で確かめることができないので技術が要求されます。このようなう蝕の治療も神経の治療も全て患者さんの口腔内で行われます。そのため、患者さんを模したマネキンを使って、実際の口腔内とほぼ同じ環境で治療のトレーニングを行います。

卒業生から

豊富な知識や貴重な経験が得られる環境で勉強できます！

私は高齢者歯科学分野に所属し、本大学病院歯系診療部門では義歯科という、被せ物や入れ歯を必要とされる患者さんの治療を主に行う外来で診療を行っています。口腔の機能は審美や発音、咀嚼、嚥下などを担い、本大学病院歯系診療部門での歯科治療は、これらの機能を回復し、最終的に、患者さんが健康で質の高い生活を営んでいくことができるように、さまざまな外来の先生方と協力して治療を進めています。

また、近年は高齢者のフレイル(身体や認知機能の衰え・低下)が問題となっていますが、そのフレイルも口腔の機能が大いに関連していることが研究で報告されています。フレイル以外にも口腔と全身の関連性は多くの研究で指摘されていて、本学では歯学部内での他分野と連携した研究、さらに医学部とも連携した研究が広く行われています。本学は、口腔から全身の健康を実現するための多くの知識を得ることができ、そして得られた知識を臨床や研究に大いに生かすことができる場であると思います。

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
高齢者歯科学分野
講師(キャリアアップ)
駒ヶ嶺 友梨子
歯学部 歯学科2006年度卒業

歯 学 部

口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻

口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻
Webサイト

口腔保健学科の教育理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成します。

口腔保健衛生学専攻の教育目標

1．生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2．基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
3．社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4．心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
5．科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6．保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7．口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

教育内容

本専攻では、４年間で歯科衛生学を中心に保健・医療・福祉の分野にわたる総合的な学習を行います。

１年次は主に教養科目（人文･社会科学、自然科学、外国語、保健体育など）を他学科の学生とともに学ぶほか、専門基礎科目や臨床体験実習、卒業研究、多職種連携などの科目を履修します。卒業研究では、それぞれの興味や疑問を原点として研究についての基本、文献の検索等のやり方等準備を始めます。

２年次から３年次には、歯科衛生学・口腔保健衛生学の専門基礎科目及び専門科目の講義、また口腔疾患予防や健康教育、臨床口腔保健衛生に関する理論と実際を理解するための講義と基礎実習を行います。社会福祉関連科目も履修するほか、対人職には欠かせないコミュニケーション能力を身につけるための演習もあります。

臨床実習は、３年次後期から本格的に開始されます。歯科衛生に関する基礎系・臨床系科目で学んだ知識と技術を活かして、実践力を高めます。また、幼稚園や小学校などで健康教育実習を行います。

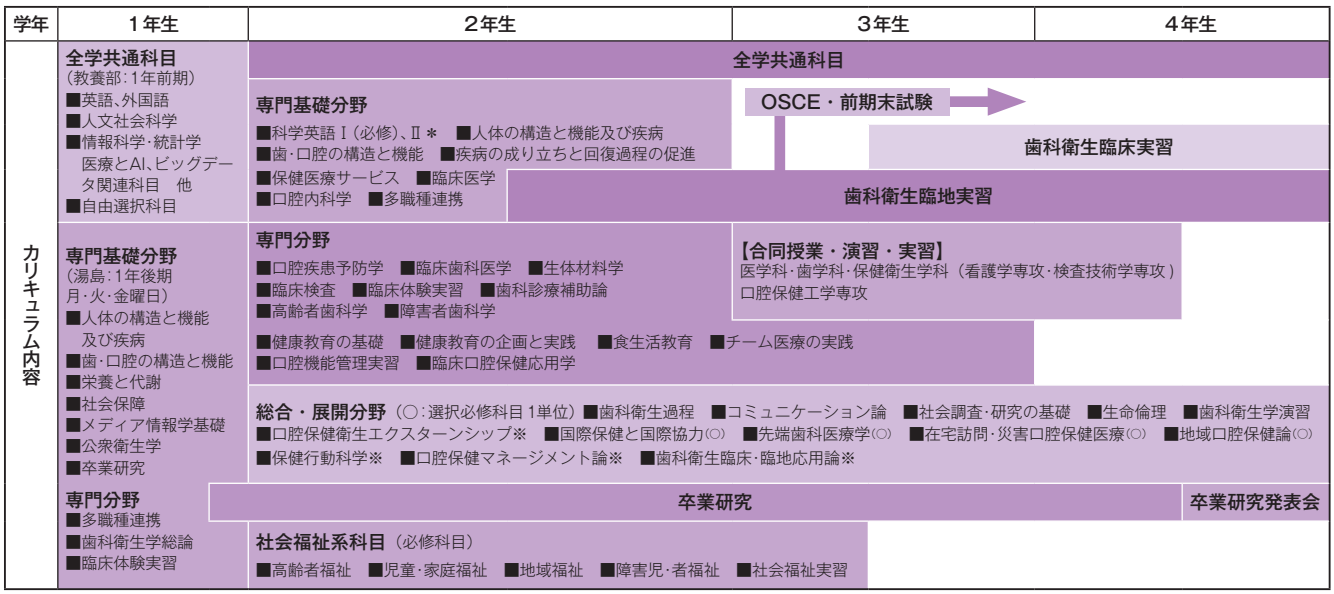
４年次には、３年次までに履修した内容をさらに展開して、総合病院、地域、障害者施設、高齢者施設などにおける臨地実習を行い、実社会で活躍するために必要な問題解決能力を培います。また、卒業研究などを通して、科学的思考法と解決法を身につけます。

卒業時には、歯科衛生士国家試験受験資格を取得できます。

口腔保健を深く学び、科学的探究心に優れ、多職種と連携して、人々の健やかな人生の実現をサポートできる人材の育成

本専攻は、保健医療、福祉各分野と密接な連携を図るとともに、口腔保健分野に関する総合的な科学的研究を行い、その成果を広く社会に還元してゆく学際的特徴を持っています。本専攻が目指しているのは、高度な専門知識と技術の習得だけではなく、多職種と連携し、ライフステージに応じた口腔の健康づくりを通じて、人々の健康で幸せな生活をサポートすることができる人材の育成です。豊かな人間性と科学的な思考力、高い倫理観を持って知識と技術を活かし、医療を中心とした様々な場で口腔保健活動が展開できる能力を持つ歯科衛生士の教育と、口腔保健分野の未来を担う研究者の育成を行います。

カリキュラム構成図



※ 自由選択科目

授業科目

■ 専門基礎分野
人体の構造と機能及び疾病
社会保障
公衆衛生学
科学英語
歯・口腔の構造と機能
疾病の成り立ちと回復過程の促進
保健医療サービス

■ 専門分野
口腔保健と専門職
歯科衛生学総論
メディア情報学
臨床体験実習
口腔疾患予防学
臨床歯科医学
食生活教育
生体材料学
臨床検査
臨床医学
チーム医療の基礎・実践
口腔機能管理実習
高齢者歯科学
障害者歯科学
歯科診療補助論
臨床口腔保健衛生実習
健康教育の基礎
健康教育の企画と実践
歯科衛生臨床実習
　育成系・維持系・回復系診療科
　総合診療科・スペシャルケア外来
　(高齢者・障害者・息さわやか)・
　口腔ケア外来・中央診療施設
歯科衛生臨地実習
　保育園・幼稚園・小学校・中学校
　保健センター・障害者センター・
　高齢者センター・総合病院・
　企業内診療所・歯科関連企業
臨床口腔保健応用学

■ 統合分野
歯科衛生過程
社会調査の基礎
卒業研究
相談援助の基盤と専門職
口腔保健と国際協力
歯科衛生学演習

■ 口腔保健衛生選択自由科目
先端歯科医療学
歯科衛生臨床・臨地応用論
歯科衛生研究
口腔保健衛生エクスターンシップ
口腔保健マネジメント論
保健行動科学
地域口腔保健論
在宅訪問・災害口腔保健医療

■ 社会福祉選択必修科目
児童・家庭福祉
障害児・者福祉
地域福祉
介護福祉
高齢者福祉
相談援助演習

講義・実習風景

■ 基礎歯学系授業

1、2年次には、基礎系歯科医学の講義と実習を通して、人体、特に歯と口腔の解剖学的構造とその生理学的機能及び代謝のしくみについて学ぶとともに、病理学的変化とその成り立ち、微生物の病原性と生体の防御反応、薬剤の作用と疾病からの回復過程について学びます。

■ 多職種連携教育

全学科共通のプログラムを、PBL形式で1年次から4年次まで実施しています。自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有し、医療・歯科医療において活躍する保健・医療・福祉の専門職についての理解を深め、共通する職業倫理や仕事に対する姿勢、多職種連携の重要性を学び、それぞれの将来像を共有することを目指しています。

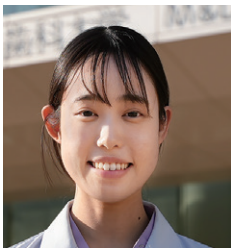
■ 健康教育の企画と実践

健康づくりに欠かせない知識や技能を身につけ、対象とする方々が行動できるようサポートするための健康教育の実践力を養います。園児、小・中学生や高齢者が対象の健康教育を企画立案し、教材を作成して実践・評価します。

在学生から

専門的知識と技術の習得に留まらない、多岐に渡る学習

口腔保健衛生学専攻では、マネキンを使用した基礎実習や学生同士がお互いに練習をし合う相互実習、大学病院での臨床実習や学外での臨地実習といった豊富な実習を通して、将来歯科衛生士として必要な専門的知識や技術を学ぶことができます。それだけでなく、小学校や幼稚園を訪問して子どもたちに健康教育を行う実習では、実践的に医療人として必要とされるコミュニケーション能力を養ったり、他学科・専攻との合同実習や演習を通して、多職種連携について学んだりできます。また、歯学だけでなく、医学・福祉系科目についても学習する機会があり、多角的な視点から口腔の健康に関する学びを深めることができます。このように本学では、単に歯科衛生士としての知識や技術を身に付けるというだけでなく、将来、チーム医療の中で口腔の健康を守るという観点から人々の健康寿命の延伸やQOLの向上に大きく寄与することのできる歯科衛生士を目指すことができます。



徳丸 慶安
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻4年

■ 口腔疾患予防学実習

２年次は模型実習、マネキン実習で、口腔疾患予防に必要な基礎的なスキルを身につけます。さらに、学生同士の相互実習を行い、患者対応の基礎訓練を行います。情報収集し、整理・統合した上で、介入計画を立てて実践する流れを身につけます。
３年次後期から４年通年の本大学病院歯系診療部門における臨床実習を通して、実践力を養成します。

■ 臨床実習

本大学歯系診療部門では、歯科衛生士及び歯科医師の指導を受けて、患者さんへの指導や歯科予防処置などを行います。口腔内の観察、検査、医療面接などから、必要な情報を収集して患者さんにとって必要な介入ができるように計画し、実践・評価します。歯磨きのことばかりではなく、生活習慣や食生活、禁煙に関する指導など幅広い内容を取り上げます。情報交換のため、ケースに関するプレゼンテーションを行い、互いに意見交換して、その精度を高めていきます。

■ 社会福祉関連演習

医療現場でも、福祉の専門的な知識や技術を持って障害のあることや環境上の理由によって、日常生活に課題を抱えている人たちからの福祉に関する相談を受けて、助言や指導、必要な時はその人の関係者(家族・医師など)との連絡や調整などの援助を行うことがあります。２年次から行われる社会福祉関連演習では高度化・多様化した福祉医療ニーズに対応でき、生活を支えるための高い実践力を養います。

卒業生から

Think Globally, Act Locally.
世界で活躍できる歯科衛生士になりませんか？

東京医科歯科大学歯学部は世界大学ランキングでも常に上位にある、国際的な評価が高い大学として認知されている大学の１つです。

ここ口腔保健学科口腔保健衛生学専攻においても充実したカリキュラムのもと、多様で世界的に著名な教員から充実した講義が受講できる環境が整っています。そのため卒業生の進路も多様であり、歯科衛生士として勤務する他、研究者、企業、行政など多岐にわたるフィールドで活躍しています。その活動の幅も広く、日本ひいては世界で活躍している卒業生が多くいます。これは当専攻の国際的な視野に立ったカリキュラムや取り組みが大きく寄与しているのみならず、基本を大切に地道で確実な能力を付与するための環境があるためだと考えます。まさにThink globally, Act locallyの精神が根付いているこの口腔保健学科口腔保健衛生学専攻で広く活躍できる歯科衛生士になってみませんか？

島根大学医学部附属病院
歯科口腔外科/口腔ケアセンター
講師/副センター長
松田 悠平
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻
2012年度卒業

歯 学 部

口腔保健学科
口腔保健工学専攻

口腔保健学科
口腔保健工学専攻
Web サイト

口腔保健学科の教育理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成します。

口腔保健工学専攻の教育目標

1．生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2．深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
3．社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4．QOL の向上に関わるものつくりの専門家として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。
5．科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6．保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7．口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

教育内容

本専攻は幅広い教養と豊かな感性、問題発見・解決能力、ならびに国際性を涵養することを目標にカリキュラムを編成しています。2023 年度からは、自学自習時間を確保し、４大学連合科目などの幅広い教育を受けられるようになり、デジタル科目の基礎、最新の歯科技工技術や多職種連携教育が行われます。

入学してすぐに「多職種連携Ⅰ」を歯学部医学部の新入生全員が受講し、多職種がチームとなって課題に取り組みます。１年次前期は主に教養部での全学共通科目を履修します。１年次後期からは「メディア情報学基礎･応用」などの基礎分野、「早期臨床体験実習」、「人体の構造と機能」、「歯の解剖学」、「感染予防」、「う蝕と歯周病」などの専門基礎分野の科目を履修します。「口腔保健と専門職」では小グループ学習を行い、医療介護の専門職とチームの一員として歯科技工士の在り方を考えます。

２年次以降は湯島地区で基礎分野、専門基礎分野、専門分野などの科目を学びます。「口腔と全身の基礎医学」では口腔と全身の生理現象と疾病の原因および薬物治療の基礎を学びます。「口腔保健理工学」では歯科技工で用いる材料器械の原理や扱い方について学び、さまざまな材料の物性測定を行います。「ヘルスプロモーション」では口腔保健の専門家としての役割とヘルスプロモーションの活動、口腔健康管理について学びます。「全部床義歯補綴学・実習」、「デジタル全部床義歯実習」、「部分床義歯補綴学・実習」、「歯冠修復学・実習」では歯科補綴装置の製作方法を最新のデジタル技術も含めて学び、製作します。「グローバル口腔保健工学」では英語で課題発表を行います。

３年次より専門的な科目が多くなります。「審美修復学実習」や「デジタル歯冠修復学実習」、「デジタルデンティストリー応用」、「インプラント歯科補綴学実習」では一人１台の CAD ソフトを用いてデジタル技術や審美歯科補綴の技術を学び、製作します。「顎顔面補綴学」では顎口腔、顔面の欠損に用いる装置の構造と製作法を学びます。「医療倫理」や「多職種連携Ⅱ」では医療従事者としての倫理や多職種でのアプローチについて考えます。「グローバル口腔保健工学実習」では英語のプレゼンテーションの作成や練習を行い、台湾での研修での発表や歯の彫刻コンペティション（カービングコンテスト）に参加し、国際交流を行います。台湾の大学病院歯科や歯科技工所見学も行い、日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献できる力を養います。後期から始まる「研究実習Ⅰ」では研究の基礎を学ぶとともに、自らが解決したい問題点を見つけ出し、研究計画を立案します。

４年次は今まで学んだことをもとに本学大学病院の患者さんの補綴装置を製作する「再建工学包括臨床実習」を行います。通常の補綴装置から顎補綴装置まで学ぶ機会があり、充実した体験ができます。「多職種連携Ⅲ」では全科専攻学生が参加し、多職種が集まり一人の患者さんの治療プランを考える実習を行います。「研究実習Ⅱ・Ⅲ」では教員の指導の下、研究成果を発表し、卒業論文にまとめます。

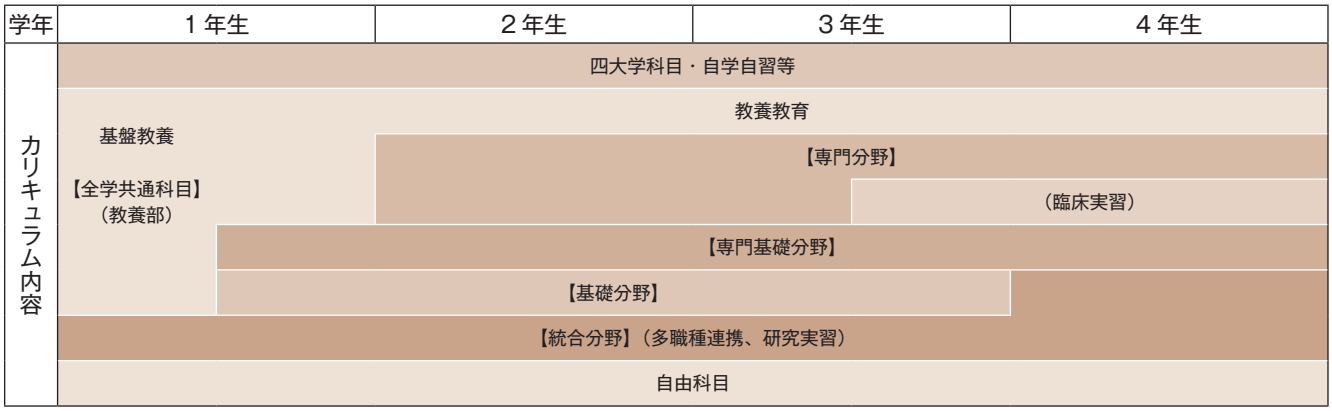
造形と製作加工の技術を匠の技として発展させ、人々の健康に寄与する技術者、研究者、教育者を育てる

口腔保健工学専攻は、口腔の健康の維持・増進・回復を図り、人々が快適な社会生活を営めるように医療専門分野はもとより工学分野とも相互に密接な連携を図りつつ総合的かつ科学的研究を行いその成果を広く社会に還元する極めて学際的なコースです。

4年制歯科技工士教育機関として世界のトップリーダーに相応しい、口腔から全身の健康に関する高度な専門的技術を有する歯科医学・歯科医療の一翼を担う歯科医療技術者を目指します。

卒業後には、口腔保健工学を発展させていくことのできる技術者、研究者、教育者として、国内はもとより国際社会においても活躍することが期待されています。

カリキュラム構成図



授業科目

■ 全学共通科目

人文社会科学概論
国際地域文化入門
人文科学・社会科学（選択）
フィジカルウェルビーイング（選択）
外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）（選択）
英語Ⅰ
統計学
化学基礎
生物学基礎
科学基礎実験
教養基礎セミナー、セミナーⅠ・Ⅱ、自由セミナーⅠ
グローバル教養総合講座
情報科学
全学科共通自由科目

■ 基礎分野

口腔保健と専門職
科学英語Ⅰ・Ⅱ
英語Ⅱ
ヘルスプロモーション
メディア情報学基礎・応用
コミュニケーション学
造形美術概論実習
グローバル口腔保健工学
グローバル口腔保健工学実習
AI・データサイエンスのための数学
医療とAI・ビッグデータ入門・応用
アカデミック・リテラシー

■ 専門基礎分野

歯科技工士と法律
感染予防
ポストコロナ社会における感染症対策
口腔保健工学管理学
早期臨床体験実習
周術期手術支援工学
う蝕と歯周病
高齢者歯科学
人体の構造と機能
歯の解剖学
口腔と全身の基礎医学
硬組織薬理学
画像解析学
歯の形態実習
臨床咬合学
口腔保健理工学・実習
デジタルデンティストリー基礎・応用

■ 専門分野

全部床義歯補綴学
全部床義歯実習
デジタル全部床義歯実習
部分床義歯補綴学・実習
デジタル金属床義歯実習
顎顔面補綴学
顎補綴学実習
顔面補綴学実習
臨床義歯管理工学
スポーツ歯科学
顎関節症とオーラルアプライアンス
睡眠とオーラルアプライアンス
歯冠修復学・実習
審美修復学実習
デジタル歯冠修復学実習
デジタルデンティストリー実習
インプラント歯科補綴学実習
矯正歯科学
小児歯科学・実習
再建工学包括臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
統合実習基礎・応用

■ 統合分野

医療倫理
研究体験実習
研究実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
多職種連携Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
口腔保健工学エクスターンシップ
口腔保健工学企業研修

講義・実習風景

■ 口腔保健理工学実習

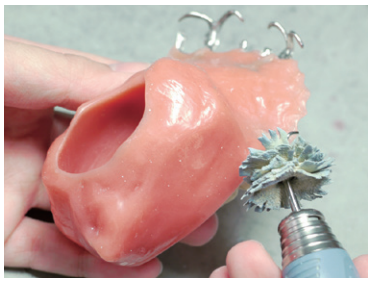
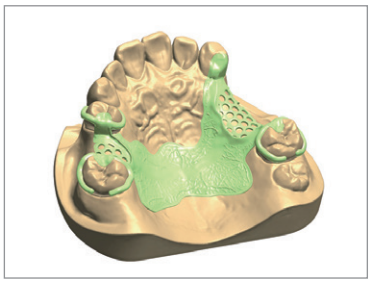
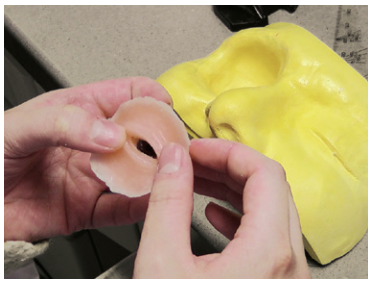
口腔保健理工学実習では、歯科において用いられるさまざまな材料の歯科理工学的性質を理解し、それらの性質を測定し、適切に扱える力を身につけます。

■ 歯の形態実習

歯の形態実習では、補綴装置製作の基本となる天然歯の概形を、歯のデッサンを行って歯の形態的特徴を理解し、ワックスで的確に彫刻再現できる技術力を養います。

■ 全部床義歯・部分床義歯・臨床咬合学・顎補綴・顔面補綴学実習

歯科技工士として必要な補綴装置の製作技術と知識を修得します。全部床義歯実習では、すべての歯が欠損した患者に対して損なわれた形態と機能を回復するために用いる全部床義歯の製作を行います。部分床義歯補綴学実習では、部分床義歯の構成要素が備えるべき条件や使用する材料の性質を理解し、部分的に歯が欠損した患者に対するレジン床や金属床の部分床義歯の製作を行います。デジタル技術を用いた全部床義歯や金属床義歯の設計も行います。
また、咬合器やフェイスボウなどの使用についての知識を修得し、臨床咬合学では半調節性咬合器の模型装着実習を行います。顎補綴学実習では、外傷や先天性疾患、腫瘍などにより生じた欠損に対する顎補綴装置の製作法と必要な知識を学び、上顎欠損に対する顎義歯の製作を行います。顔面補綴学実習では、顔面欠損に対する装置の構造と製作法について学び、義眼と眼窩エピテーゼ、指エピテーゼの製作を行います。

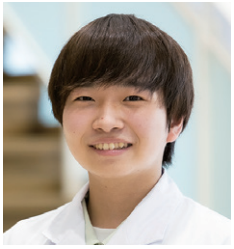




在学生から

アットホームな雰囲気でレベルの高い教育を

本専攻では、恵まれた環境と各分野のプロフェッショナルの先生方の指導により、ハイレベルで且つ幅広い知識を身に付けることができます。歯科技工士を養成する大学は日本でも数が非常に少なく、本専攻は非常に貴重な環境と言えます。人の手が中心となった従来の技工はもちろんですが、3年生からはCAD/CAMや3Dプリンター等の最新技術を利用した実習を受けることができます。また、1年次では他学科との関わりが多く、チーム医療についての見聞を広げることができます。さらに、毎年行われる海外の大学との交流プログラムや、3年次に行われる海外研修など、国際交流も盛んです。

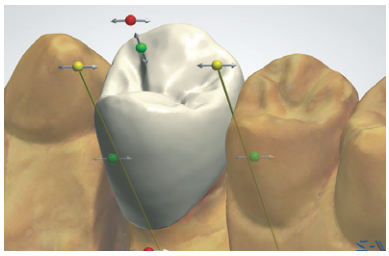
1学年10人程度と少なく、その分1人1人が先生の手厚いご指導を受けることができます。また少人数のため、先生方との距離が近く、学生同士も非常に仲がよく、アットホームな雰囲気も本専攻の特徴です。最高の友達と先生方に出会うことができます。

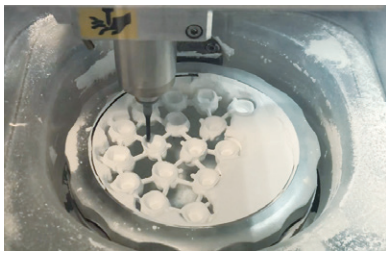


髙橋 颯
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻3年

■ 歯冠修復学・審美修復学・デジタル歯冠修復学実習・デジタルデンティストリー実習

歯冠修復学実習では、インレーやクラウン、コア、ブリッジと呼ばれる金属製やプラスティック製の補綴装置の製作法と必要な知識を学びます。デジタル歯冠修復学実習では1人1台の歯科用CAD/CAMシステムを用いて補綴装置を設計し、CAMソフトを用いて削り出し加工を行い、装置を製作します。審美修復学実習では、天然の歯と同じような色を持つ材料を用いてセラミック冠などを製作し、陶材を用いて色の表現法などを学びます。デジタルデンティストリー実習では歯学科6年生に対して本専攻4年生がCAD/CAM冠の製作方法の実習を行います。その他にも光学スキャナーを用いた顔面スキャンや口腔内スキャナーを用いた模型のスキャン実習、放射線画像データの3D構築、CADソフトでデータを作成し3Dプリンターで造形する実習なども行います。





■ グローバル口腔保健工学・実習

日本の歯科医療や日本について、本学口腔保健工学専攻の紹介をテーマとし、3つのグループに分かれて内容を検討し、英語でプレゼンテーションを作成します。ネイティブ教員から英語でプレゼンテーションの構成や作成法、発音練習、発表の指導を受けます。台湾の台北医学大学に研修に行き、大学、附属病院、歯科技工所の見学、カービングコンテストの実施、両校の学生が準備してきたプレゼンテーションや質疑応答を英語で行います。研修の内容をまとめて3年生が2年生に対して発表し、2学年で双方のプレゼンテーション発表会を実施します。

■ 国際交流

同じ4年制歯科技工士養成大学である台北医学大学と、3年次の10月にグローバル口腔保健工学実習の台湾研修で訪問して交流し、3月に台湾からの学生を受け入れて交流しています。英語でのプレゼンテーション、講義や演習を一緒に行い、カービングコンテストに参加して技を競い合います。日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際的な視野を広げるとともに、学習のモチベーション向上につながっています。

卒業生から「歯科技工士」という資格を活かして、自分らしく働く

歯科技工所で働く歯科技工士になりたくて、東京医科歯科大学に入学しました。

口腔保健工学専攻では、歯科に関する講義や技工実習はもちろん、コンピュータデザインや3Dプリンターを用いた最先端のデジタル実習、顔面や手指など歯科を超えた領域の補綴装置製作や、歯科企業への訪問研修、台湾での海外研修など、自分が考えていた歯科技工を超えて幅広く学ぶことができました。

その中で、歯科技工に携わるたくさんのお仕事を目にし、自分の将来についても様々な選択肢からより自分に合った働き方を選ぶことができると気づきました。私は歯科技工士の道へは進まず、現在は歯科メーカーに勤務しています。歯科医師や歯科技工士のお客様と関わりながら日々学び、得た知識でお客様の力になれるこの仕事にやりがいを感じています。

歯科技工業界は現在、デジタル技術の進歩や歯科技工士の高齢化・人手不足などにより、日々状況が変わりゆく業界です。しかし、本専攻で学んだ幅広い知識と経験は、どの道に進んでも大きな財産となります。

「歯科技工士」という資格を活かして自分らしく働く、そんな将来を目指してみませんか。

株式会社ジーシー
東京支店
竹内 七海
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻
2020年度卒業

教養部

教養部
Webサイト

教養部の教育理念

東京医科歯科大学の基本理念に基づき、教養部では国際的に通用する医療人の基盤となる、さまざまな文化や多様な世界を理解できる幅広い教養と、他者を理解するための豊かな人間性と倫理観、自ら問題提起し解決する創造力を兼ね備えた人材を育成する。

教養部の教育目標

教育理念の実現のために、教養教育と専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行い、以下の４つの力を学生に獲得させる。

1．市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と感性
2．科学的に考え、理解し、自ら問題を見つけ継続して学ぶ力
3．国際的な医療人として活躍するために必要なコミュニケーションの能力
4．専門教育に必要な基礎学力や思考力、技術

教育内容

教養部では、上記の教育理念・教育目標に沿って、必修科目と選択科目を配置しています。

人文社会系科目：文学、哲学、歴史学、法学、社会学等が開講されています。先人の優れた知見に触れるとともに、学問の様々な方法論に接する機会です。ここで身につけた知識や考え方を、２年次以降の授業科目でさらに深化させます。

自然科学系科目：数学、物理学、化学、生物学は、自然の理解に必要であると同時に、専門教育の基礎学力としても重要です。講義と実習で、知識に加えてそのための思考力や技術も身につけます。物理学、化学、生物学を高等学校で履修しなかった学生のためには、入門コースを設けています。

外国語系科目：言語はコミュニケーションを図るために必要なばかりではなく、その背景となる社会や文化を理解するためにも重要です。英語では能力別クラス編成によって、各自の今もてる力をいっそう伸ばします。第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語が開講されています。

フィジカルウェルビーイング科目：「ウェルビーイング」は「幸福」「健康」ともされ、ひとびとの目指す根源的なものであり、フィジカルウェルビーイングは身体的健康とも訳されます。フィジカルウェルビーイングと運動の関連性と重要性の理解を通じて、健康ウェルビーイングのために身体機能が重要なことを学びます。

グローバル教養総合講座：入学直後には「グローバル教養総合講座」が全学生を対象に開講されます。全学科横断で構成される少人数グループそれぞれを一人の教員が担当することで、学生と教員との親密なふれあいの場が提供され、その中で、大学での学習に必要な資料の収集方法や、議論の仕方、成果のまとめ方や発表の仕方を学んでいきます。

サイエンス PBL 入門：ハイレベルな医療者・研究者になるためには、問題抽出、論理的思考、コミュニケーション能力が欠かせません。教養部ではこれらの能力の基礎トレーニングとして、サイエンスをベースとした課題解決型学習（PBL）の入門授業を実践しています。

医療人としての教養、人間としての力を身につける

本学での学生生活の最初の入口、それが教養部です。
現在、教養部を設置している国立大学法人は本学のみです。
教養部では、〈市民社会を構成する一員としての教養を身につけ、深める〉という大学教育の原点に立ち返り、医療人に求められる教養と人間としての力を育み養うための教育を行なっています。
緑豊かな国府台キャンパスで、学部・学科の別なく全学生がともに学ぶことにより、多様な考え方に触れ、専門の領域を超えて将来に繋がるかけがえのない友人を得ることができるのも、教養部ならではの特徴です。
1年次後期より専門科目が本格的にスタートしますが、専門科目の履修と並行して、人間への理解をいっそう深められるよう、1年次後期以降も、教養部が担当する授業科目が継続的に開講されます。

グローバル教養総合講座

英語

自然科学実験（化学実験）

授業科目（2023年度入学生）

人文社会科学概論	日本語Ⅰ・Ⅱ
国際地域文化入門	英語Ⅰ
哲学	物理学入門
倫理学	生物学入門
心理学	化学入門
宗教学	数学Ⅰ・Ⅱ
芸術	物理学Ⅰ・Ⅱ
歴史学	統計学
民俗学	化学
科学史	化学基礎
文学	生物学
法学	生物学基礎
政治学	サイエンスPBL入門
経済学	科学基礎実験
社会学	自然科学実験
社会心理学	教養選択科目
社会思想史	教養基礎セミナー
文化人類学	グローバル教養総合講座
Japanese Culture and Society	情報科学
グローバル教養科目	情報処理
人文社会科学特論	教養セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ
フィジカルウェルビーイング	教養自由セミナーⅠ・Ⅱ
フィットネスマネジメント	
ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	
フランス語Ⅰ・Ⅱ	
中国語Ⅰ・Ⅱ	
スペイン語Ⅰ・Ⅱ	

生体材料工学研究所

Institute of Biomaterials and Bioengineering

近未来の医療を支える科学技術の世界的研究拠点

研究所の概要

生体材料工学研究所は、駿河台地区の21号館および22号館に位置しています。医療系総合大学である東京医科歯科大学に設置された工学系の研究所として生体機能の修復・解析に用いられる生体材料や生体工学の研究・教育を行う、我が国で唯一の国立大学附置研究所です。医歯工連携というユニークな特徴を生かし、医学・歯学系の研究者や病院と密接に連携しながら機能分子、生体材料、生体システムなどの分野で医療における「ものづくり」を支える先導的な研究所として世界をリードする研究を進めており、これまでにも多くの製品を社会に送り出してきました。教育面では本学の理念である「医歯工連携」の「工」の分野を担当し、生体材料、生体工学、そして創薬などの機能分子の教育を通じて、高度な先端医療を担い最先端研究を先導する人材の育成を行っています。

当研究所は2016年度より文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定され東京工業大学、広島大学、静岡大学の各研究所とネットワークを形成して共同研究を推進する体制を整えています。

未来医療を開く最先端研究

生体材料工学研究所では先端医療に関連する幅広い研究が行われており、数多くの研究成果が発表されています。これらの研究成果から、最先端の医薬品や医療用材料などが生み出されています。

【機能分子】安定な結合を迅速に形成できる反応の開発に成功しました。本反応は細胞内でも効率よく行うことができたことから、タンパク質などの生体分子に機能を付与する分子連結法としての応用を進めています(写真1)。

【生体材料】交流磁場下で発熱するセラミック微粒子(写真2)や可視光下で抗菌性を示すチタンの開発に成功し、それらをがんの温熱治療や歯科インプラントの素材に用いる研究を進めています。

【生体システム】人工知能などのデータ処理技術によって、医用画像から生体構造などの情報を識別、抽出し、複数の情報を統合して解析するコンピュータシステムを開発しました(写真3)。さらに、多種多様な生体センサから獲得する異種情報の統合や、複雑なデータ処理を可能にする次世代人工知能解析への適用、直観的に術情報を呈示する手術プロジェクションマッピングシステムの開発を進めています。

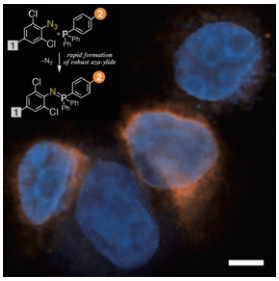


写真1

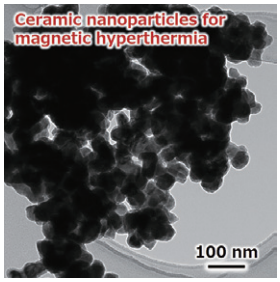


写真2

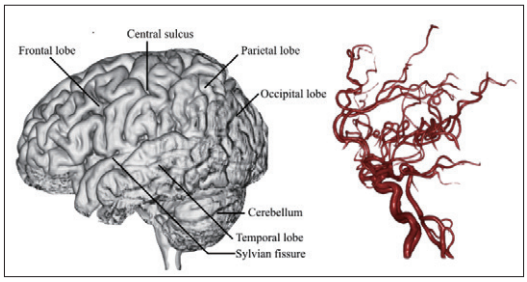


写真3

社会の要請に応える学際領域の教育

本研究所の各分野は大学院医歯学総合研究科での学際領域の教育、研究にも参画しており、下記のような学位を取得するための研究指導を行っています。

【大学院医歯学総合研究科 修士課程医歯理工保健学専攻】

2年の標準修業年限で修士(理学)、修士(工学)、修士(医科学)、修士(歯科学)、修士(保健学) などが取得できます。

【大学院医歯学総合研究科 博士(後期) 課程生命理工医療科学専攻】

3年の標準修業年限で博士(理学)、博士(工学)、博士(保健学) のいずれかが取得できます。

【大学院医歯学総合研究科 博士課程医歯学専攻】

4年の標準修業年限で博士(医学)、博士(歯学)、博士(学術) などの学位が取得できます。

難治疾患研究所

Medical Research Institute

“難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所

研究所の概要

難治疾患研究所は、「難治疾患の学理と応用」を目的とした“難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所です。1973年、医学部附属の農村厚生医学、難聴、総合法医学、硬組織生理、遺伝病、心臓血管、内分泌の7つの研究施設の再編によって設置され、2022年より、未来生命科学、病態制御科学、バイオデータ科学の3研究部門の下に21分野、その他、フロンティア研究室、ジョイントリサーチ部門、連携研究部門、大学院教育研究支援実験施設が所属しています。本研究所は、2009年6月25日、我が国の学術研究の発展に特に資するものとして、文部科学大臣により全国共同利用・共同研究拠点「難治疾患共同研究拠点」に認定され、2010年度より活動を開始、2022年度より第3期目に入っています。また、大学の学部教育、大学院教育にも多大な貢献をしています。

我が国をリードする研究活動

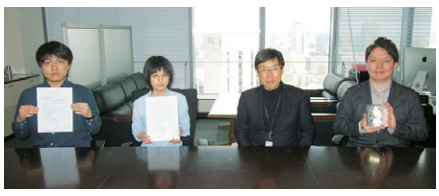
本研究所では、難治疾患を「病因・病態が明らかにされていないために未だ有効な診断法、治療法や予防法が確立されていない病気」と定義付け、生命誕生から老年期にわたる各時期の難治疾患を研究しています。特に、悪性腫瘍、循環器、運動器、免疫、代謝、神経及び稀な遺伝疾患の研究では、それぞれの領域を牽引する成果をあげるとともに、がんCGH解析、心筋症、先天異常症などの難治疾患バイオリソース、難治疾患オミックスデータベースを産み出しています。また、広い視点から基礎生命科学の最先端研究に大きな力を注いでおり、マウスは勿論、アフリカツメガエル、ショウジョウバエ、線虫、メダカを研究材料とした成果は、様々な疾患のモデル動物や細胞のリソースバンクとして蓄積されています。さらに、幹細胞研究の分野が加わり、発生・再生医学研究を力強く推進しています。

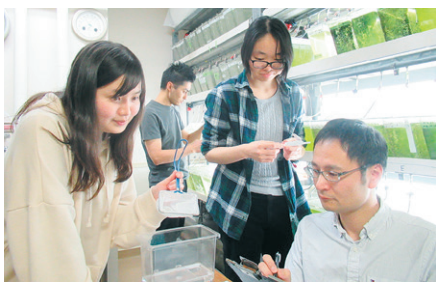
充実した研究環境

本研究所は、大学院教育研究支援施設を有し、現在、ゲノム解析室、細胞プロテオーム解析室、未来ゲノム研究開発支援室、形態機能解析室、バイオリソース支援室、幹細胞支援室、情報支援室、構造解析室、単一細胞オミクス解析室の9つを整備しています。これらの研究支援室は、高い技術力を有する専門スタッフによる技術支援及び最先端の研究設備・機器の共用化による設備・機器の有効活用により、「難治疾患共同研究拠点」活動と、本学の大学院教育を支援しています。

学部・大学院生の教育及び若手研究者の育成

本研究所の教員は、本学医学部、歯学部、大学院医歯学総合研究科(医歯理工保健学専攻・医歯学専攻及び生命理工医療科学専攻)の教育を積極的に担っており、すべての専攻の教育、研究に積極的に参画し、疾患研究領域と先端的な生命科学との融合学際分野での人材育成に携わっています。また、お茶の水女子大学、学習院大学、北里大学と共同で行っている「学際生命科学東京コンソーシアム」の大学院共通カリキュラムにも参画しています。若手研究者育成にも積極的に力を入れ、『難治疾患研究所研究助成』や『若手研究者発表会』などの支援を継続的に実施するなど、研究対象に真摯に向き合い、課題解決に努力を惜しまないひたむきさと情熱、そして未知への挑戦に対する勇気をもった次世代を担う志をもった研究者を育成しています。





医学 / 医療分野におけるグローバルリーダーを育成する

(受講方法の多様化を図るため、一部または全部をオンラインにて行う場合があります。)

ゴール設定

Global Communication Workshop

グローバルなキャリア実現にむけてのゴールセッティング

新入生を対象として毎年春に開催している、国際保健問題事例を用いた英語模擬交渉ワークショップです。

本ワークショップを通じて、将来グローバルに活躍する際に求められる資質を認識し、将来を見据えたゴール設定を行っていただくのが最大の目的です。

各交渉テーブルを、協力くださる外国人大学院留学生も含めた数名が囲み、それぞれ異なる役割を担い、英語で交渉にあたります。

本ワークショップは自由参加ですが、本学が提供する海外留学およびHSLP応募の際には本ワークショップ参加歴が必須要件であり、毎年約150名、新入生の実に半数以上が参加しています。

キャリア形成支援

ロールモデル発見 | ネットワーク形成 | コミュニティ形成

“Find-Your-Role-Model” Sessions

目指す分野で活躍するロールモデルに出会うために

医学/医療の分野においてグローバルな舞台で活躍する本学卒業生やリーダーの方々と、本学在学生/教職員との交流イベントです。刺激を受け、実例からリーダーシップを学び、よきロールモデルを得て、今後のキャリア形成に活かしていただくことを目的としたセッションシリーズです。

Discussion Café

人種・文化・分野を超えた、幅広い視点とネットワークの獲得のために

本学および国内外の提携校などから、人種、文化的背景、学んでいる専門分野、将来目指すフィールドを異とする様々な学生が一同に介し、複雑な国際保健問題の解決に向けて英語で徹底的に議論する、そして彼らとの人種/文化/分野を超えた交流を通して将来のグローバルリーダーのネットワークを築く・・・

Discussion Café はそんな機会を提供します。

成熟した国家である日本が、主要先進国として、生命科学研究・国際保健 / 医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくため、その中心的役割を担い、グローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成します。

真のグローバルリーダー育成プログラム
Health Sciences Leadership Program (HSLP)

HSLP は、生命科学研究・国際保健 / 医療政策・医療産業分野において世界を牽引する人材の育成を目的とした、完全英語履修の複数年にわたるリーダー養成選抜プログラムであり、本学学士課程グローバル人材育成の旗艦的取組です。HSLP では、高い志をもつメンバー（全学科対象、各学年 20 ～ 30 人程度）が切磋琢磨しながらともに学び、グローバルリーダーに必要とされるスキルの獲得 / 洗練と、学年 / 世代を超えたコミュニティの形成を図ります。

どんな人材の育成を目指すのか

・生命科学研究に従事し世界最先端の研究を行うとともに、当該研究分野におけるリーダー / フロントランナーとしてその発展に貢献する人材
・高い専門的背景を持った上で国際保健 / 医療政策決定機関に従事し、中心的役割を果たす人材
・高い専門的背景を持った上で医療産業に従事し、同産業を世界規模で牽引する人材

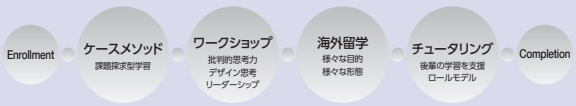
グローバルリーダーに必要とされるスキルの獲得 / 洗練

・医学知識および関連社会科学知識とその応用・統合力
・ソフトスキル
  ・コミュニケーションスキル
  ・ロジカルシンキングスキル
  ・クリティカルシンキングスキル
  ・クリエイティブシンキングスキル
  ・チームビルディングスキル
  ・マネジメントスキル
  ・リーダーシップスキル

学年 / 世代を超えたコミュニティの形成

医学 / 医療分野のグローバルリーダーへの道のりは、とても長く、孤独で、明確な目標 / ビジョンを常に見据えて、長期的視点から日々の研鑽を積む必要があります。HSLP では、同級生や先輩 / 後輩、卒業生や在野のリーダー達、HSLP 教員からなる、同じ目標に向かって頑張っている有志達によるコミュニティのメンバーとして、お互いに刺激し、支え合い、目標達成に向けて共に成長していきます。このコミュニティこそが、HSLP で学ぶ者にとっての大きな推進力であり、そして最大の財産なのです。

カリキュラム



HSLP での学習は、第 1 学年後期から学士課程修了まで渡ります。規定された「修了までに獲得すべき資質」を、学習レベルに応じて段階的に獲得していくスパイラルカリキュラムとなっており、特に下級学年では、将来直面するであろう問題を想定したケースを用いてグループで主体的に問題解決にあたる「ケースメソッド」を用います。またその間、「修了までに獲得すべき資質」に含まれる一部のスキル（批判的思考力、デザイン思考スキルなど）についてのワークショップ形式の集中的学習機会も豊富に用意しています。また、HSLP 修了のためには海外留学経験（研究実習、臨床実習、公衆衛生大学院など）が必須であり、上級学年では下級学年学生のグループ学習にチューターとして参加し、海外留学を経て得た広い視野と深い考察にもとづく助言などを通して、ロールモデルとして、下級学年学生を刺激し、議論を深めます。

HSLP 履修生の声

本谷 嶺奈　医学部 医学科 5 年

HSLP のようなプログラムは、実に唯一無二だと思います。医療系の専門学部に入部した場合、通常はその後、医療系以外の分野について熟考したり、議論し学ぶことができる環境は大変限られます。しかし、HSLP では医療をゴールとするのではなく、医療を一つのツールとして用いてあらゆる分野でグローバルに活躍できる学生を育成することを目標にしています。始めのうちは、多方面で活躍するメンバーに圧倒されるかもしれませんが、3 年間の必須カリキュラムやメンバーとのディスカッションなどを通じて、自分もより多角的・客観的に、医療のみならず政治・経済などの事例についても吟味できるようになります。また、このプログラムを通じて私はかけがえのない友人にも恵まれました。HSLP は、私が本学に入学してよかったと心から思う主な理由の 1 つです。

飯田 さくら　歯学部 歯学科 5 年

HSLP にはグローバルな視点を持った仲間たちと切磋琢磨することのできる、素晴らしい環境が整えられています。

3 年次まで毎週行われる授業では、学科を越えて国際医療に関するトピックを議論することを通して批判的思考力などのスキルを磨くことができます。それ以外にも学科、学年を越えた交流の機会が沢山設けられています。そこで HSLP に所属している先輩や同期、後輩がグローバル人材となるためにどのような努力をしているのかを知ることができ、自分自身のキャリアを考えていく上で良い刺激となっています。

学部学生海外研修奨励賞

学部学生に対して海外研修の機会を提供し、豊かな感性と国際性を持つ人材の育成に役立てるため設けられた制度で、対象となるのは海外研修への意欲に満ち、心身ともに健全で、学業優秀と認められる学部学生。世界の大学や医療機関で貴重な経験を積み、様々な発見をし、大きく成長しています。

海外で活躍する卒業生

マサチューセッツ
総合病院
ハーバード医学校
脳神経外科
脇本 浩明
医学部 医学科1988年度卒業

私は本学脳神経外科教室で脳腫瘍臨床に従事した後、米国ハーバード医学校の基幹附属病院であるマサチューセッツ総合病院に異動しました。現在は同院脳神経外科学講座内に研究室を持ち、難治性悪性脳腫瘍に対する新規治療法を開発すべく、基礎的及びトランスレーショナルな医学研究を日々推進しています。

本学脳神経外科学教室をはじめ日本国内外からポストドクトラル研究員を採用しています。妻の博子は医科歯科の同期で、本学にて小児循環器医として勤務した後、現在はハーバード医学校遺伝学教室で心臓疾患の研究をしています。また、ハーバードの女性医師研究者支援委員会の一員として活動中です。

ハーバード関連病院における臨床実習に参加する医学科６年生とは、毎年、ボストン在住の医科歯科大学関係者及び当地で活躍中の医師、歯科医師、研究者との交流会を催しています。

ドイツ
キール大学

栗林 良太
医学部 医学科５年

世界最先端の分子生物学研究所で遺伝子解析を学ぶ

私は４年生の８月末から９月にかけてドイツのキール大学にあるInstitute of Clinical Molecular Biology(IKMB)という研究所に留学しました。目的はプログラミングを用いた遺伝子解析を学び、自身が日本で培養したオルガノイドを解析することでした。オルガノイドとは、幹細胞をin vitroで培養することで作られる「ミニチュア臓器」のことです。現地に到着した私はまずIKMBで３日間にわたって開催されたシンポジウムやサマースクールに参加し、R言語を用いた遺伝子解析技術を勉強しました。シンポジウムでは、各国から集まる研究者が分子生物学に関する研究を発表しており、最先端の研究を知ることができました。シンポジウムの最後には参加者とパーティにて交流を深めました。その後は自分で培養したオルガノイドを現地の研究者とともに解析し、自身の研究に生かすことができました。ドイツでの経験は、研究だけでなく人生経験としても有意義なものでした。このような素晴らしい機会を与えてくださった、本学ならびに先生方に深く感謝申し上げます。

フィリピン
フィリピン大学

鈴川 礼奈
医学部 医学科５年

UP-CPHでの海外実習を終えて

私は海外研修奨励制度を利用し、４年次の春期休暇にCollege of Public Health, University of the Philippinesにて３週間の公衆衛生の実地学習を行いました。現地ではゲストによる講義に加え、医療の政策決定に関わる機関から地域の病院・ヘルスセンターまで幅広い施設を見学し、フィリピンの医療制度について見識を深めることができました。フィリピンと日本は異なる問題を抱えながらも、生活習慣に起因する慢性疾患の治療など共通の課題に取り組む人々の姿を目にし、海外で働くことを含め今後のキャリアについて考える機会となりました。大学の先生や学生はとても明るく親切で、プログラム全体を通して丁寧に指導をしていただきました。プログラムはすべて英語で行われ、最終日には計１時間のプレゼンテーションと質疑応答を行う機会もあり、日頃の英語の学習の成果を発揮することができました。このような機会を与えてくださった本学と支えてくださった方々に感謝申し上げます。

フィンランド
セイナヨキ応用科学大学

若林 南奈
医学部 保健衛生学科
看護学専攻
2020 年度卒業

他者の理解と自分の理解を繋げる時間を過ごした

私は２年次の２月に、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学での 14 日間の研修に参加させていただきました。大学の講義や施設訪問、案内してくださった様々な方からのお話を通して、保健医療システムを大きな枠組みでとらえつつ、現場でどのように活かされているのか理解しながら実感を得ることができました。また、各場面で日本についても考え、知り、伝える機会があり、自分の背景やこれからの課題を見つめ直す密度の濃い時間を過ごせました。

研修で学んだ知識はもちろん、考えたことやその経験自体が今後の勉強を支えてくれると感じています。素敵な経験を与えてくださった本学並びに、支えてくださった全ての方々に感謝しております。

アメリカ
ワシントン大学

坂野 千紗都
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 4 年

高いモチベーションと行動力で将来を切り拓く

私は３年次終わりの春に、ワシントン大学で看護学生向けの研修プログラムに参加させていただきました。自分の専攻とは異なる視点から医療を見ることは新鮮であり、多くの学びがありました。研究室や医学生向けの実習室、図書館などを見学したり、一部の講義を現地の学生と一緒に受講したりしました。また、教育を受けることのみで満足せず、自ら課題設定をし慈善団体の立ち上げを行うなど、学びを積極的にアウトプットする姿を目の当たりにしました。この経験を通して、モチベーションを高く持ち、世間の変化に敏感になることで自分の活躍の可能性を無限大に広げられることを実感し、どのような場面でも主体的に行動するマインドを得られました。このような貴重なプログラムを提供してくださった先生方やご支援いただいた方々に心より感謝申し上げます。

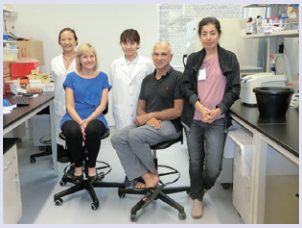
カナダ
トロント大学

島田 怜実
歯学部 歯学科
2020 年度卒業

世界最先端の研究を学んだ、かけがえのない経験

私は４年次の３ヶ月間、トロント大学歯学部に留学する機会をいただきました。トロント大学は北米でも有数の大学で世界中から優秀な研究者が集まっており、私がお世話になったIrina Voronov 先生の研究室では骨の発生や疾患に関する研究を行っていました。私は主に骨形成の遺伝子変異に関する研究に関わらせていただき、そこで研究の基礎知識や技術を学ぶことができました。また留学期間中、トロント大学における研究発表会にてプレゼンテーションを行ったことも大変勉強になりました。この経験を今後に生かしていきたいと思います。

このような素晴らしい機会を与えてくださった本学ならびに支えてくださった先生方に深く感謝申し上げます。



アメリカ
ミシガン大学

澤田 優紀
東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科口腔疾患予防学分野
修士１年
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻 2022年度卒業

日本とは全く異なる世界で歯学と文化を学ぶ

世界との交流が格段に減ってしまい、生活様式も変わったコロナ禍を経て、日本で実習や国家試験を終えてからアメリカに23日間研修に行きました。生徒・教員・研究員など、多くの新しい出会いがあり、毎日が新鮮で驚きの連続でした。診療の流れやユニットの構造・口腔清掃用具、学生の意識や生活スタイル、食文化から宗教まで、見ることや体験することほとんど全てが日本とは異なっていました。

ミシガン大学の歯学部の実習や講義、ボランティア活動に参加し、歯科医や歯科衛生士になる現地の学生達と沢山会話をすることにより、アメリカの歯学部学生の生の声を聞くことができ、英語の勉強にもなりました。コロナの影響もあり日本に行ったことのない人が多く、沢山の人が興味をもっていたので、日本について再確認することもできました。４年間本学で学んだことを頭に入れた上で、ミシガン大学で感じた違いや地球の反対側で同じように歯学を一生懸命勉強している生徒の姿をみて、卒後の将来像やモチベーションの向上につなげようと思います。

短期海外研修

韓国
釜山カトリック大学

李 施恩
東京医科歯科大学病院
基盤診療部門歯科技工部
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 2022年度卒業

世界最高レベルのデジタルデンティストリーを学べた貴重な経験

私は４年次に、韓国の釜山カトリック大学歯科技工学科に留学をする機会をいただきました。大学の講義や実習を通して、デジタルデンティストリー技術や世界トップレベルの歯科技工士の育成など、韓国の歯科医療についての学びを得ることができました。

他にも、世界４位の歯科インプラント企業や延世大歯科大学病院を訪問する機会もいただき、今後の歯科業界において、歯科技工士がどのような役割を果たしていくべきかについて深く考える時間となりました。

この留学を通して、デジタルデンティストリーの進展に大きく貢献したいという思いを強く抱くことができ、自分の新たな可能性に目を向けるきっかけも得ることができました。

このような大変貴重な機会を与えてくださった本学ならびに支えてくださった先生方に深く感謝申し上げます。

アメリカ
ワシントン大学

市野 利奈
医学部 保健衛生学科
看護学専攻３年

これからやるべきこと、自分のキャリアについて深く考えた14日間

今回２年次の春休みを使って、14日間のワシントン大学研修に参加させて頂いた。ワシントン大学では、現地学生の参加する授業に参加したり、多様なバックグラウンドを持つ看護職者からキャリアや米看護師の役割、医療制度など多くのお話を頂いた。また、ワシントン大学系列の病院内の見学や、看護学部の演習室の見学など、大学を通した研修だからこそ訪問できる施設が多かった。例年訪問している老健施設はもちろん、Pear Seattleなどの精神看護に通ずる施設にも訪問することができ、あまり日本では知られていないような問題についてもコアな部分まで考えを深めることができた。

研修の中では、授業後に観光地に行ったり買い物をしたり、ホテルステイだったからこそできた他日本人学生との夜のディープディスカッションも思い出の一つである。

同行した日本人学生も含め、何歳になっても学びを止めない向上心に満ち溢れた現地の学生、今回お話を聞けた米で働く日本人看護師の皆さんから、自分の学びたい・成りたいと思えるものを見つけそのために多大な努力を惜しまないこと、最初からあきらめないことが重要だと学んだ。

今回研修の準備に関わってくださった皆さん、出逢い多くの学びを与えてくれた人々にこの場を借りて感謝申し上げます。

2022 年度　海外派遣実績数

		総人数	学年別						国別
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
医学部	医 学 科	29	0	0	0	15	4	10	アメリカ 16, オーストラリア 5, イギリス 4, フィリピン 2, ガーナ 1, タイ 1, 台湾 1, ドイツ 1, ポーランド 1
医学部	保健衛生学科 看護学専攻	5	1	1	0	3	-	-	アメリカ 5
医学部	保健衛生学科 検査技術学専攻	2	0	0	1	1	-	-	アメリカ 2
歯学部	歯 学 科	11	0	0	2	6	2	1	アメリカ 3, イギリス 3, カナダ 1, タイ 4
歯学部	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	2	0	0	1	1	-	-	アメリカ 2
歯学部	口腔保健学科 口腔保健工学専攻	9	0	0	8	1	-	-	台湾 7, カナダ 1, 韓国 1

サークル活動

17の文化系サークルと26の体育系サークルに加え、4つの同好会があり、国府台地区、湯島地区にある各施設や学外のフィールドで活発に活動を展開。学部・学科を越えた友情の輪を広げる場にもなっています。

文化系

●English Speaking Society（E.S.S） ●お茶の水管弦楽団（オーケストラ部）
●混声合唱団（コーラス部） ●Modern Jazz Diggers（M.J.D）
●コンピューター部 ●SSIA（Students' Society of International Activity）
●Tokyo Medical & Dental Piano Club（ピアノの会）
●TMDU Emergency Medicine Study Sessions organized by students（TESSO）
●医療ビジネス研究会（TMDU Strategy Institute） ●iPag（医科歯科プライマリケア研究会）
●アカペラ部 tic tac♪ ●ジャズ研究会 ●美術部 ●写真部 ●茶道部
●棋道部 ●天文部

【同好会】

●アジア系文化研究会 ●数理生物学同好会 ●競技歌留多同好会 ●池坊華道部

競技歌留多同好会

体育系

●漕艇部 ●躰道部 ●剣道部 ●弓道部 ●硬式庭球部 ●ソフトテニス部
●硬式野球部●卓球部 ●ラグビー部 ●ハンドボール部 ●ゴルフ部 ●陸上競技部
●ヨット部 ●水泳部 ●スキー部 ●ダンス部 ●サッカー部 ●フットサル部
●スキューバダイビング部 ●アメリカンフットボール部 ●男子バスケットボール部
●女子バスケットボール部 ●男子バレーボール部 ●女子バレーボール部
●ワンダーフォーゲル部 ●バドミントン部

硬式野球部

コーラス部

「歌」を通して得るつながり

津村 勇輝　医学部 医学科5年

東京医科歯科大学混声合唱団、通称コーラス部は、学内・学外問わず、学科問わず、経験問わず、すべての人に門戸を開いている、学内唯一の合唱団です。

高校まで部活でやってきた人から、クラス合唱しかしていない人まで。”ハモる”ことを通して一つの音楽をつくることができる。そんな魅力が合唱にはあります。

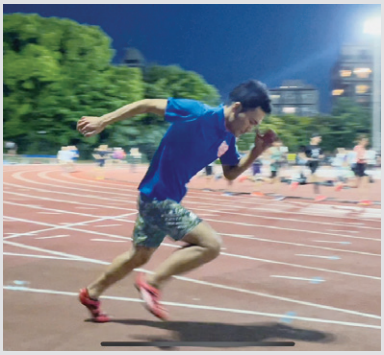
必ずどこかで経験したことのある合唱。あなたも「歌」を通してあらたな仲間と出会いませんか？

陸上競技部

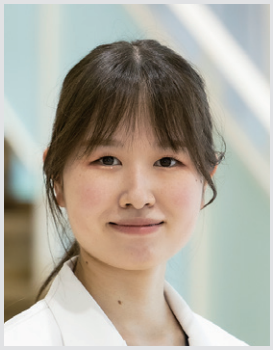
青春を駆ける。

菊池 直輝　医学部 医学科3年

陸上競技部には30名の部員が所属しており、医療系大会での入賞と自己ベスト更新を目指して日々練習に励んでいます。大学生にもなって陸上なんて、と思う人もいるかもしれません。しかし、陸上を通して自分自身と向き合うことは、怠けてしまいがちな大学生生活に潤いを与えてくれます。そして、一緒に練習を乗り越えた仲間との間に一生ものの絆を育むことができます。また、陸上は個人競技でかつ種目が多いため初心者でも活躍できるのが特徴です。実際、部員の半数が大学から陸上を始めています。我々と一緒に陸上部で青春を送りませんか？お待ちしています！



学生のある一日



鶴田 美香子
医学部 医学科６年

病院実習では、病棟実習、手術見学、手技の練習、発表資料制作などを主に行っています。お忙しい中、学生に積極的に教えてくださる先生方が多くたくさんのことを学ばせていただいています。また、本学には研究と臨床のそれぞれに関わっている二刀流の先生が数多くいらっしゃいます。臨床医、研究医、またクリニシャンサイエンティスト(CS)など多様な将来の選択肢が存在しそれを間近に見られることが本学の魅力だと思っています。

６年生の学年末には国家試験があり、同級生はみな試験に必要な知識を覚えていきます。その覚えた知識の活用方法を病院実習で先生方からご指導いただき、より深い理解へと繋げていきます。

また、医学生の実習と聞くと拘束時間が長く授業以外の時間が取れないと想像する方がいるかもしれません。しかし実際は実習が午前のみ・午後のみといった科もあり、実習後の時間を有意義に使っている学生が多い印象です。実際私も実習の後の時間は翌日の実習の予習や国試に向けた勉強、留学のための英会話学習など自分のしたいことに費やしています。

１日のタイムスケジュール

7:00	起床・朝食・準備
8:00	登校
9:00	実習
12:00	昼食
13:00	実習
17:00	下校
18:00	夕食・バイト・英会話・勉強など
24:00	就寝

風間 吏沙子
医学部 保健衛生学科
看護学専攻４年

看護はグループワークが多く、学生同士で協力し課題などを進める中で学びを深めることができます。また、普段は話さないような友達と深く関わり新たな交友関係が生まれるきっかけにもなりました。３年次後期には領域別実習があり、慣れない環境で、じっくりと患者さんと向き合い実際に看護を展開していくのは、大変なこともありましたが、学生同士助け合いながら、たくさんの方の支えのもと乗り越えることができました。４年次は看護師・保健師コースに分かれ、より専門的な実習や授業と同時に、研究室に所属し自分の興味のあるテーマで卒業研究を進めていきます。

課外活動では、有志団体に所属し学内でのイベント運営に携わると共に、サッカー部でマネージャーとしても活動しています。平日はアルバイト、土日は練習や試合で遠征することが多いため、課題は隙間時間を活用し週末は自由に使える時間にしています。高い目標をもち好きなことに打ち込む仲間と共に勉学に励みながら、忙しくも充実した学生生活を送れる環境に日々感謝しています。

１日のタイムスケジュール

6:30	起床・朝食・準備
7:45	登校
8:50	１限「国際保健看護学」
10:30	２限「看護の統合と実践Ⅱ」
12:00	昼食
13:00	３限「健康教育学演習」
14:40	４限「健康教育学演習」
16:10	友達と談笑、課題など
17:00	アルバイト
21:00	帰宅・夕食
22:00	自由時間（課題・趣味など）
0:30	就寝

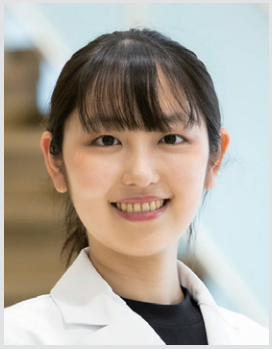
西原 悠人
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻４年

検査技術学２年次前期から３年次前期までは、臨床検査技師となるための知識や手技を中心として学んできました。そこで得られた知識を元に、４年次では卒業研究が始まります。卒業研究では先生方の指導の下、研究テーマを決め、新たな事実や解釈の発見のために研究を行います。検査技術学専攻の先生方は様々なバックグラウンドをお持ちなので、研究テーマは多種多様です。また、僕の研究室には大学院の先輩がいらっしゃり、就活や勉強について教えていただいたり、研究を手伝っていただいたりして、とても頼らせていただいております。８～９月には卒業研究で得た新たな事実や解釈の発見を卒業論文にまとめ、卒業論文発表会を行います。４年次は卒業研究と並行して、２月にある国家試験の勉強も進めなければならず忙しくなりますが、卒業研究は今までの座学での勉強や実習と異なり、未知の事柄を探求する面白さがあり、新鮮な気持ちで臨むことができ、とても充実した一年になりそうです。

１日のタイムスケジュール

8:30	起床・準備・登校
10:30	卒業研究・合間に国家試験勉強
17:30	移動・軽食
19:00	アルバイト・自由時間
23:00	移動
23:30	夕飯・入浴・自由時間
1:30	就寝

東京医科歯科大学には現在約1500人の学部学生が在籍しています。大学生活と一口でいっても、大学や学部、学科によって様々です。そこで、本学で充実したキャンパスライフを送っている学生さん達に協力してもらい、ある一日をリサーチしてみました。どんな学生生活を送っているのか、少しだけのぞいてみましょう。



岡本 栞里
歯学部 歯学科6年

歯学科では、5年生の後期から6年生の秋まで包括臨床実習があり、実際に学生が各専門診療科の先生の指導のもとで患者さんの診療を行います。担当する患者さんの治療計画を立てることから始まり、診療内容は入れ歯の製作や虫歯の治療など多岐にわたります。臨床の現場では、教科書だけでは得られない多くの知識と技術、そして患者さんへの接し方などを学び、最善の治療ができるように日々研鑽を積んでいます。多くの患者さんのご協力があって成り立っている実習であり、医療者としての姿勢や心構えを身につけることができる貴重な機会をいただいていることに感謝しております。

診療後は、石膏模型をもとにした仮歯製作や、次の治療のためのレポートの作成を行います。時間を見つけてアルバイトをしたり、友人との交流を深めたりしてメリハリをつけています。実習は大変な時もありますが、同級生と互いに励まし協力し合い、充実した学生生活を送っています。

1日のタイムスケジュール

6:30	起床・準備・登校
8:30	診療準備
9:00	包括臨床実習 （第一総合診療室での診療）
12:00	お昼休み
13:00	包括臨床実習 （各科実習：外来見学や診療補助など）
16:00	次回の診療準備 （技工物製作、レポート作成、治療の予習など）
18:30	自由時間 （アルバイト、勉強、友人との交流など）
23:30	就寝

櫻木 莉子
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻3年

私たち口腔保健衛生学専攻は、歯科衛生士を目指して日々勉強に励んでいます。

授業は2年次から専門的な内容が中心になります。2年次前期はマネキンを使った実習、後期から3年次にかけては学生同士が患者役・術者役となって相互実習を行います。高齢者施設や企業での実習、幼稚園や小学校での歯磨き指導など、自分の目で現場を見る機会もたくさんあります。3年次後期からは大学病院等で実際の患者さんを担当する臨床実習が始まり、4年生では自分たちが学んできたことを他学科に教える機会もあります。オンライン授業や自習の環境も整っているので、お気に入りの場所を見つけてみてください。

生活面では、私は部活を3つ、アルバイトを2つしていて、日々新しいことに挑戦しています。他学年・他学科とも交流でき、視野が広がります。

とにかく忙しい毎日を送っていますが、少人数の学科ということもあり、お互い高め合い、みんなで一緒に頑張れるこの環境が私はとても大好きです。毎日が楽しく充実していて、素敵な学生生活を送れると思います。

1日のタイムスケジュール

6:30	起床・準備・移動
9:00	1～3限 健康教育の企画と実践Ⅰ
11:50	昼休み
12:50	4～8限 口腔疾患予防応用学実習
17:40	帰宅、課題、部活、アルバイト、自由時間
0:30	就寝

植竹 里佳
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻3年

2年次からは専門教育が始まります。様々な補綴装置の製作方法や歯科材料など、歯科技工士として働くにあたって必要な知識や技術を身につけます。また全身疾患や感染予防、解剖学など医療従事者として必要な知識も学ぶことができます。歯科技工だけではなく様々な分野に触れる機会があるため卒業後の活躍の幅が広がります。これらはそれぞれ専門の先生方が、高度な授業を展開してくださるので深い知識を得ることができます。さらに実習では、専攻が少人数ということもあり、一人一人丁寧且つ質の高い指導が受けられます。他にも、英語教育や情報教育にも力を入れたカリキュラムになっているので、これからの社会を見据えた学習をすることができます。

授業後はアルバイトや部活動をしている人がほとんどです。また少人数ということで学生同士の仲が良く、授業の時は互いに協力し合い、休日には全員で遊ぶこともあります。恵まれた環境の中で、学業だけでなく学生生活も充実させることができています。

1日のタイムスケジュール

7:00	起床、準備
8:30	登校
10:00	2～3限 CAD/CAM実習
11:50	昼食
12:50	4～7限 部分床義歯工学実習
16:40	帰宅、アルバイト
23:00	就寝

図 書 館

本館（湯島地区）

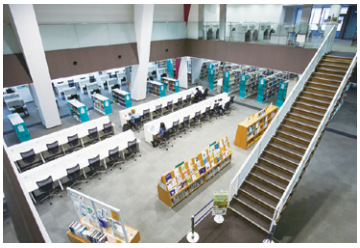
図書館本館は、M&D タワーの 3 階と 4 階に位置し、医歯学系の専門図書約 17 万冊の蔵書を有しています。その中には貴重書として、杉田玄白の「解体新書」の初版本、その元になった「ターヘル・アナトミア」、「ファブリカ」（人体構造論）* の初版本などもあります。

吹き抜けになっている 3 階閲覧室には長机とキャレル席を、4 階には BOX 席を配し、座席数は 181 席、学生が自由に使える備え付けのノート PC、持ち込んだ PC を接続できる無線 LAN、コピー機 2 台が設置され、レポートの作成や e-learning など自主的な学習を進められる環境があります。自動貸出機や自動書庫などの設備も整えています。

図書だけではなく、医歯学分野の学習・研究には欠かせない電子ジャーナル、データベース、医歯学系以外にも統計、論文の書き方に関する資料については電子書籍で提供しています。これらは、学内ネットワークを使って、教室や演習室からも利用できます。

また、東京工業大学をはじめとする四大学連合の他、明治大学、文京医大図書館コンソーシアムと相互利用の協定を結んでいます。本学の学生は、書籍の閲覧等のサービスを受けることができます。

閲覧コーナー


閲覧室全景

「解体新書」

「ファブリカ」

＊ファブリカ（人体構造論）：アンドレアス・ヴェサリウスの著した解剖学書で、1543 年に刊行された。近代医学の出発点をなしたと言われ、300 点以上の挿絵があり、写実的な解剖図が特徴である。

図書館 HP：https://www01s.ufinity.jp/tmdu_lib/
利 用 時 間：平日 8：30 ～ 22：00、土・日・祝日 10：00 ～ 18：30
休　館　日：年末年始（12/29 ～ 1/3）

分館（国府台地区）

図書館国府台分館は教養部キャンパス内にあり、教養教育の充実のため、幅広い分野の蔵書と、修学を支援する様々な設備があります。

対話可能な活発空間の設置

医療人として必要不可欠な対話力・表現力を養うためにラーニングコモンズおよび PC を用いた共同学習向けスペースであるコラボレーションエリアがあります。

PC 環境の充実

PC ロッカーを設置し、アクティブラーニングに必要不可欠な PC を簡単に借りることができます。ロッカーには常時タブレット PC 等が用意されており利用者は図書館内であればどこでも移動して検索・調査を行うことができます。

セミナールームの設置

少人数授業向けのセミナールームを 2 階に 3 室、1 階にプレゼン向けの部屋を 1 室設置しています。教養総合講座等の少人数教育において広く活用されています。

静謐な空間の提供

活発な空間とともに利用者のニーズが高い静謐な自習スペースも提供しています。活発空間との間に特殊な消音ガラスを用いることで両スペースの共存を図っています。

集密書架

セミナールーム

保健管理センター

定期健康診断

本学では全学生に対し、毎年５月に「学生一般定期健康診断」を実施しています。

自身の健康管理のみでなく、進学や就職等の証明に必要になります。

感染予防（抗体検査・予防接種）

本学は医療系大学として、感染予防のために下記の抗体検査・予防接種を実施しています。

〈抗体検査〉

麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘抗体検査
Ｂ型肝炎抗原抗体検査・Ｔスポット®.TB 検査

〈予防接種〉

○MR ワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）
○おたふくかぜワクチン（流行性耳下腺炎）
○水痘ワクチン
○Ｂ型肝炎ワクチン
○インフルエンザワクチン（任意）

健康相談

体調不良になった場合は、当センターの医師による健康相談が受けられます。必要に応じて専門医への紹介も行っています。また、軽い怪我の処置も行います。休養が必要な方のためにはベッドも用意しています。心身の不安、人間関係、勉学上の悩みなど、様々な相談にはメンタル専門医が応じています。

健康診断証明書の発行

学生一般定期健康診断をもとに留学、進学、就職のための健康診断証明書の発行を行っています。

湯島地区保健管理センター

国府台地区保健管理センター

学生・女性支援センター

充実したキャンパスライフを送るためのトータルケア

本学の学生に対して、キャンパスライフ全般にわたり、学生支援活動の充実を図ること、男女共同参画・ダイバーシティ推進を行うことを目的としています。相談・カウンセリングも実施しています。

鍵付き完全個室のベビーケアルーム
（授乳室）mamaro（５号館３階）

センターの業務

●学生支援
●修学支援
●就職支援
●メンタルヘルスに関する支援
●ハラスメントに関する支援
●セクシャルマイノリティの学生に対する支援
●キャリア形成の支援
●ワーク・ライフ・バランス
（育児や介護と学業との両立問題など）の支援
●ダイバーシティ・インクルージョンの推進
●保育支援
●障害のある学生に対する支援

センターの職員

センター長、教員、臨床心理士、事務職員(学生支援事務室)

学生支援制度

学生寮

千葉県市川市の国府台地区には、主に遠方から本学に入学される方のために、大学敷地内に学生寄宿舎（男子寮収容定員70名）及び国際学生宿舎（女子寮収容人員50名）を備えています。
詳細は以下のとおりです。

名称	里見寮（男子寮）	国際学生宿舎（女子寮）
募集人員	25名程度（例年実績）	30名程度（例年実績）
設置	1963年（2010年3月全面改修）	1994年6月
設備	鉄筋コンクリート4階建（個室 約6畳）	
入居時期	4月1日以降	
入居期間	原則2年以内	原則1年以内
寄宿料	月額17,800円（光熱水費は別途実費）	月額5,900円（水道費は別途実費）
その他費用	共通施設光熱水費の実費 ルームクリーニング代（初回引落時14,300円） その他消耗品 自治会費	共通施設光熱水費の実費 ルームクリーニング代（初回引落時14,300円） その他消耗品 居室の電気・ガス代は各自で業者と契約
居室	ユニットバストイレ、キッチン（IH）、冷蔵庫（冷凍室有）、エアコン、机付ベッド、椅子、クローゼット、下駄箱、LANシステム（無料）	ユニットバストイレ、キッチン（ガス）、冷蔵庫（ホテルサイズ）、エアコン、机、椅子、ベッド、マットレス、クローゼット、下駄箱、LANシステム（有料）
共同施設	談話室、ランドリー室、共同浴場	多目的室（テレビ付）、共同キッチン、コインランドリー（有料）
選考について	必要書類を期限までに提出	必要書類を期限までに提出

男子寮入口

女子寮ロビー

女子寮入口

経済支援制度

・修学支援新制度による入学科免除・授業料免除
日本学生支援機構の給付型奨学金の（区分第一～第三）により入学料・授業料が減免される制度がございます。

・大学独自の入学料免除
入学前1年以内に学費負担者が死亡または風水害等の災害を受けた場合、学長が相当と認める事由がある場合には、選考の上、入学料が免除されることがあります。

・大学独自の授業料免除
経済的理由により納付が困難であり、かつ学業が優秀であると認められる場合または入学料免除と同等の理由がある場合には、選考の上、授業料が免除されることがあります。

・日本学生支援機構奨学金
人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資の支弁が困難であると認められた者に対して、奨学金の給付あるいは、第一種奨学金（無利子）または第二種奨学金（有利子）の学資が貸与されます。

上記以外にも、入学料、授業料徴収猶予制度や地方公共団体、民間団体等の奨学制度もあります。

■ 受験、入学から卒業までに必要な経費

本学を受験、入学、卒業するまでの経費を概算で示しています。

A 入学前に必要な経費（2023年度入学者実績）

項目		医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
検定料		17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000
入学料		282,000	282,000	282,000	282,000	282,000	282,000
血液検査		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
TOEFL／ITP受験料		4,040	11,720	11,720	7,880	11,720	11,720
実験器具（ピペット）購入費用				30,000			
包括臨床実験・総合学習関連費用					10,000		
学生教育研究災害傷害保険料		4,800	3,370	3,370	4,800	3,370	3,370
医学生教育研究賠償責任保険料			2,000	2,000	3,000	2,000	2,000
歯学部災害時対策委員会非常時食料購入費用					3,000	3,000	3,000
自治会納付金		6,000	4,000	4,000	6,000	4,000	4,000
学友会	入会金	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	会費	30,600	20,400	20,400	30,600	20,400	20,400
	体育祭費	4,200	2,800	2,800	4,200	2,800	2,800
	文化祭費	9,000	6,000	6,000	9,000	6,000	6,000
同窓会費		50,000	45,000	40,000	50,000	9,000	21,000
合計		415,640	402,290	427,290	435,480	369,290	381,290

B 入学後、各学年において必要な経費
（合計金額のみ表示しています。目安としてご参照ください。）

学年	医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
1	924,960	916,960	919,460	911,960	900,960	883,960
2	835,960	753,960	712,960	825,960	772,465	933,690
3	752,960	702,960	667,960	818,960	684,560	675,560
4	778,960	702,660	720,960	1,087,960	740,960	694,960
5	737,960			807,960		
6	793,260			736,860		
合計	4,824,060	3,076,540	3,021,340	5,189,660	3,098,945	3,188,170

総計（A＋B）	5,239,700	3,478,830	3,448,630	5,625,140	3,468,235	3,569,460

※金額には授業料年額（642,960円）、教科書代等を含む。また、1年次はパソコン代（184,000円、2023年実績）を含む。

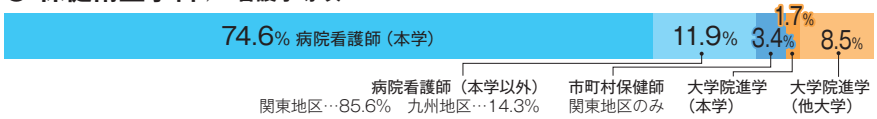
進路・就職

卒業後の進路（2022 年度卒業生）

● 医学科

卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士（医学）
資格：医師国家試験受験資格

● 保健衛生学科 ／ 看護学専攻



卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士（看護学）
資格：看護師国家試験受験資格
保健師国家試験受験資格（選択制）
保健師免許取得者：養護教諭普通免許（二種）

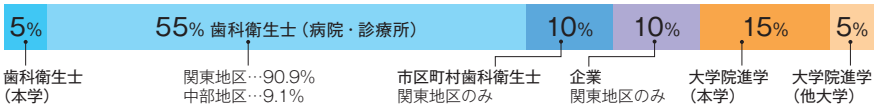
● 保健衛生学科 ／ 検査技術学専攻

卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士（保健学）
資格：臨床検査技師国家試験受験資格

● 歯学科

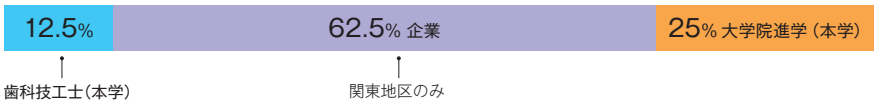
卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士（歯学）
資格：歯科医師国家試験受験資格

● 口腔保健学科 ／ 口腔保健衛生学専攻



卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士（口腔保健学）
資格：歯科衛生士国家試験受験資格

● 口腔保健学科 ／ 口腔保健工学専攻



卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士（口腔保健学）
資格：歯科技工士国家試験受験資格

卒業生アンケート

東京医科歯科大を卒業して良かったと思う理由（抜粋）

医学部

医学科
- 臨床、教育、研究の全てハイレベルである。
- 優秀な同期の仲間が何よりの財産と思います。
- 学部教育や留学経験は他大学と比較して充実しており、それが臨床にかなりいかせていると思う。
- 人脈が豊富で、尊敬できる先輩方に恵まれました。
- 医科歯科大学医局と関連病院で教育研修したおかげで今日の自分がある。
- 開院の時、病院への患者紹介、同窓会など、横の連携がうまくいった。

保健衛生学科看護学専攻
- 現在も研究活動を共にしている恩師に出会えたから。
- 看護師の資格だけなら他でも取ることが可能だが、幅広い医療を学べたと思う。看護技術は就職してからでも良いが、「考え方」は在学中に、学んだものが大きい。
- 第一線の教授や、活躍する仲間と共に学べたことが生きている。
- 同窓生に優秀な方が多く、仕事上での関連があったのがよかった。

保健衛生学科検査技術学専攻
- レベルが高い。大学院進学も多く、院進により就職後の常勤試験に有利となった。
- 製薬企業に勤めていますが、学生時代の幅広い知識が後々、役に立っています。
- 卒後 10 年経つが、今もなお同級生が頼もしい。大学院生として大学に戻った際とてもお世話になった。

歯学部

歯学科
- 歯学に関する最高の教育を受けられた。卒後も優秀な先生たちにいろいろ指導を受け、独り立ちしてからも患者さん本位の正しい治療を続けてこれた。
- 教育熱心な先生の指導を受けることができました。また、医学部の先生や学生との指導や交流もよかったと思います。
- 母校の名を汚してならないという思いが、自分の仕事や自己研鑽へのモチベーションになっています。
- 国内での学術研究においてトップだから。

口腔保健学科口腔保健衛生学専攻
- 大学時代の学びや海外研修、その他の研修で得た経験や人との関係が今の業務やモチベーションに繋がっていると強く感じるため。
- 同級生、同窓生の繋がりにより、多種多様な情報が提供されていること。
- 指導教官に恵まれ、高度な水準の教育を受けられたから。

口腔保健学科口腔保健工学専攻
- 少人数で手厚い指導が受けられた。高い知名度は技工士として業務をする現在のモチベーションの一つでもある。
- 先生や同期との距離が近く、現在も学んだ知識が活かされているため。
- 技工に関することだけでなく、幅広く学べたので、就職選択肢が広がったと思ったからです。

入試情報

アドミッション・ポリシー

《求める学生像》

東京医科歯科大学は、本学の基本理念に共感し、本学で学ぶという強い意志をもった多様な人材を国内各地のみならず世界各国から受け入れたいと考えています。

本学の使命は、研究者・医療人のリーダーを育て、広く社会・人類に貢献する人材を育成することです。それを実現するためには、幅広い教養と知識や、医療・生命科学への旺盛な好奇心のもと、問題を発見し、解決していく能力が必要となります。

また、本学に入学し培われた経験は、日本国内のみならず、世界に発信していかなければなりません。そのためには、国内外に幅広く目を向け、医療・社会に貢献・還元するという使命感を在学中から意識し、卒業後に実践していく能力が必要です。

このように、本学で学ぶために必要な基礎学力と、それをさらに発展させる力、自ら考え学習する能力と、それを生涯にわたって継続する力と意志、年齢相応の成熟度を備え、社会に貢献するために必要な倫理観およびこれから伸びる力を有している人材を求めます。

《入学試験の基本方針》

本学の入学試験では、学力検査などにより、高等学校において修得すべき知識・技能と、それらを基にした応用力・展開力を評価します。

面接および提出書類により、医療に従事する者としての資質および適性、医療・生命科学領域に対する強い関心をもち、それらの将来的な課題に対し、自ら考え解決しようとする力およびこれまでの主体性をもった取り組み（高等学校等在籍時の自己の活動、国際感覚に優れる活動など）を評価します。

試験の種類

学部学科及び募集人員

東京医科歯科大学では「一般選抜」と「特別選抜」を行っています。「一般選抜」は、大学入学共通テストと分離分割方式（前期日程・後期日程）で行われる個別学力検査を実施します。「特別選抜」は、地域特別枠推薦選抜（医学部医学科）、特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）、特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）、特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）、私費外国人留学生特別選抜があります。

その他に、2年次学士編入学試験（医学科）、2年次編入学試験（口腔保健学科口腔保健工学専攻）があります。

学部学科			募集人員内訳						
			一般選抜（前期日程）	一般選抜（後期日程）	地域特別枠推薦選抜	特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）	特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）	特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）	私費外国人留学生特別選抜
医学部	医学科		69名	10名	15名	5名	2名	若干名	若干名
	保健衛生学科	看護学専攻	35名	－	－	20名	若干名	－	若干名
		検査技術学専攻	20名	7名	－	8名	若干名	若干名	若干名
	小計		124名	17名	15名	33名	－	－	－
歯学部	歯学科		33名	10名	－	10名	若干名	若干名	若干名
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	20名	－	－	2名	若干名	－	若干名
		口腔保健工学専攻	8名	－	－	2名	若干名	－	若干名
	小計		61名	10名	－	14名	－	－	－
合計			185名	27名	15名	47名	－	－	－

（注）1．地域特別枠推薦選抜の15名（茨城県5名、長野県5名、埼玉県5名　認可申請予定）は、都道府県の策定する地域医療再生計画に基づく地域の医師確保に係る修学資金を活用した入学定員である。　2．特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）の募集人員の中には、医学部医学科を除き、特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）の募集人員を含む。合格者又は入学手続者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を一般選抜（前期日程）の募集人員に加える。　3．一般選抜（前期日程）の募集人員の中には、特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）の募集人員を含む。4．入学定員の中には、私費外国人留学生特別選抜の募集人員を含む。　5．入学後に他の学科又は同一学科内の他の専攻へ転籍することはできない。

入試日程　※入試日程等は変更になる可能性があります。詳細は各試験の学生募集要項を参照してください。

●大学入学共通テスト
試 験 日：2024年1月13日（土）／14日（日）

●一般選抜（前期日程）
試 験 日：2024年2月25日（日）／26日（月）
合格発表：2024年3月8日（金）

●一般選抜（後期日程）
試 験 日：2024年3月12日（火）／13日（水）
合格発表：2024年3月22日（金）

●地域特別枠推薦選抜（医学部医学科）
試 験 日：2023年11月27日（月）／29日（水）
合格発表：2023年12月15日（金）
※条件付合格として発表し、大学入学共通テストの成績を確認後、最終結果通知を送付する。

●特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）
試 験 日：2023年11月27日（月）／28日（火）
合格発表：2023年12月15日（金）
※医学部医学科、歯学部歯学科については条件付合格として発表し、大学入学共通テストの成績を確認後、最終結果通知を送付する。

●特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）
試 験 日：2023年11月27日（月）／28日（火）
合格発表：2023年12月15日（金）
※出願期間に「IB最終試験の成績証明書」を提出していない者については条件付合格として発表し、後日提出される「IB最終試験の成績証明書」を確認後、最終結果通知を送付する。

●特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）
試 験 日：2024年2月25日（日）／26日（月）
合格発表：2024年3月8日（金）

●私費外国人留学生特別選抜
（学力検査）2024年2月25日（日）
（面接試験）2024年3月13日（水）
合格発表：2024年3月22日（金）
※独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」・学力検査により第1段階選抜を実施し、第1段階選抜合格者に対し面接試験を実施する。

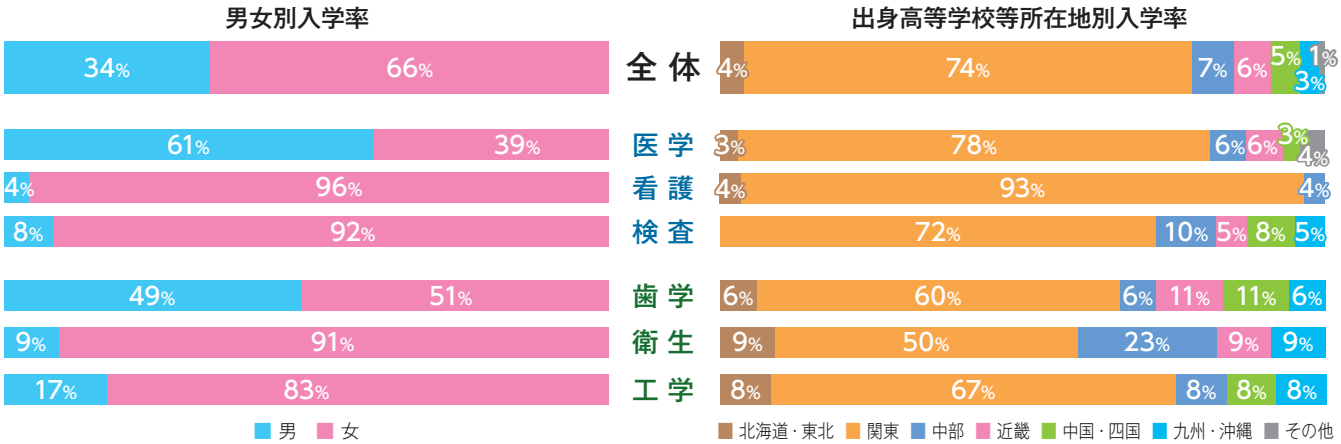
2023年度入学者選抜実施結果

学部・学科・専攻			選抜区分			募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
医学部	医学科		一般選抜	前期日程		69	308(123)	4.5	271(111)	78(26)	70(24)
				後期日程		10	204(62)	20.4	21(4)	13(2)	10(2)
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	5	32(19)	6.4	20(13)	4(2)	4(2)
					国際バカロレア選抜	2	16(10)	8.0	8(5)	2(1)	2(1)
				特別選抜Ⅱ	帰国生選抜	若干名	2(1)	-	0(0)	0(0)	0(0)
				地域特別枠推薦	茨城県枠 県内	2	4(0)	2.0	4(0)	1(0)	1(0)
					茨城県枠 全国	3	2(1)	0.7	2(1)	2(1)	2(1)
					長野県枠	5	9(4)	1.8	9(4)	3(1)	3(1)
					埼玉県枠	5	14(10)	2.8	10(8)	3(2)	3(2)
				私費外国人留学生特別選抜		若干名	15(8)	-	13(7)	0(0)	0(0)
			医学科　計			101	606(238)	6.0	358(153)	106(35)	95(33)
	保健衛生学科	看護学専攻	一般選抜	前期日程		35	72(69)	2.1	68(65)	37(36)	37(36)
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	20	60(59)	3.0	60(59)	20(19)	20(19)
					国際バカロレア選抜	若干名	1(1)	-	1(1)	0(0)	0(0)
				私費外国人留学生特別選抜		若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
			看護学専攻　計			55	133(129)	2.4	129(125)	57(55)	57(55)
		検査技術学専攻	一般選抜	前期日程		20	64(52)	3.2	54(44)	25(22)	25(22)
				後期日程		7	91(69)	13.0	31(22)	7(7)	6(6)
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	8	17(16)	2.1	17(16)	7(7)	7(7)
					国際バカロレア選抜	若干名	1(1)	-	1(1)	1(1)	1(1)
				特別選抜Ⅱ	帰国生選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
				私費外国人留学生特別選抜		若干名	2(1)	-	1(0)	0(0)	0(0)
			検査技術学専攻　計			35	175(139)	5.0	104(83)	40(37)	39(36)
		保健衛生学科　計				90	308(268)	3.4	233(208)	97(92)	96(91)
歯学部	歯学科		一般選抜	前期日程		33	111(43)	3.4	101(37)	36(16)	35(16)
				後期日程		15	123(52)	8.2	23(15)	18(12)	13(8)
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	5	19(10)	3.8	16(8)	5(3)	5(3)
					国際バカロレア選抜	若干名	2(1)	-	2(1)	0(0)	0(0)
				特別選抜Ⅱ	帰国生選抜	若干名	1(1)	-	1(1)	0(0)	0(0)
				私費外国人留学生特別選抜		若干名	10(5)	-	5(2)	0(0)	0(0)
			歯学科　計			53	266(112)	5.0	148(64)	59(31)	53(27)
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	一般選抜	前期日程		20	38(33)	1.9	34(29)	22(19)	20(18)
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	2	8(8)	4.0	8(8)	2(2)	2(2)
					国際バカロレア選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
				私費外国人留学生特別選抜		若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
			口腔保健衛生学専攻　計			22	46(41)	2.1	42(37)	24(21)	22(20)
		口腔保健工学専攻	一般選抜	前期日程		8	19(10)	2.4	17(10)	10(9)	8(7)
			特別選抜	特別選抜Ⅰ	学校推薦型選抜	2	2(2)	1.0	2(2)	2(2)	2(2)
					国際バカロレア選抜	若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
				私費外国人留学生特別選抜		若干名	0(0)	-	0(0)	0(0)	0(0)
			口腔保健工学専攻　計			10	21(12)	2.1	19(12)	12(11)	10(9)
		口腔保健学科　計				32	67(53)	2.1	61(49)	36(32)	32(29)
1年次　総合計						276	1,247(671)	4.5	800(474)	298(190)	276(180)

医学部	医学科		２年次学士編入学　＊			5	55(31)	11.0	55(31)	5(5)	5(5)
歯学部	口腔保健学科	口腔保健工学専攻	２年次編入学　＊＊			5	3(2)	0.6	3(2)	2(1)	2(1)
編入学　総合計						10	58(33)	5.8	58(33)	7(6)	7(6)

※（）の数字は、女子を内数で示す。　※合格者数には、追加合格者も含む　＊修業年限６年課程の２年次へ編入学　＊＊修業年限４年課程の２年次へ編入学

男女別 & 所在地別入学率



※ 小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないことがあります。

入学者の声

｜一般選抜｜

自分の視野を広げる機会が多く、将来医師になるために必要な環境や設備が充実しているところに魅力を感じ、本学を志望しました。受験においては、得意科目を伸ばすだけでなく苦手科目を底上げすることに力を注ぎました。本学で様々な経験を積み、臨床と研究の両方の視点を持った多角的で柔軟な医師になりたいと考えています。

医学部医学科
飛野 駿介

医科歯科を志望した理由は、東京工業大学との統合など常に先端を目指す姿勢や、志の高い仲間と共に学べることに魅力を感じたからです。二次試験の英語対策では、短時間で読み解いていく集中力と要約力をつけるために、過去問を繰り返し解きました。毎日ニュースを見て、情報に敏感になることは、小論文や面接の対策にもなりました。

医学部保健衛生学科
（看護学専攻）
松田 ゆり子

本学は医療系の学部が集まっているため、様々な専門分野の人たちとの連携が学べる学校であると思い志望しました。この専攻の試験では共通テストの割合が高いので、共通テストで高得点を取るために演習を重ねました。また、二次試験対策では時間を意識して解いていました。本学で高度な技術と幅広い視野を身に着け、今後の医療に貢献できる医療人になりたいです。

医学部保健衛生学科
（検査技術学専攻）
石井 佐和子

私が東京医科歯科大学を志望したのは国際性に富み、国内外でトップレベルの歯学科があるからです。受験勉強は精神的にもかなり辛かったですが、短い時間も無駄にせず有効活用して取り組みました。成果が出なくても諦めないことが大切だと思います。東京医科歯科大学は留学制度が充実しているので専門的な知識や技術を得た上で、患者さんに寄り添う歯科医師になりたいです。

歯学部歯学科
伊藤 まどか

東京医科歯科大学では、専門的な技術だけでなく医療従事者に必要とされる高い人間性やコミュニケーション力を身につけられるという点に魅力を感じて志望しました。英語の長文は慣れるまでに時間がかかるので早い時期から過去問を始めて対策していました。本校で他学科と関わりながら学び、幅広い分野で人々の健康の向上に貢献できるような医療人になりたいです。

歯学部口腔保健学科
（口腔保健衛生学専攻）
中村 果歩

私は視野を広く持ちコミュニケーション力を強みとした歯科技工士を目指すことのできる、国際性豊かで世界最高レベルを目指している点に惹かれ本学に志望させていただきました。実技試験という珍しい形式に戸惑いながらも必死に練習しました。今年からカリキュラムが大きく変化する中、人々の健康と幸せのために貢献できる医療人になるべく前進していきたいです。

歯学部口腔保健学科
（口腔保健工学専攻）
入江 咲綺

｜特別選抜Ⅰ｜

人々の病と心を癒す知識や技術を身につけ、医療分野の研究に貢献し、その成果を国際社会に還元できる環境があることから、私は東京医科歯科大学を志望しました。推薦入試は、自分がこれまでの人生で何を考え、今後の人生にどのように繋げていきたいかを考える良い機会となりました。大学では、医学を含めた幅広い知識や教養を学び、自分の視野や考え方を広めていきたいです。

医学部医学科
東 虎太郎

I chose to apply to TMDU for the multitude of opportunities for personal and academic growth that align with my passion for medicine and my aspiration to become a surgeon-scientist contributing to innovative therapies. Specifically, TMDU's research programs, active learning approach, and curriculum emphasizing global education captured my interest. Throughout the application process, I focused on self-analysis to evaluate my skills and experiences gained through the International Baccalaureate program. I also researched medical issues and cutting-edge medicine in preparation for the interview and entrance exam.

医学部医学科
**ヘイムス
エレイナ ユウカ**

看護師としての多様な知識と国際的な医療現場で通用する言語力を身につけたいと思い、本学を志望しました。また、他学科との合同授業があり、多面的な視点から物事を考える機会があることにも魅力を感じました。留学プログラムやワークショップなどに積極的に参加し、人と人の関りを大切にする教養豊かな看護師を目指したいです。

医学部保健衛生学科
（看護学専攻）
安達 怜奈

私は世界最高水準の研究力と、国内外問わず多様な進路の実現に必要な能力を養える豊富なプログラムに魅力を感じ、東京医科歯科大学を志望しました。今後は、臨床検査技師としての十分な知識や技術を習得するとともに、再生医療の分野で国際的に活躍できる研究者を目指して短期留学やHSLPなどに積極的に参加し、広い視野と高い語学力を身につけたいです。

医学部保健衛生学科
（検査技術学専攻）
植田 真実

海外留学や研究実習が充実している点が魅力でした。志望理由書では経験をもとに自分らしさをアピールし、歯学分野の研究でどのような社会貢献ができるかについて自分の考えを示しました。入試本番は本学でなら研究職という自分の目標を達成できるとの思いを強く伝えました。専門分野を追究しつつ幅広い視野を持ち、世界で活躍できる知識とスキルを身に着けたいです。

歯学部歯学科
青野 美穂

多職種連携を学ぶ機会があることや、グローバル教育が充実していることに魅力を感じ、東京医科歯科大学を志望しました。入試対策では、自分のこれまでの活動を在学中や卒業後にどのように生かしていくのかを考え、提出書類の作成や面接対策を行いました。将来、歯科医療を支えることのできる医療従事者になれるよう、様々な経験を積んでいきたいです。

歯学部口腔保健学科
（口腔保健衛生学専攻）
川村 陽粋

資料請求・イベント

募集要項等のダウンロード方法

本学のホームページ(https://www.tmd.ac.jp/)にアクセス、または右側のQRコードを読み取る → トップページの「入学案内」→「学部入学案内」→「入試制度」より、各入試名をクリック →「募集要項PDFダウンロード」よりダウンロードして閲覧、印刷してください。入学者選抜要項は「入試制度」の「一般選抜」をクリックした先にてダウンロードできます。

※特別選抜Ⅰ(学校推薦型選抜、国際バカロレア選抜)、特別選抜Ⅱ(帰国生選抜)、地域特別枠推薦選抜、私費外国人留学生特別選抜学生募集要項は7月下旬、一般選抜学生募集要項は11月下旬に公開予定です。
※募集要項は紙媒体では作成しておりません。
※特別選抜Ⅰ・Ⅱ、地域特別枠推薦選抜、一般選抜においては、Web出願を導入しております。

紙媒体資料(入学者選抜要項、大学案内)の請求方法

本学のホームページ(https://www.tmd.ac.jp/)にアクセス → トップページの「入学案内」→「学部入学案内」→「資料請求」をクリックし、ご希望の方法により資料請求してください。

携帯電話・スマートフォンで請求する

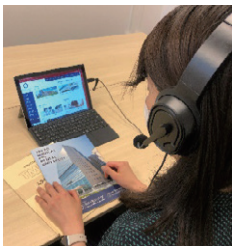
テレメールまたはモバっちょのサイトから請求してください。

テレメール　モバっちょ

イベント情報

本学のホームページ(https://www.tmd.ac.jp/)にアクセス → トップページの「入学案内」→「学部入学案内」→「イベント」をクリックし、最新情報をご確認ください。

オンライン個別進学相談



高校生、受験生、保護者の皆様、進路指導担当の先生をはじめ、本学の受験を検討されている方を対象にした相談会を定期的に行っています。本学入試課職員と1対1で相談ができます。お気軽にお申込みください。

※オンライン個別進学相談は「Zoom」を使用します。事前に「ミーティング用Zoomクライアント」をダウンロードして、ご使用になるPCやスマートフォン、タブレット端末へインストールしてください。

申込は
こちらから

本学公式 Twitter

大学Twitterでは、大学のニュース、研究成果、イベントなどの発信を行っています。また、入試課Twitterでは、入試関連の様々な情報を随時お届けしています。
どちらもぜひフォローをお願いします。

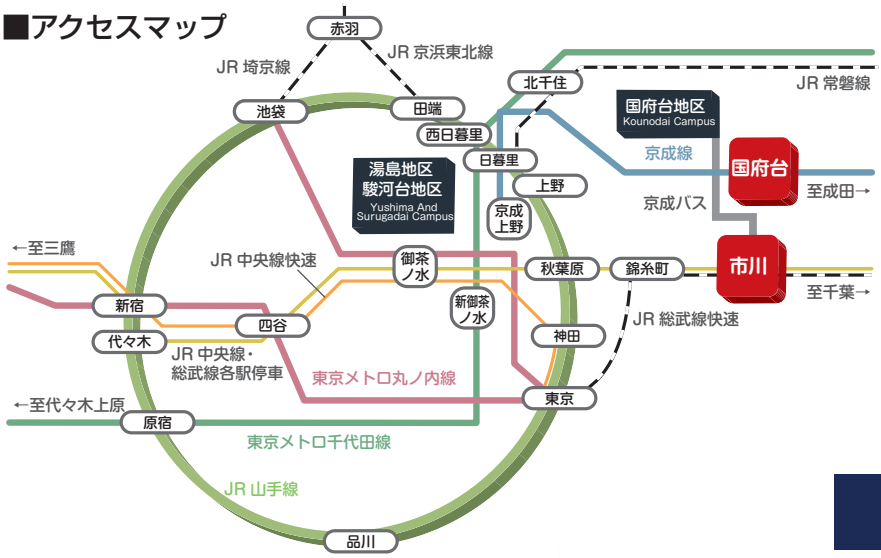
東京医科歯科大学
Twitter

東京医科歯科大学
入試課Twitter

国府台地区

全ての学生にとって最初の学舎となる教養部がおかれている国府台地区。
東京都に隣接する千葉県市川市にあり、湯島・駿河台地区にも約50分でアクセスできます。

■アクセスマップ

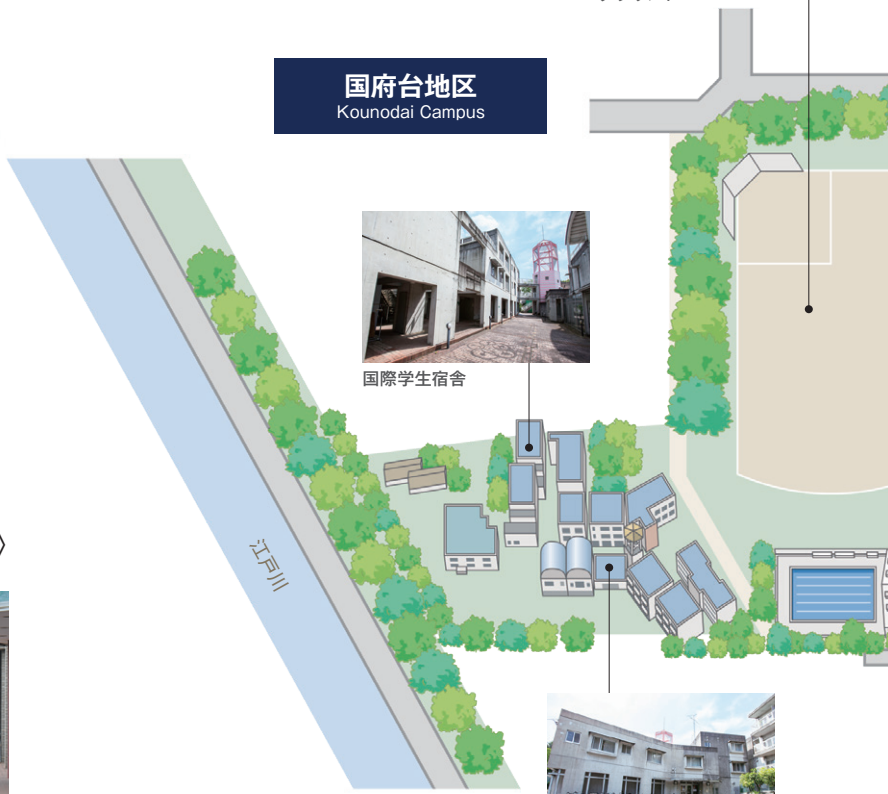


■ JR 総武線市川駅より京成バス 1 番乗り場
（松戸駅松戸営業所行）国府台病院下車…徒歩 2 分

■京成電鉄国府台駅より…徒歩 15 分
（または駅前バス停より上記バスに乗車）

グラウンド

国府台地区
Kounodai Campus



国際学生宿舎

国際交流会館

〈東京医科歯科大学教養部奨励賞 展示作品〉
（東京藝術大学　卒業制作作品）

「起源」

「鳴くこと」

「cyclops」

「時の記憶」

沿革と今

緑豊かなキャンパスで全学生がともに学び、サークル活動を楽しむ

国府台地区は、江戸川を挟んで東京に隣接する千葉県市川市、下総台地の西端にあたる高台に位置します。国府台の地名は、大化の改新によってできた新政府により、この高台に下総の国府がおかれたことに由来します。この地域が昔から交通の要所であったためです。室町時代には現在の里見公園北側に国府台城が作られ、江戸時代になると、国府台一帯は、曹洞宗の寺院の総支配権を持つ総寧寺の広大な寺域となりました。明治になって国立大学の候補地になりましたが計画は立ち消えとなり、その後、軍の施設がおかれるようになります。戦後、その跡地が文教地区となってよみがえり、現在の姿になりました。

教養部の前身は旧制大学の予科ですが、その後、紆余曲折を経て、教養部として大学の分院のあったこの国府台に設置されました。以来、国府台地区は東京医科歯科大学の教養教育の拠点となるとともに、体育館、弓道場、武道館、グラウンドがおかれ、学生の課外活動の中心ともなっていきます。

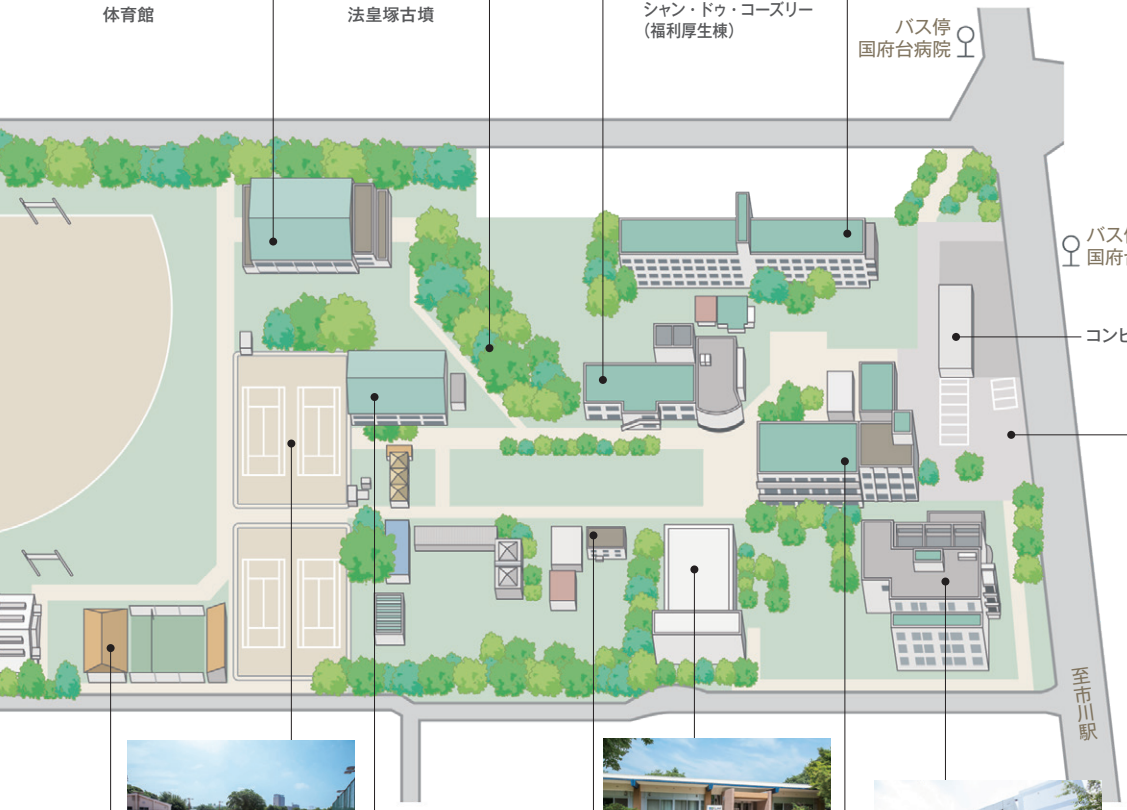
約６万㎡の緑豊かなキャンパスには、法皇塚古墳があります。大学キャンパス内に古墳のある大学も珍しいのですが、これもこの地域が歴史的に重要な地域だったことを示しています。また、豊かな感性を身につけてもらうために、キャンパス内には絵画や彫刻作品を展示しています。これらは東京藝術大学の卒業制作作品を借り上げたものです。このような環境で、学生は大いに学び、サークル活動等を通じてお互いの交流を深めながら、充実した毎日の中で将来への夢を育みます。

体育館

法皇塚古墳

シャン・ドゥ・コーズリー（福利厚生棟）

学生寄宿舎（里見寮）



正門

テニスコート

武道館

図書館 国府台分館

ヒポクラテスホール（校舎棟）

弓道場

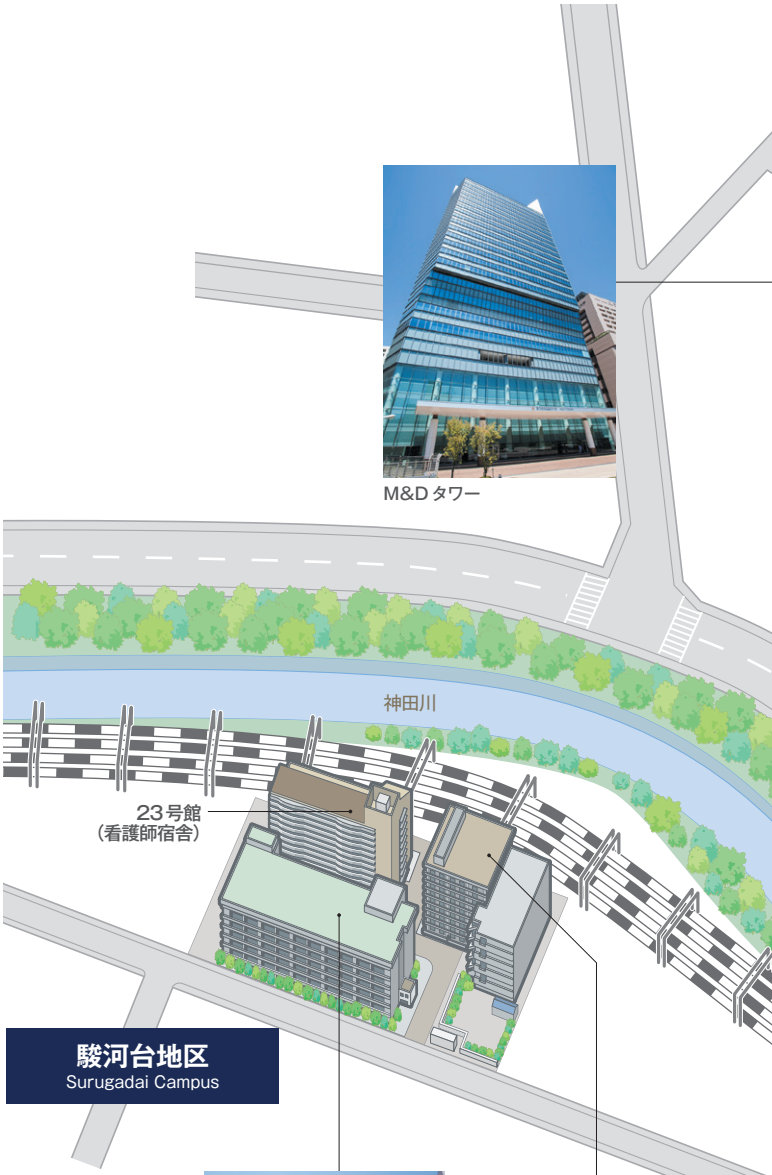
合宿研修所

管理研究棟

湯島地区・駿河台地区

東京都心の歴史ある地域に広がる湯島・駿河台地区。
研究棟や大学病院が建ち並ぶキャンパスで、
高度な知識と技術を持つ医療人を育成するための専門教育が行われます。

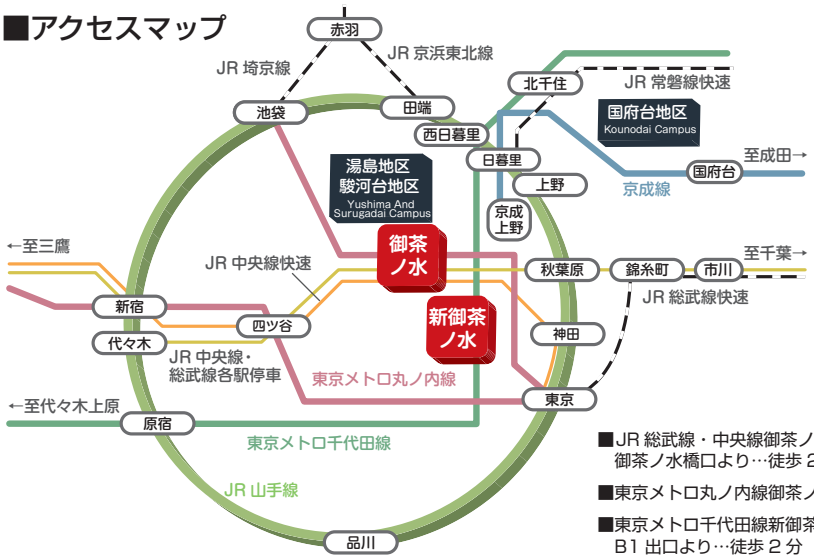
M&D タワー



21号館

22号館

■アクセスマップ



■JR 総武線・中央線御茶ノ水駅
御茶ノ水橋口より…徒歩 2 分

■東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅下車すぐ

■東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅
B1 出口より…徒歩 2 分

3号館

A棟・B棟

D棟

5号館

2号館

1号館西

7号館

10号館

知と癒しの庭

C棟

国立大学法人
東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45
統合教育機構入試課

東京医科歯科大学入学案内サイト
https://www.tmd.ac.jp/admissions/